

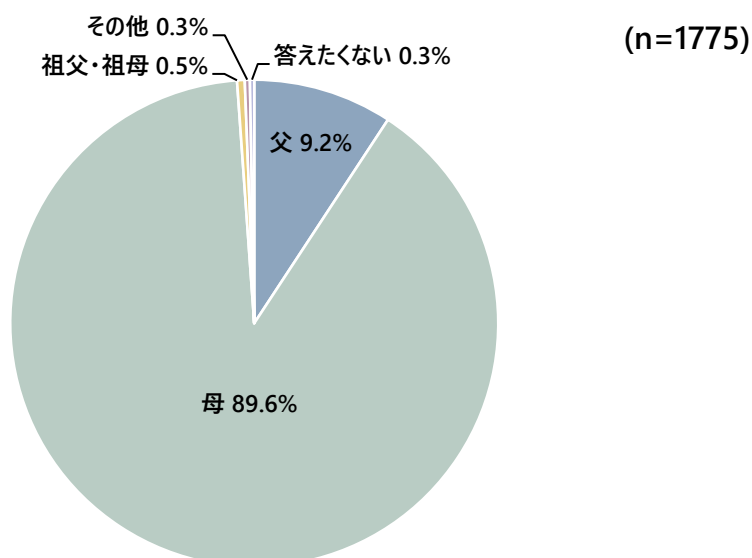
4. 保護者向けアンケート調査結果

■回答者について

(1)続柄

生徒との続柄を尋ねたところ、「母」の割合が最も高く 89.6%である。次いで、「父 (9.2%)」、「祖父・祖母 (0.5%)」である。

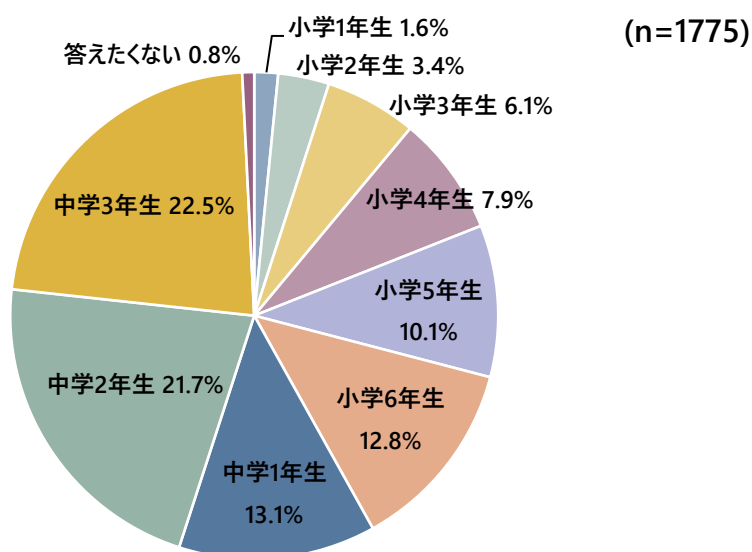
図表 174 続柄



(2)子供の学年

子供の学年を尋ねたところ、「中学3年生」の割合が最も高く 22.5%である。次いで、「中学2年生 (21.7%)」、「中学1年生 (13.1%)」である。

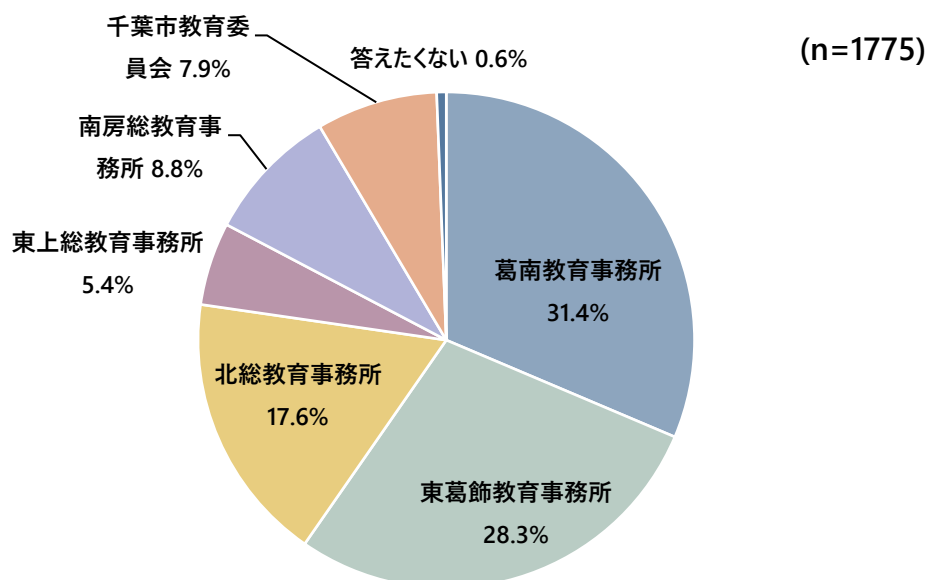
図表 175 子供の学年



(3) 居住する市町村(管轄する教育事務所)

居住する市町村を尋ね、管轄する教育事務所別に割合を算出した。その分布は以下の通りである。

図表 176 居住する市町村(管轄する教育事務所)



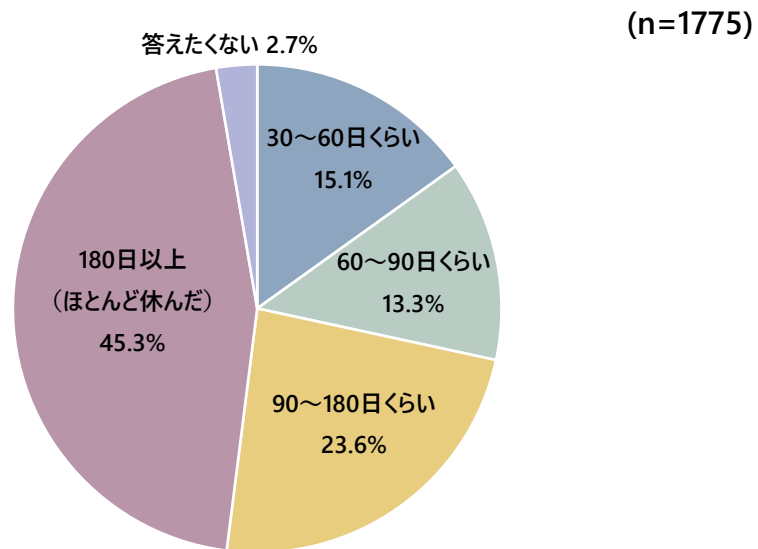
■子供の不登校の状況

(4)令和4年度学校を休んだ日数

①全体

令和4年度にお子さんが学校を休んだ日数を尋ねたところ、「180日以上（ほとんど休んだ）」の割合が最も高く45.3%である。次いで、「90～180日くらい（23.6%）」、「30～60日くらい（15.1%）」である。

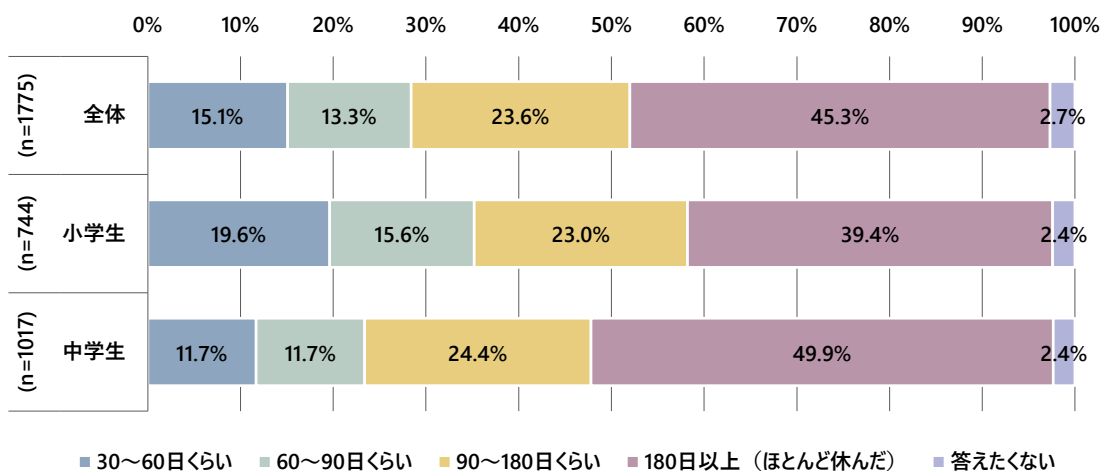
図表 177 令和4年度学校を休んだ日数



②学校種別

学校種別にみると、中学生において、「90～180日くらい」「180日以上（ほとんど休んだ）」と回答した割合が高いなど、休んだ日数が多い傾向がみられる。

図表 178 令和4年度学校を休んだ日数(学校種別)

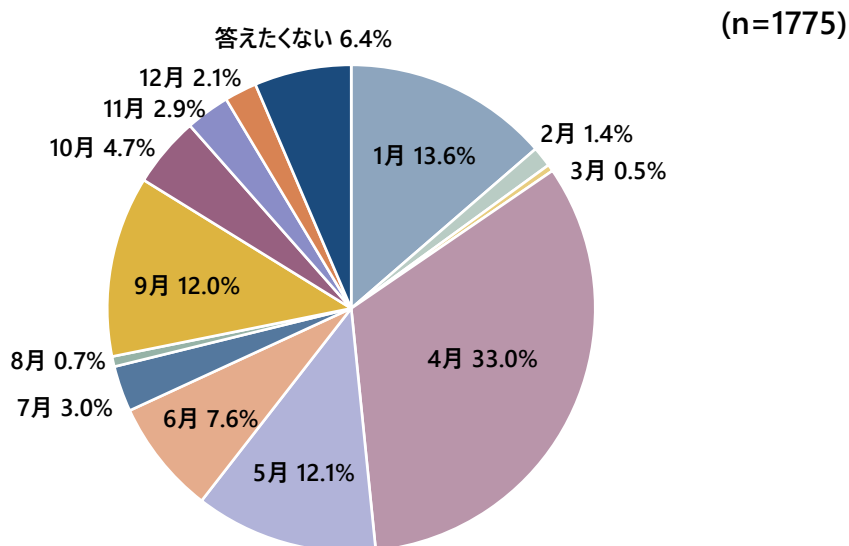


(5)令和4年度学校を休み始めたタイミング

①全体

令和4年度にお子さんが学校を休み始めたタイミングを尋ねたところ、「4月」の割合が最も高く33.0%である。次いで、「1月(13.6%)」、「5月(12.1%)」である。

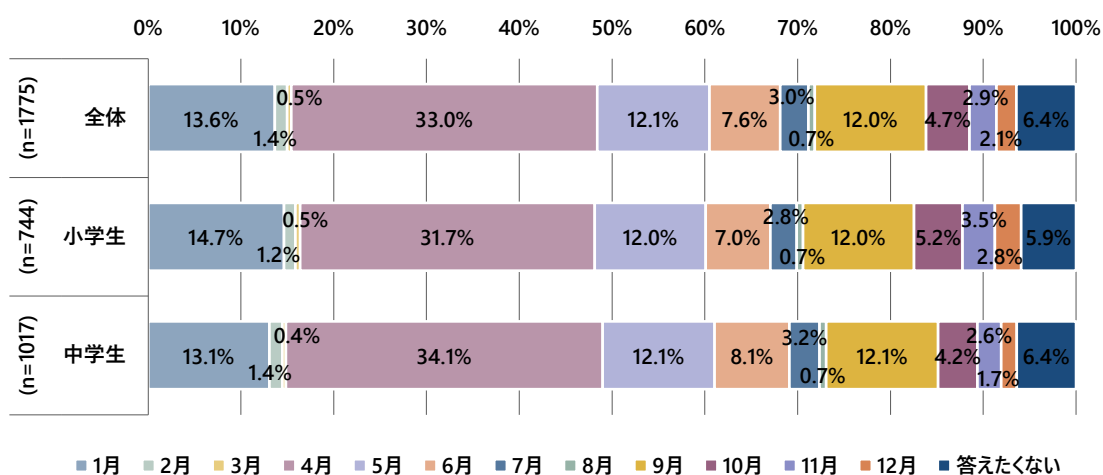
図表 179 令和4年度学校を休み始めたタイミング



②学校種別

学校種別にみると、特段の傾向の差は見られなかった。

図表 180 令和4年度学校を休み始めたタイミング(学校種別)

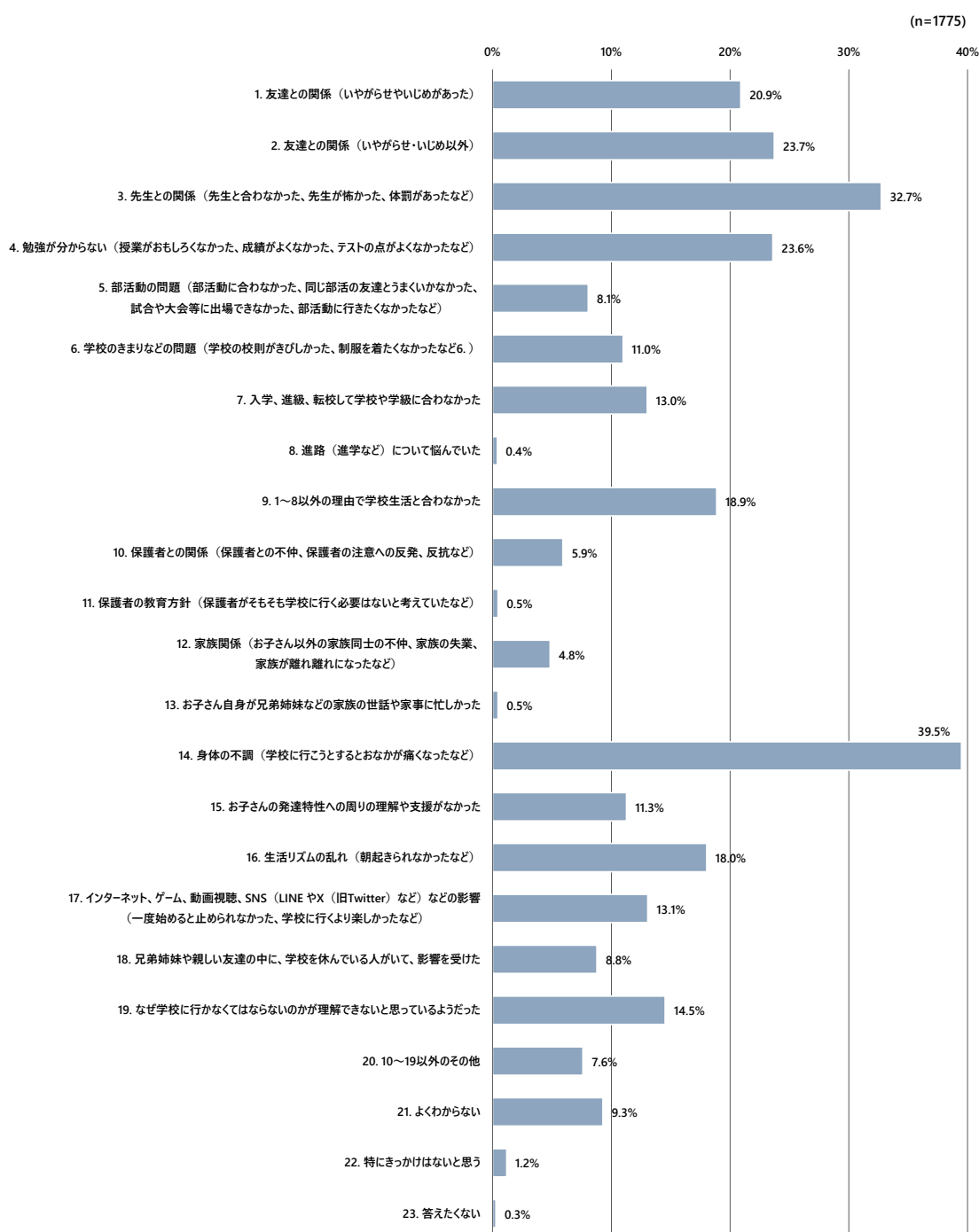


(6)一番最初に学校を休むようになった(休みがちになった)事と関係があると思うこと

①全体

一番最初に学校を休むようになった(休みがちになった)事と関係があると思うことを尋ねたところ、「14. 身体の不調(学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど)」の割合が最も高く39.5%である。次いで、「3. 先生との関係(先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど)(32.7%)」、「2. 友達との関係(いやがらせ・いじめ以外)(23.7%)」である。

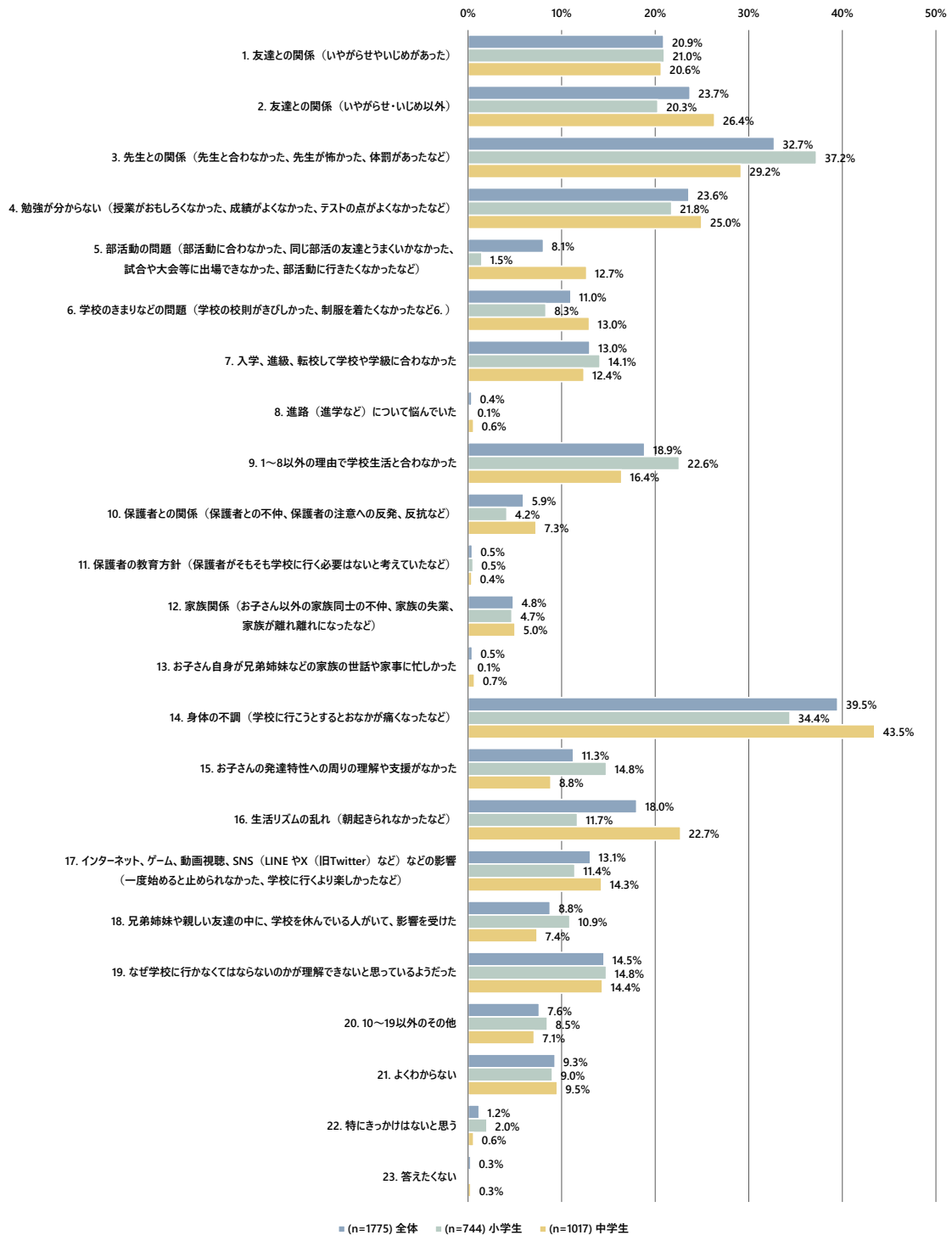
図表 181 一番最初に学校を休むようになった(休みがちになった)事と関係があると思うこと



②学校種別

学校種別にみると、小学生は「3. 先生との関係」「15. お子さんの発達特性への周りの理解や支援がなかった」、中学生は「2. 友達との関係」「5. 部活動の問題」「6. 学校のきまりなどの問題」「14. 身体の不調」「16. 生活リズムの乱れ」と回答した割合が高い傾向がみられる。

図表 182 一番最初に学校を休むようになった(休みがちになった)事と関係があると思うこと(学校種別)

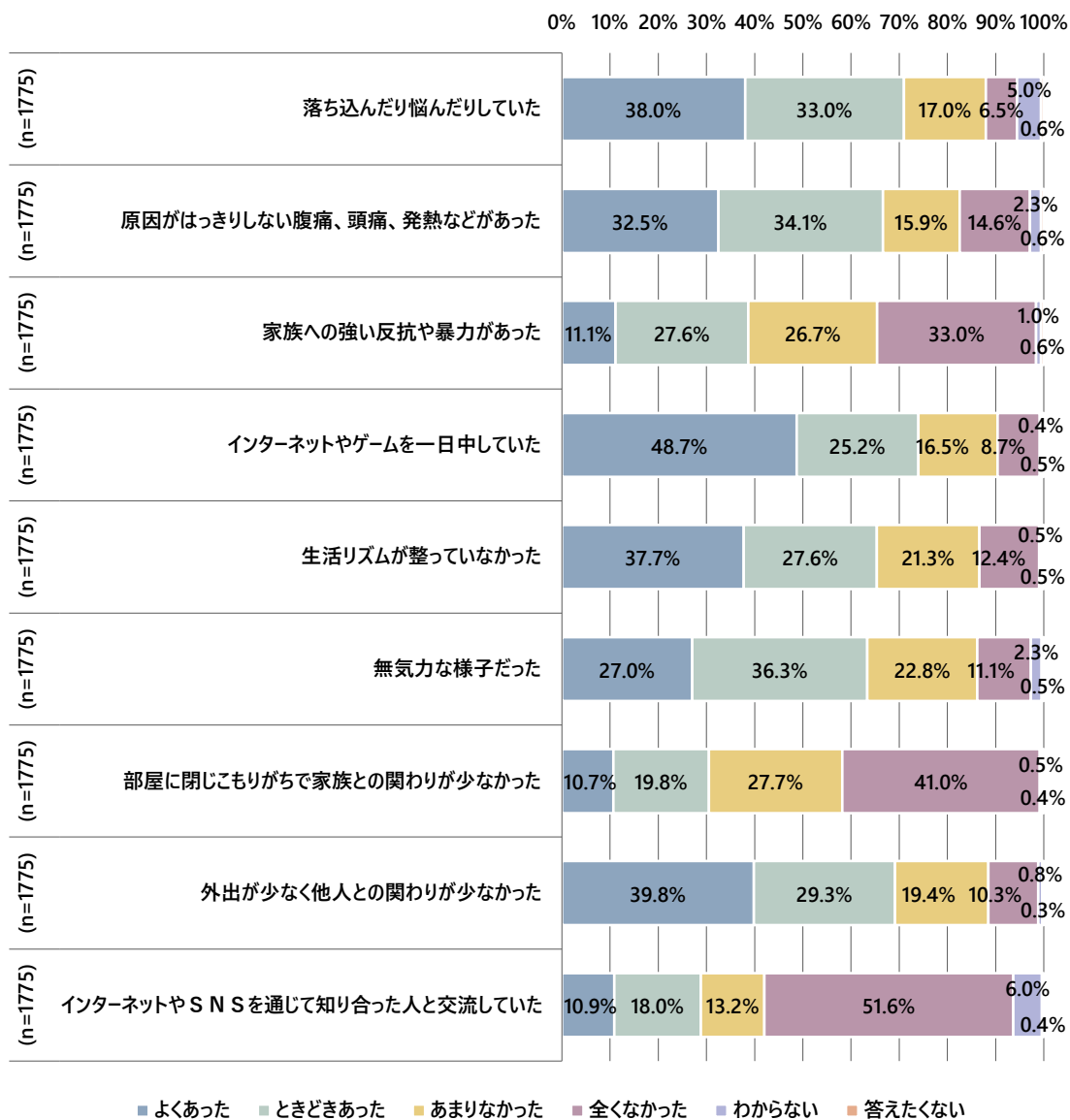


(7)学校を休んでいるときの子供の様子

①全体

学校を休んでいるときの子供の様子を尋ねた。「よくあった」と「ときどきあった」の割合の合計に着目すると、「インターネットやゲームを一日中していた」における割合が最も高く 73.9%である。次いで、「落ち込んだり悩んだりしていた (71.0%)」、「外出が少なく他人との関わりが少なかった (69.1%)」である。

図表 183 学校を休んでいる時の子供の様子

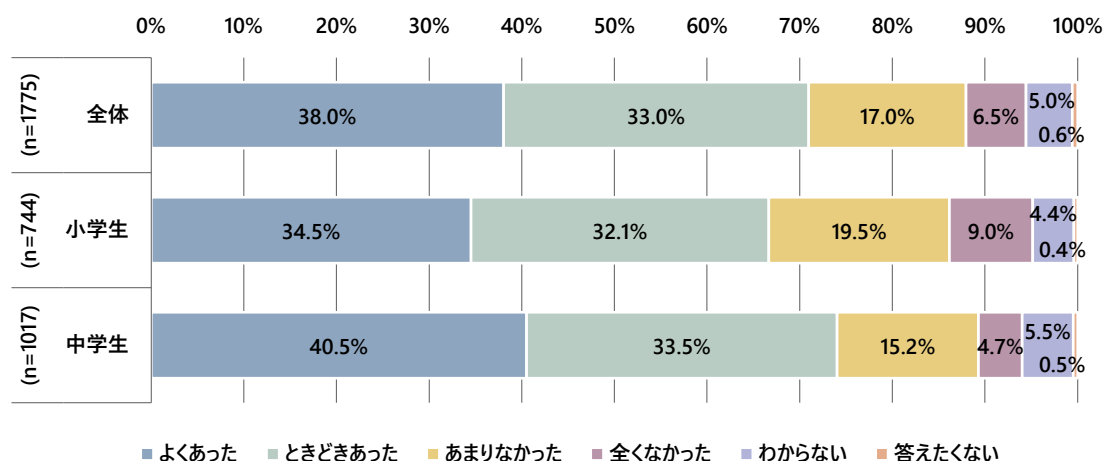


②学校種別

1)落ち込んだり悩んだりしていた

学校種別にみると、中学生において「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

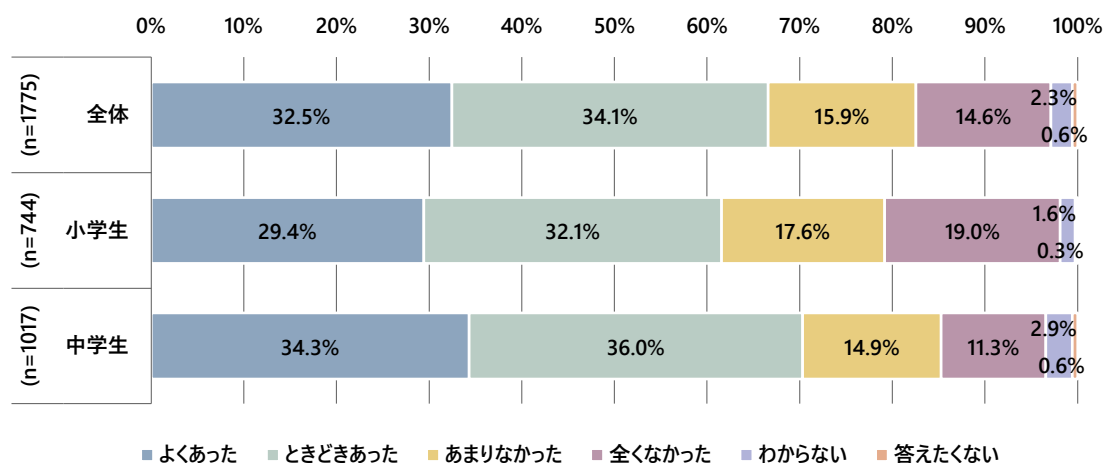
図表 184 学校を休んでいる時の子供の様子(落ち込んだり悩んだりしていた)(学校種別)



2)原因がはっきりしない腹痛、頭痛、発熱などがあった

学校種別にみると、中学生において「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

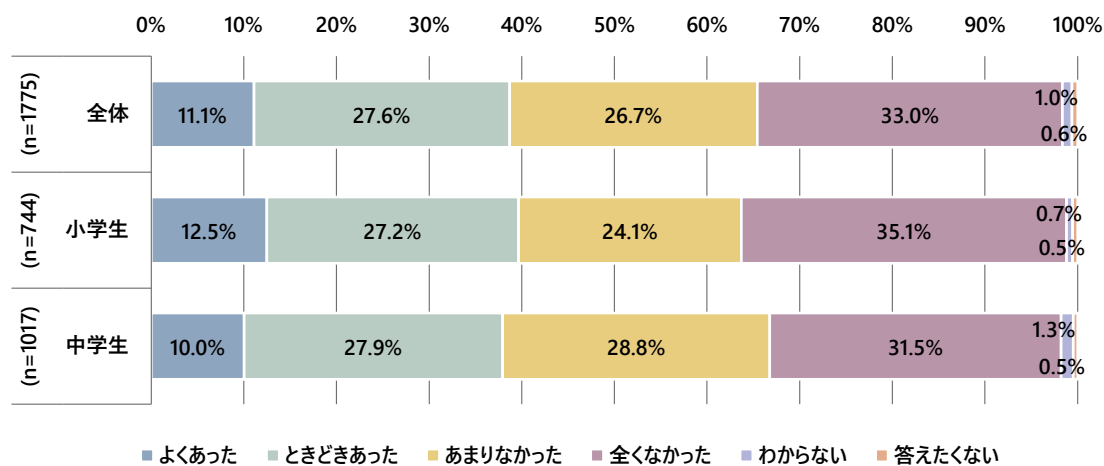
図表 185 学校を休んでいる時の子供の様子
(原因がはっきりしない腹痛、頭痛、発熱などがあった)(学校種別)



3) 家族への強い反抗や暴力があった

学校種別にみると、特段の傾向の差はみられなかった。

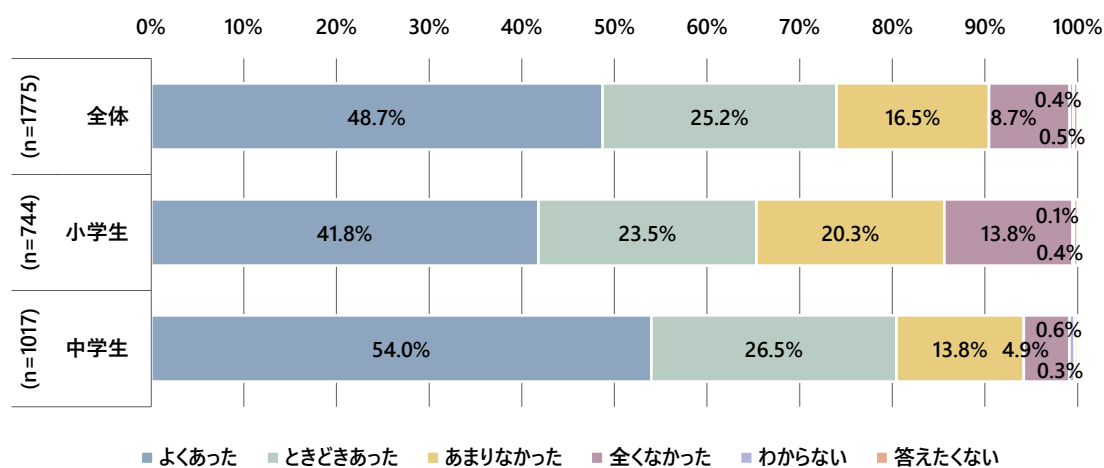
図表 186 学校を休んでいる時の子供の様子(家族への強い反抗や暴力があった)(学校種別)



4) インターネットやゲームを一日中していた

学校種別にみると、中学生において「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

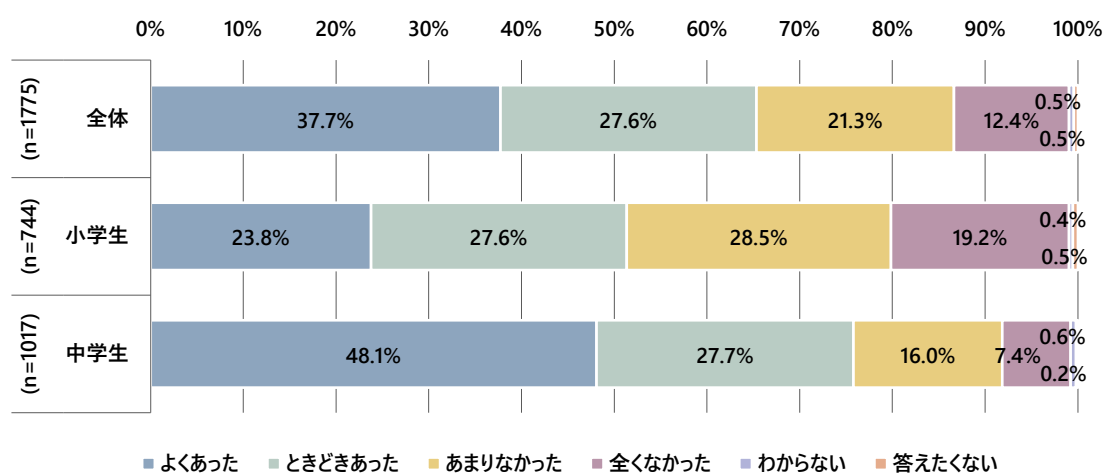
図表 187 学校を休んでいる時の子供の様子(インターネットやゲームを一日中していた)(学校種別)



5)生活リズムが整っていなかった

学校種別にみると、中学生において「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

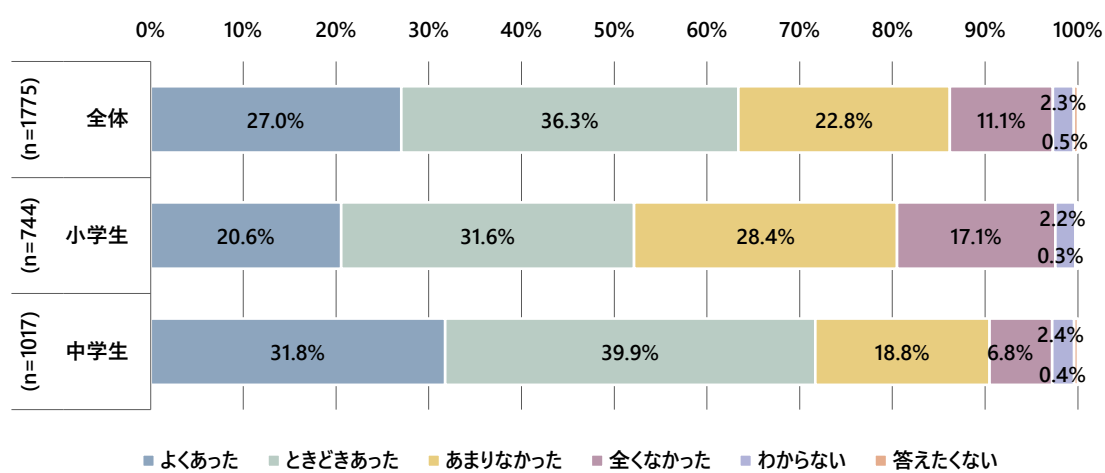
図表 188 学校を休んでいる時の子供の様子(生活リズムが整っていなかった)(学校種別)



6)無気力な様子だった

学校種別にみると、中学生において「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

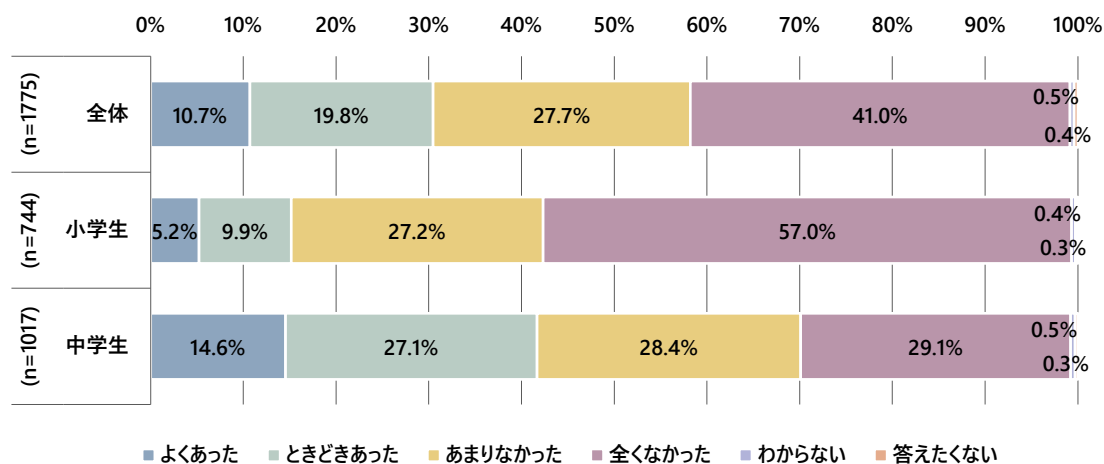
図表 189 学校を休んでいる時の子供の様子(無気力な様子だった)(学校種別)



7) 部屋に閉じこもりがちで家族との関わりが少なかった

学校種別にみると、中学生において「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

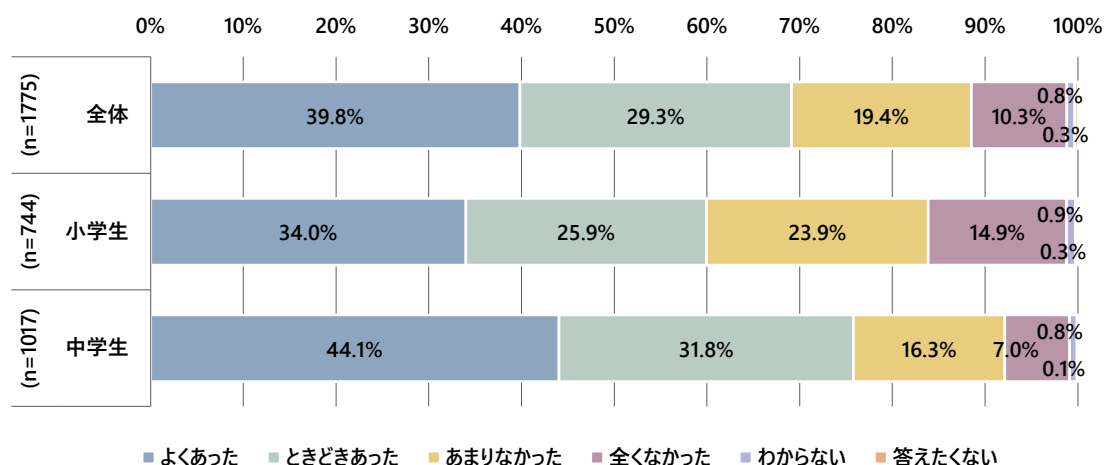
図表 190 学校を休んでいる時の子供の様子
(部屋に閉じこもりがちで家族との関わりが少なかった)(学校種別)



8) 外出が少なく他人との関わりが少なかった

学校種別にみると、中学生において「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

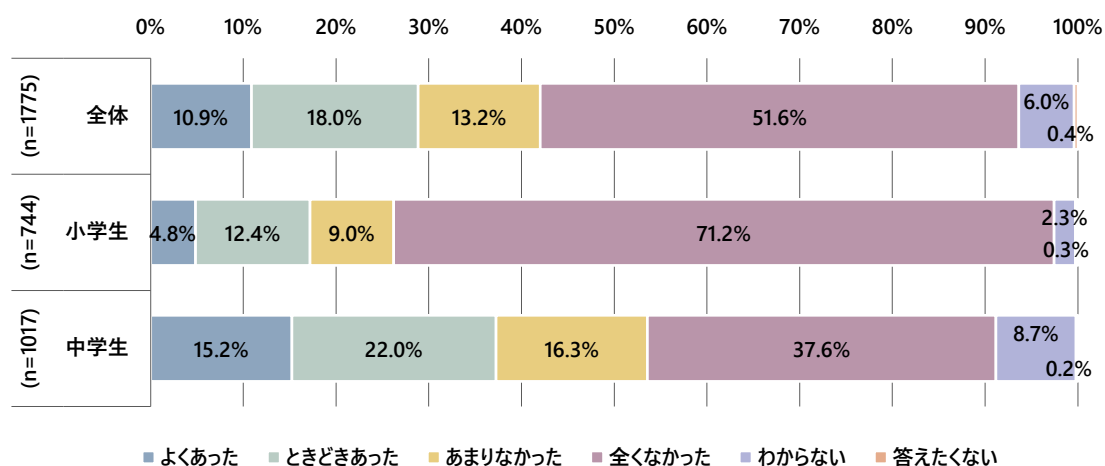
図表 191 学校を休んでいる時の子供の様子(外出が少なく他人との関わりが少なかった)(学校種別)



9)インターネットやSNSを通じて知り合った人と交流していた

学校種別にみると、中学生において「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

図表 192 学校を休んでいる時の子供の様子
(インターネットやSNSを通じて知り合った人と交流していた)(学校種別)

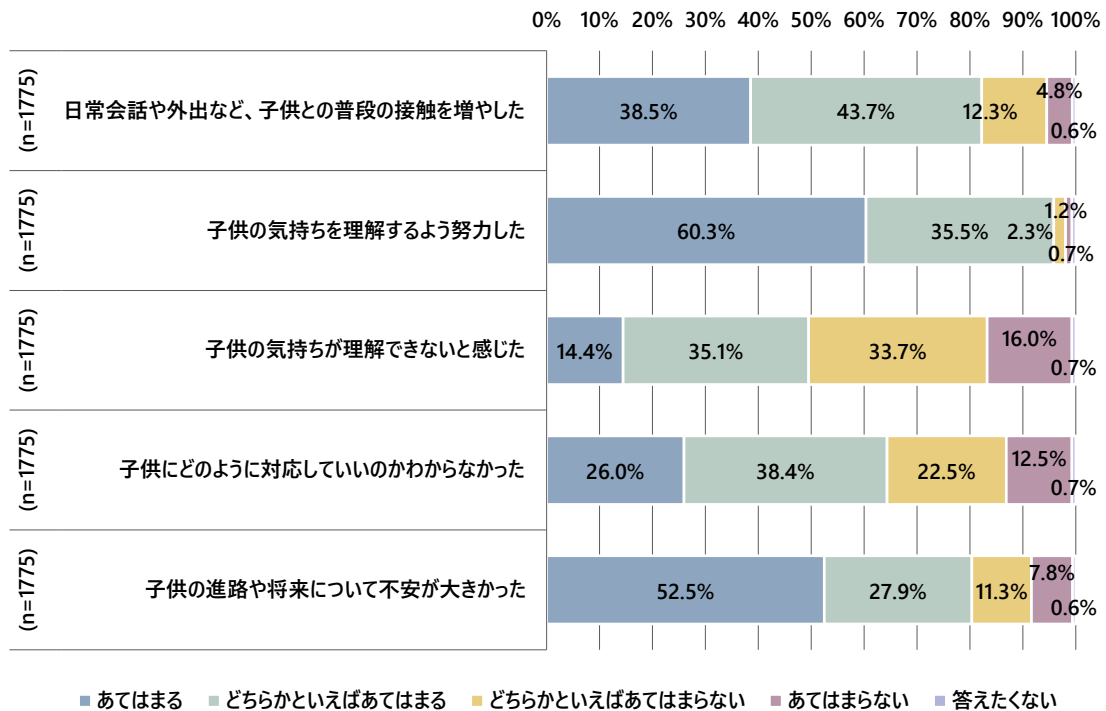


■子供との関わり方

(8)昨年度の子供とのかかわり

昨年度の子供とのかかわりを尋ねた。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計に着目すると、「子供の気持ちを理解するよう努力した」における割合が最も高く 95.8%である。次いで、「日常会話や外出など、子供との普段の接触を増やした (82.2%)」、「子供の進路や将来について不安が大きかった (80.4%)」である。

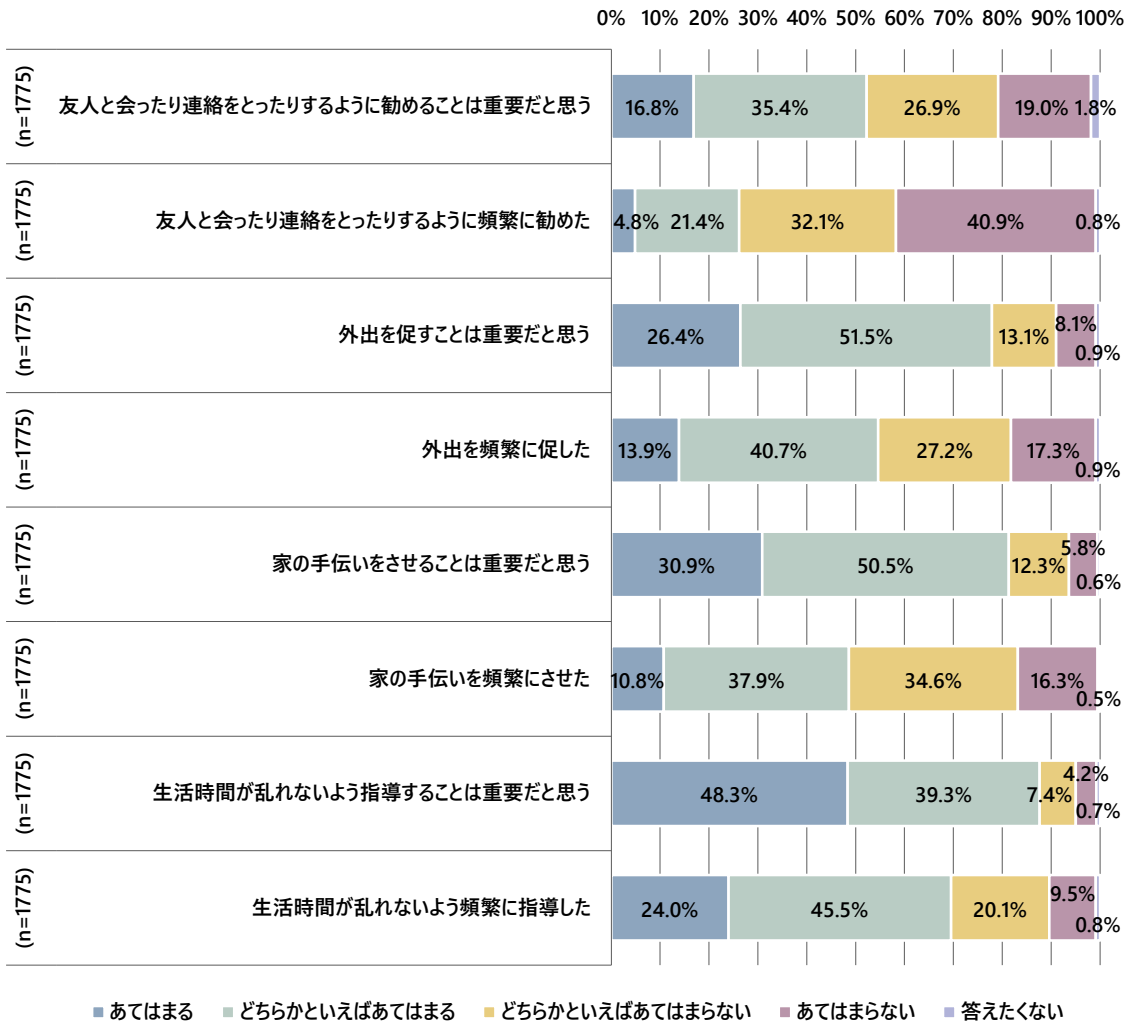
図表 193 昨年度(令和4年度)の子供とのかかわり



(9)昨年度の子供との普段の時間の過ごし方

昨年度の子供との普段の過ごし方を尋ねた。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計に着目すると、「生活時間が乱れないよう指導することは重要だと思う」における割合が最も高く 87.6%である。次いで、「家の手伝いをさせることは重要だと思う（81.4%）」、「外出を促すことは重要だと思う（77.9%）」である。

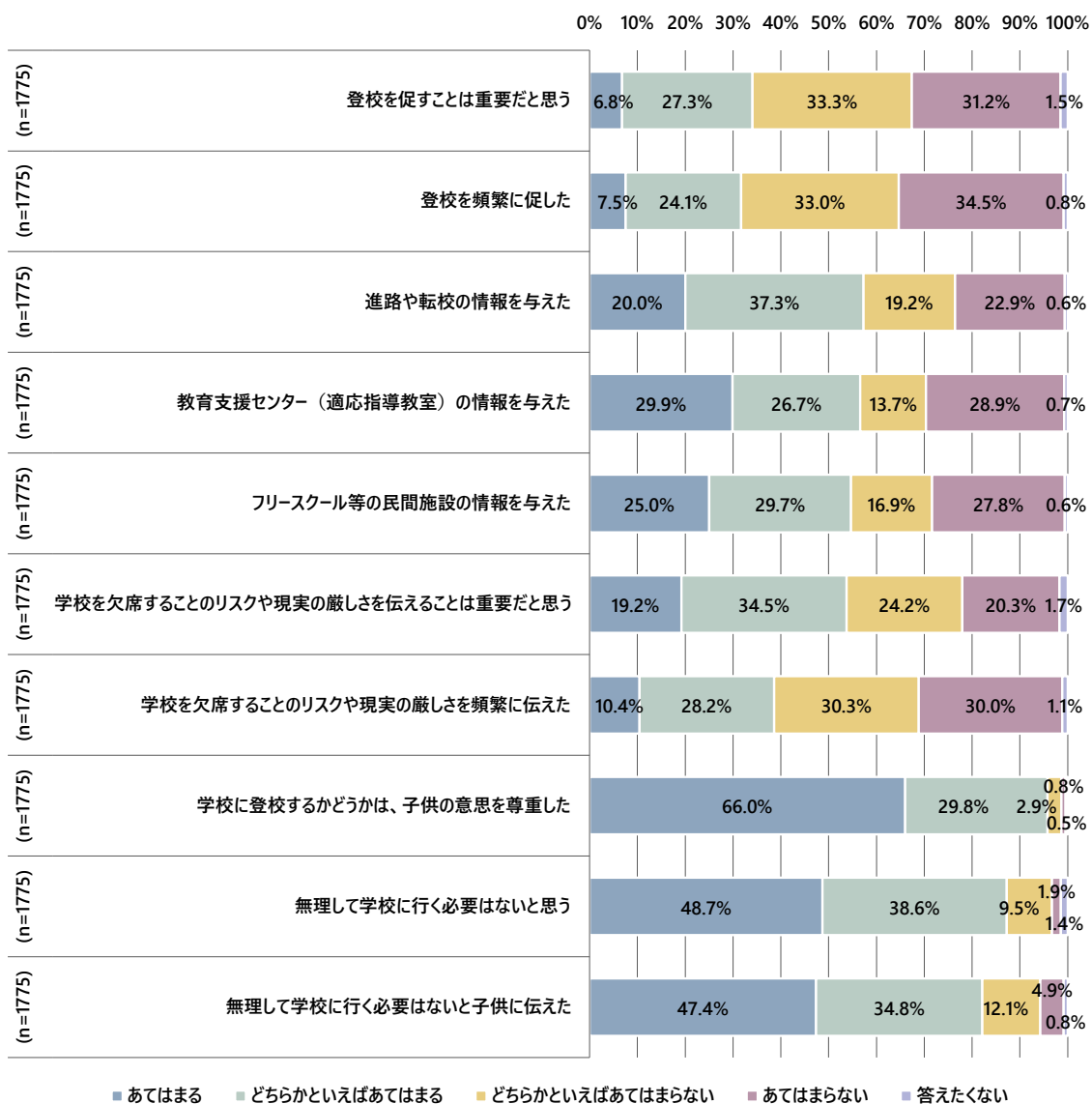
図表 194 昨年度の子供との普段の過ごし方



(10) 昨年度の学校や関係機関に関する、保護者から子供への働きかけについて

昨年度の学校や関係機関に関する、保護者から子供への働きかけについて尋ねた。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計に着目すると、「学校に登校するかどうかは、子供の意思を尊重した」における割合が最も高く 95.8%である。次いで、「無理して学校に行く必要はないと思う (87.3%)」、「無理して学校に行く必要はないと子供に伝えた (82.2%)」である。

図表 195 昨年度の学校や関係機関に関する、保護者から子供への働きかけ

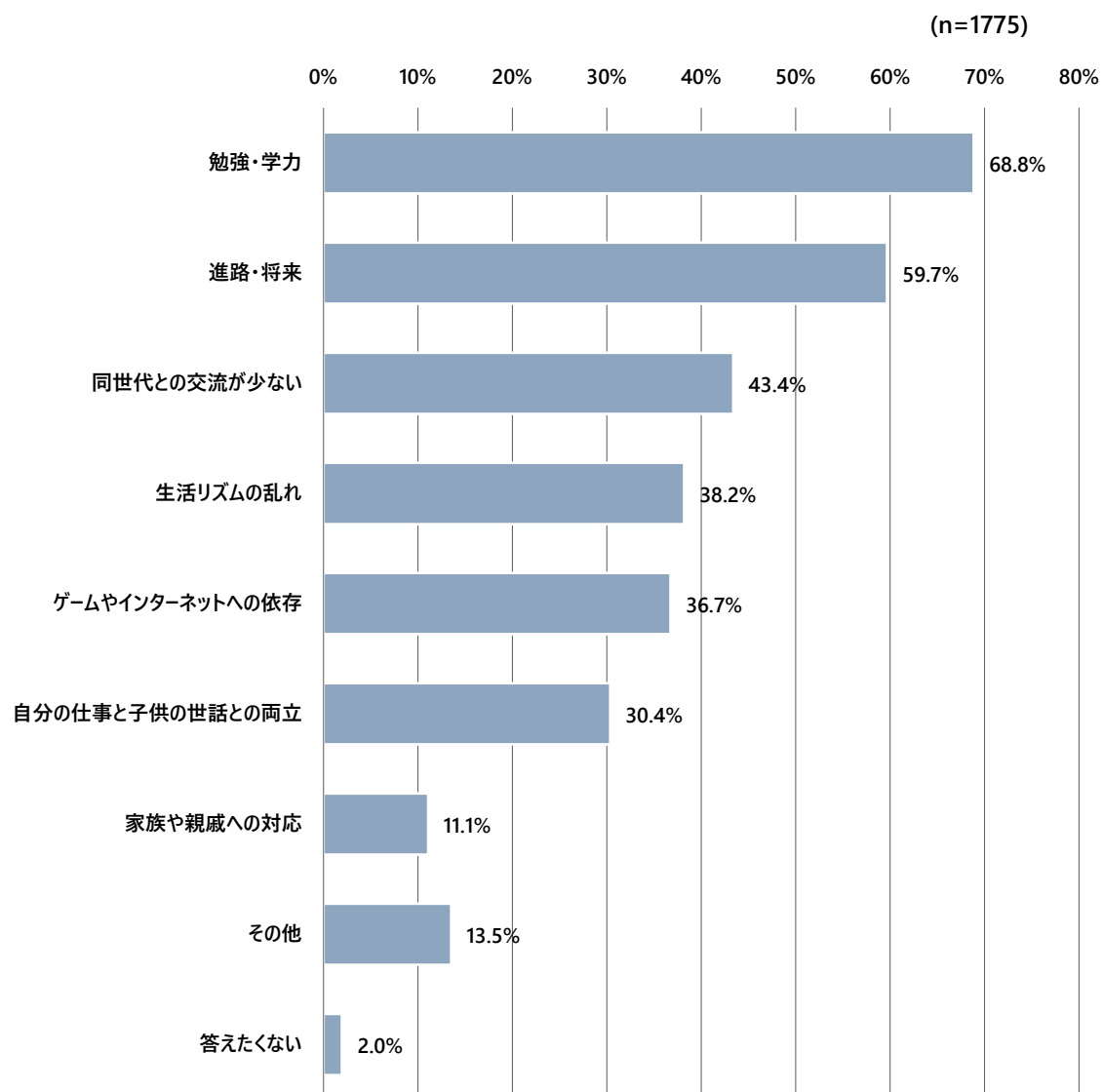


(11)今、子供のことで困っていること

①全体

今、子供のことで困っていることについて尋ねたところ、「勉強・学力」の割合が最も高く 68.8%である。次いで、「進路・将来 (59.7%)」、「同世代との交流が少ない (43.4%)」である。

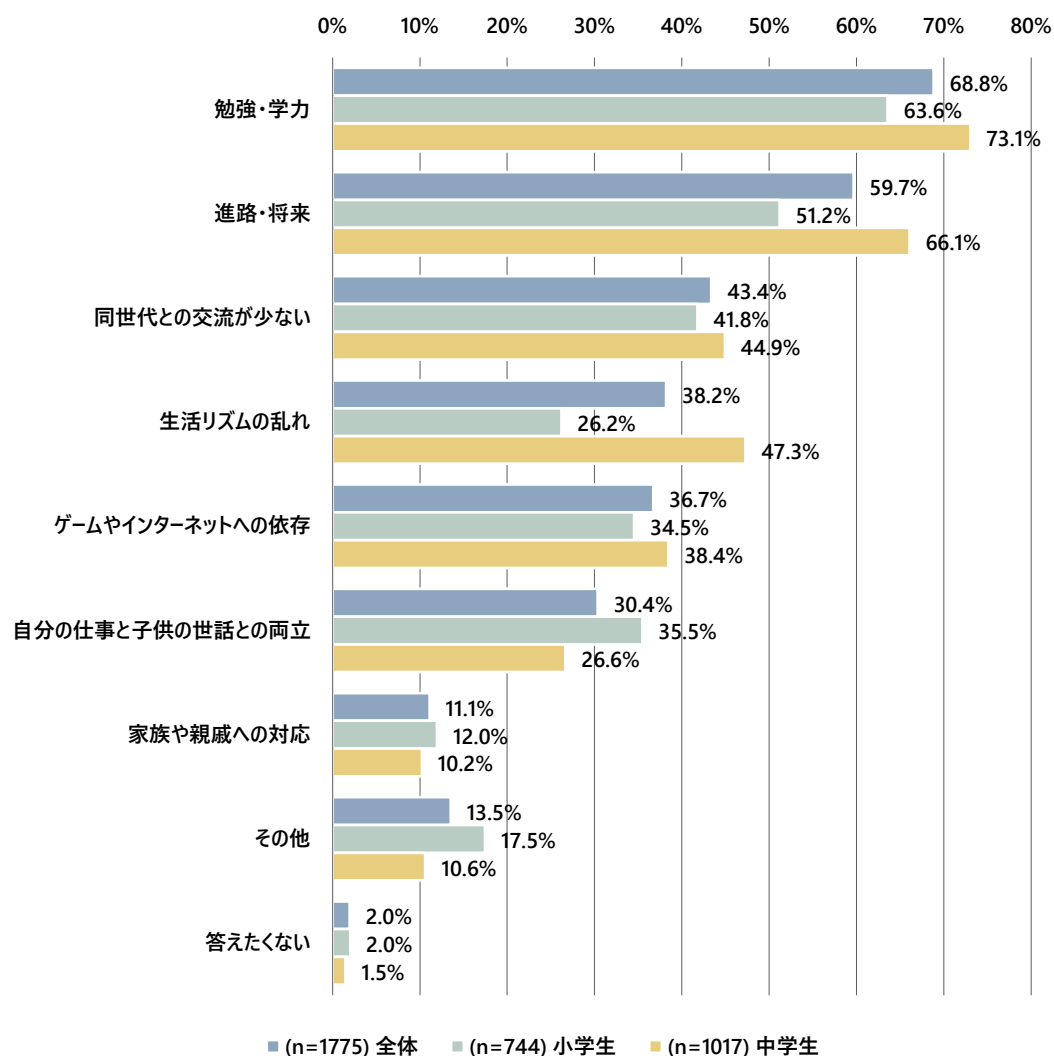
図表 196 今、子供のことで困っていること



②学校種別

学校種別にみると、小学生において「自分の仕事と子供の世話との両立」、中学生において「勉強・学力」「進路・将来」「生活リズムの乱れ」の回答割合が高い傾向がある。

図表 197 今、子供のことで困っていること(学校種別)



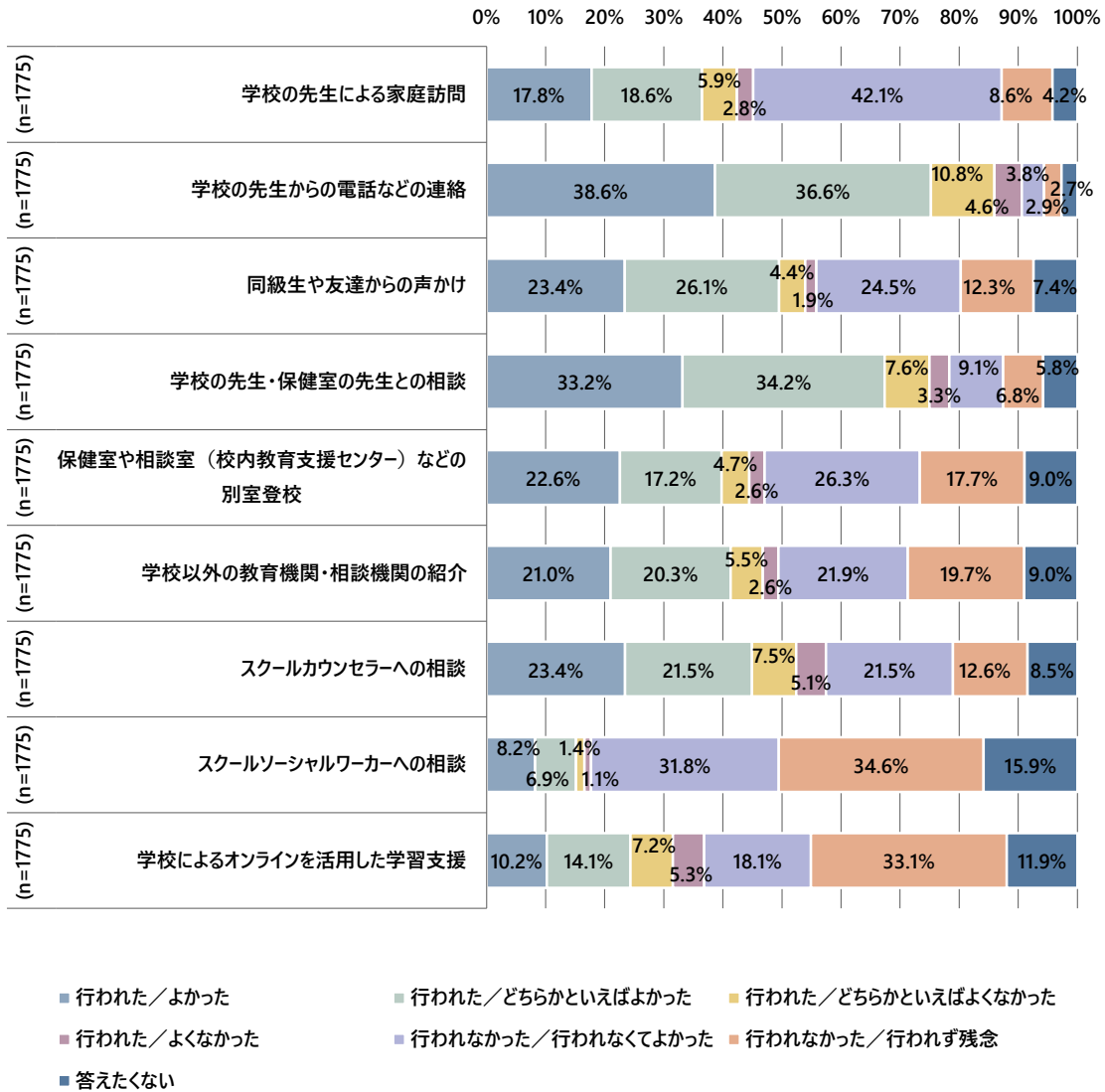
■相談、支援の状況

(12) 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価

①全体

学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価を尋ねた。「行われた／よかった」と「行われた／どちらかといえばよかった」の割合の合計に着目すると、「学校の先生からの電話などの連絡」における割合が最も高く 75.2%である。次いで、「学校の先生・保健室の先生との相談 (67.4%)」、「同級生や友達からの声かけ (49.5%)」である。

図表 198 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価

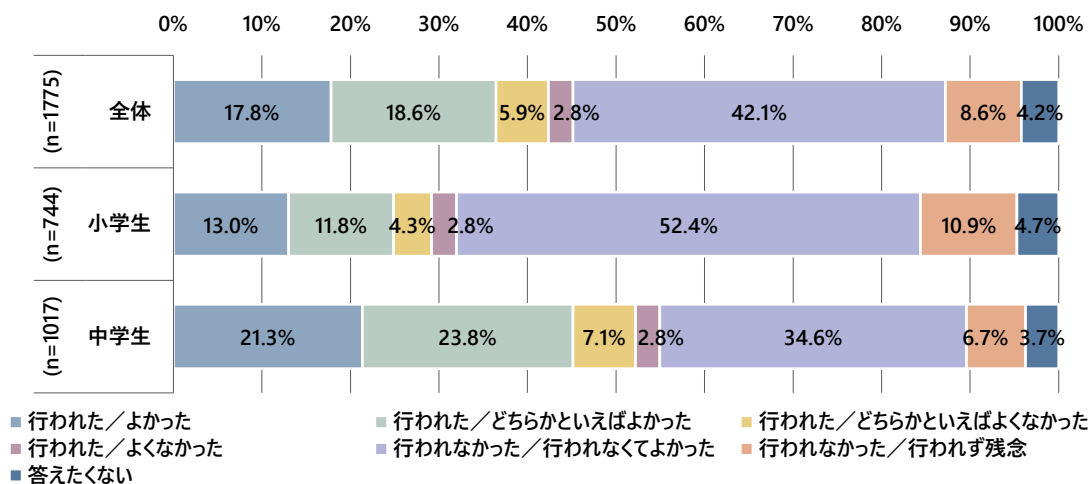


②学校種別

1)学校の先生による家庭訪問

学校種別にみると、中学生において「行われた／よかった」「行われた／どちらかといえばよかった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

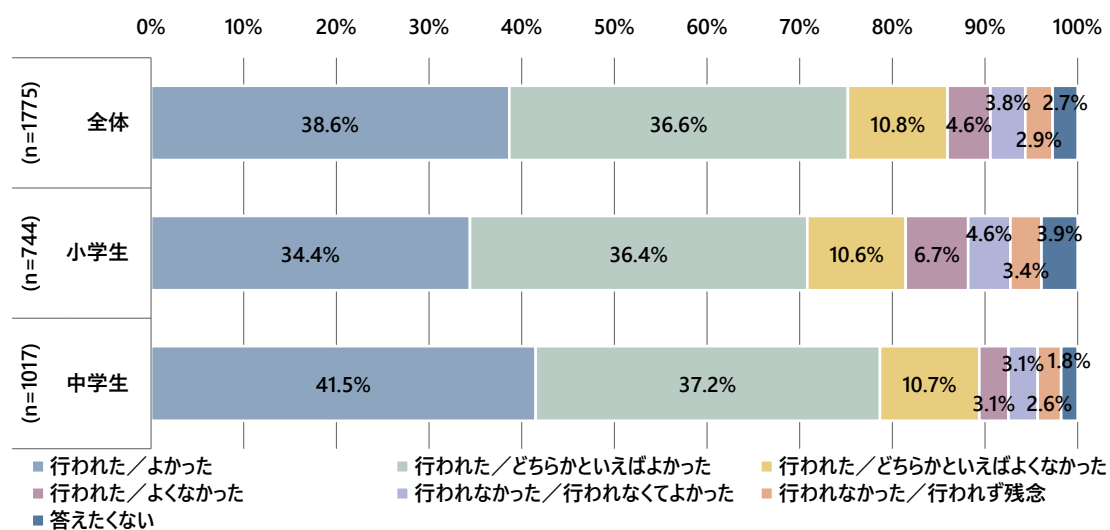
図表 199 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価
(学校の先生による家庭訪問)(学校種別)



2)学校の先生からの電話などの連絡

学校種別にみると、中学生において「行われた／よかった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

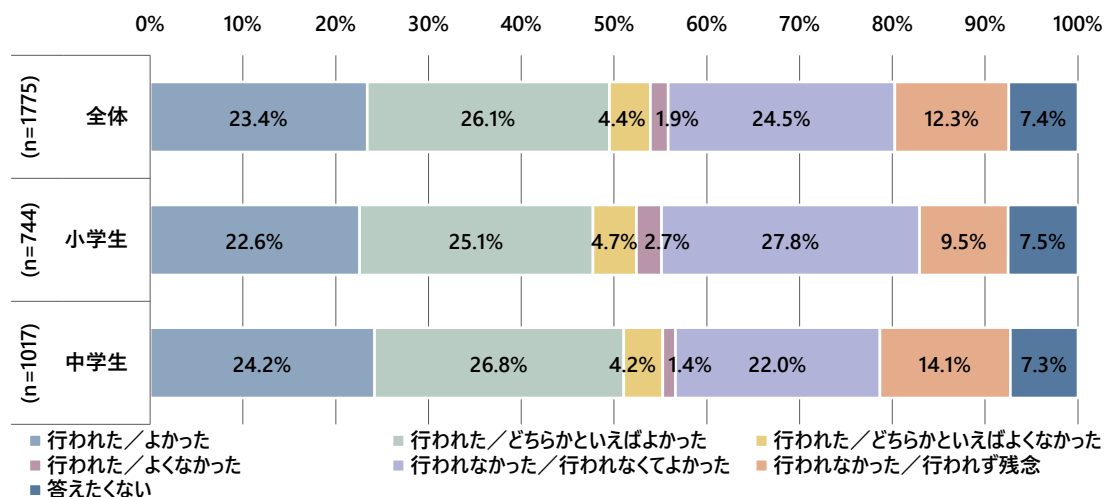
図表 200 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価
(学校の先生からの電話などの連絡)(学校種別)



3)同級生や友達からの声かけ

学校種別にみると、特段の傾向の差は見られなかった。

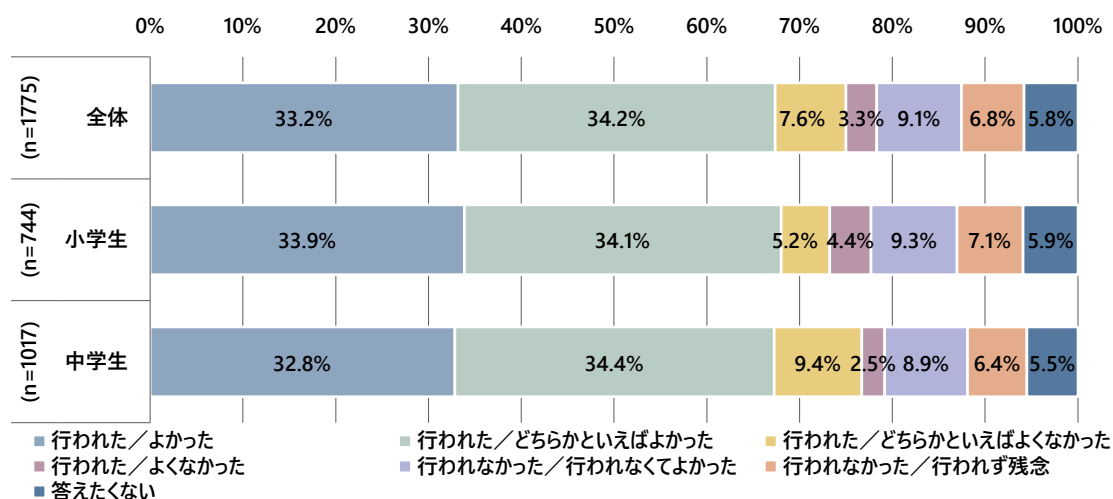
図表 201 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価
(同級生や友達からの声かけ)(学校種別)



4)学校の先生・保健室の先生との相談

学校種別にみると、特段の傾向の差はみられなかった。

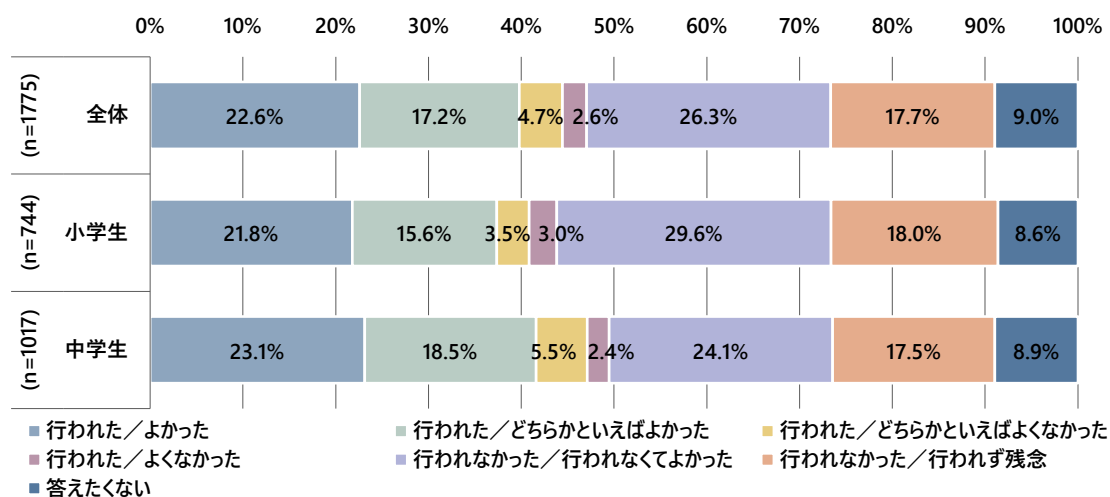
図表 202 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価
(学校の先生・保健室の先生との相談)(学校種別)



5)保健室や相談室(校内教育支援センター)などの別室登校

学校種別にみると、中学生において「行われた／よかった」「行われた／どちらかといえばよかった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

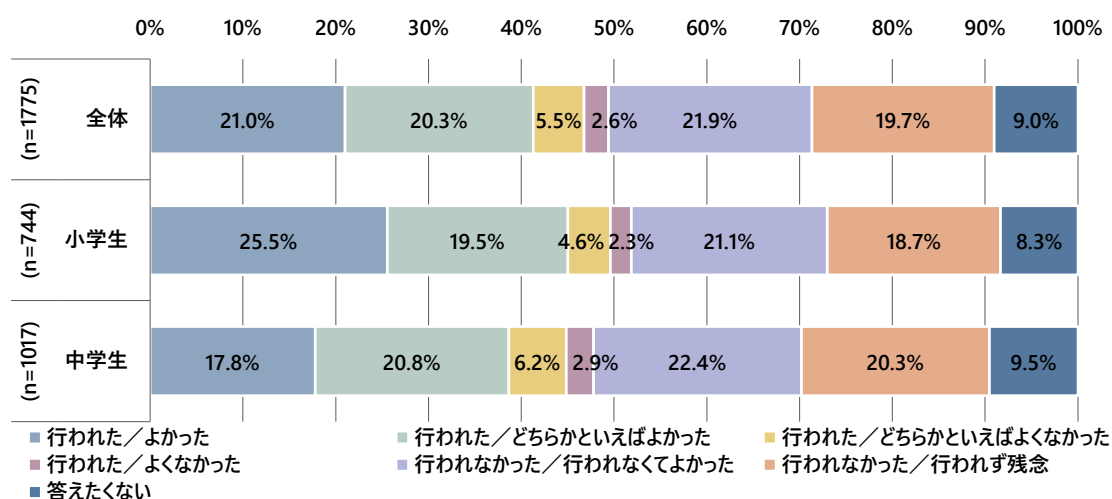
図表 203 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価
(保健室や相談室(校内教育支援センター)などの別室登校)(学校種別)



6)学校以外の教育機関・相談機関の紹介

学校種別にみると、小学生において「行われた／よかった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

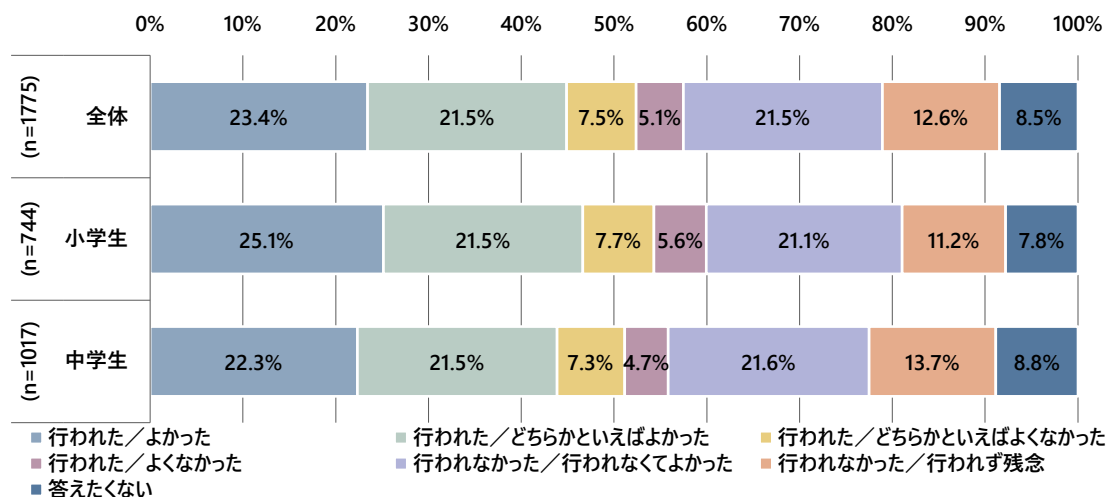
図表 204 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価
(学校以外の教育機関・相談機関の紹介)(学校種別)



7) スクールカウンセラーへの相談

学校種別にみると、特段の傾向の差はみられなかった。

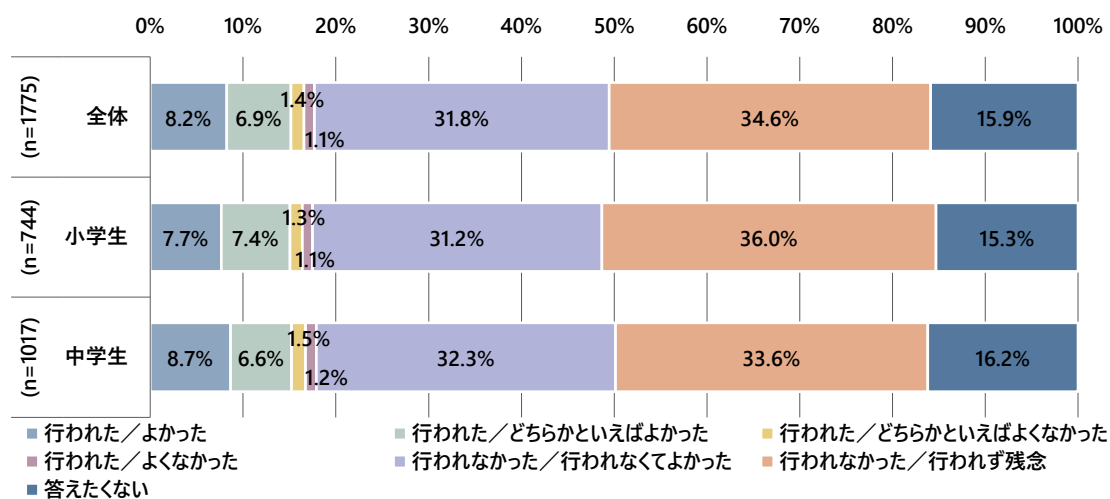
図表 205 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価
(スクールカウンセラーへの相談)(学校種別)



8) スクールソーシャルワーカーへの相談

学校種別にみると、特段の傾向の差はみられなかった。

図表 206 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価
(スクールソーシャルワーカーへの相談)(学校種別)

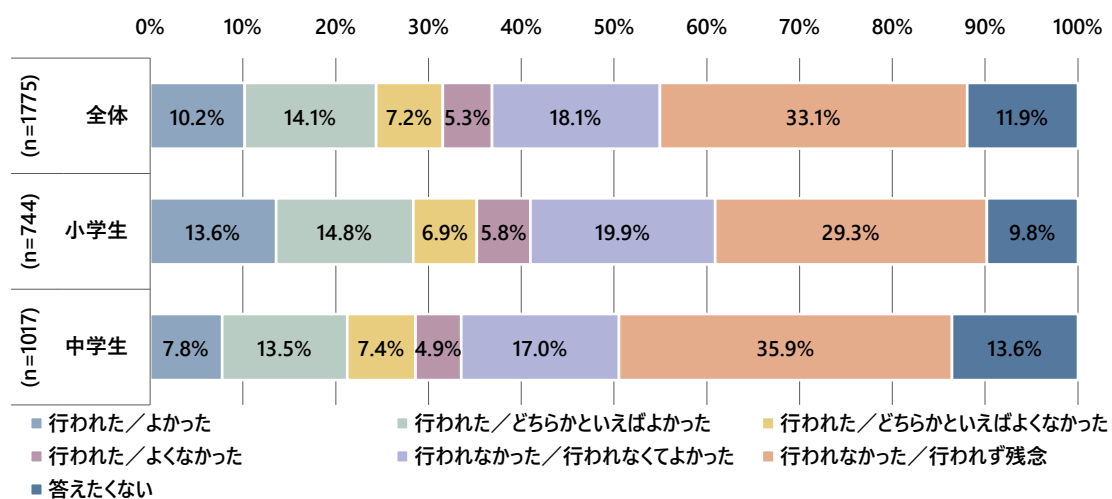


9)学校によるオンラインを活用した学習支援

学校種別にみると、小学生において「行われた／よかった」「行われた／どちらかといえばよかった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

図表 207 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価

(学校によるオンラインを活用した学習支援)(学校種別)

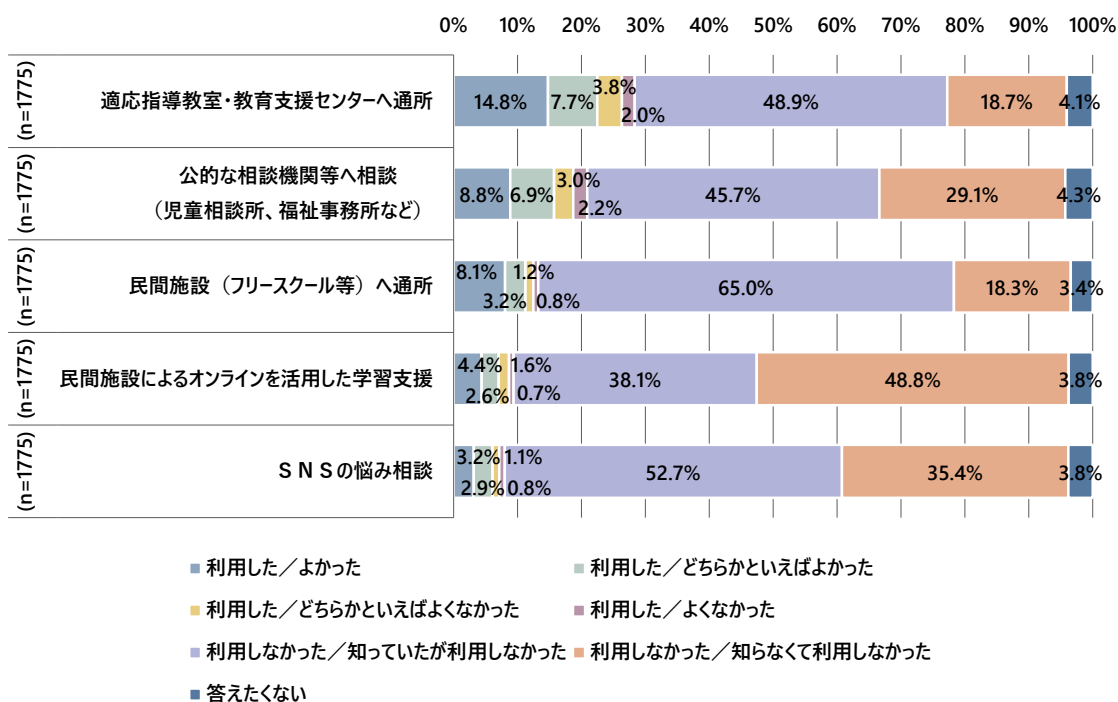


(13) 学校を休んでいる間の支援機関の利用とその評価

① 全体

学校を休んでいるときの支援機関の対応とその評価を尋ねた。「利用した／よかった」と「利用した／どちらかといえばよかった」の割合の合計に着目すると、「適応指導教室・教育支援センターへ通所」における割合が最も高く 22.5%である。次いで、「公的な相談機関等へ相談（児童相談所、福祉事務所など）（15.7%）」、「民間施設（フリースクール等）へ通所（11.3%）」である。

図表 208 学校を休んでいるときの支援機関の対応とその評価

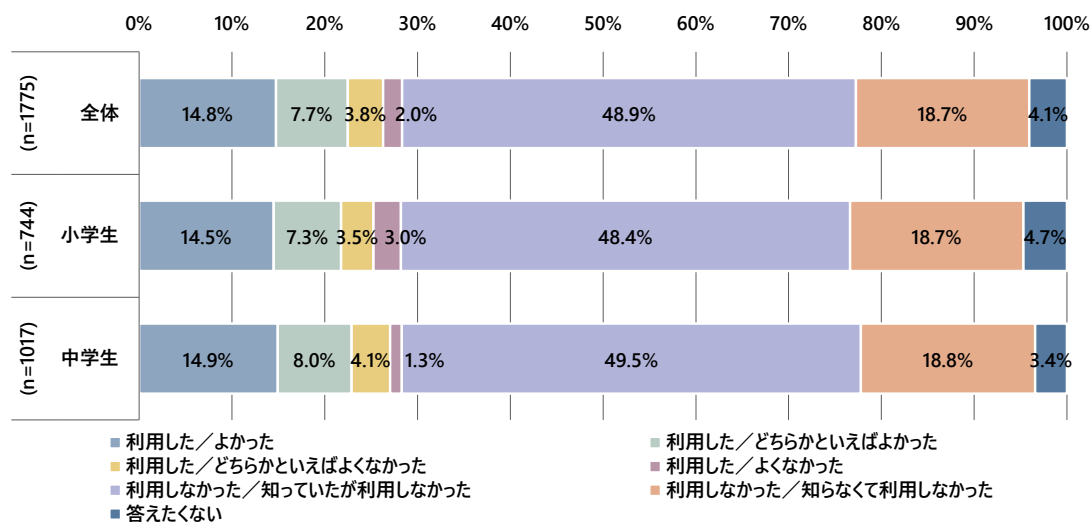


②学校種別

1)適応指導教室・教育支援センターへ通所

学校種別にみると、特段の傾向の差はみられなかった。

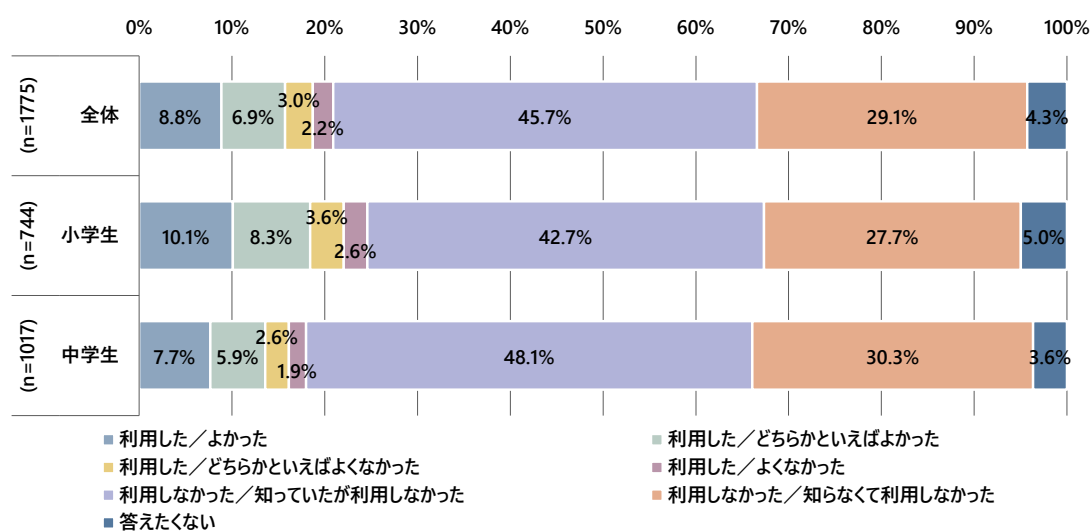
図表 209 学校を休んでいるときの支援機関の対応とその評価
(適応指導教室・教育支援センターへ通所)(学校種別)



2)公的な相談機関等へ相談(児童相談所、福祉事務所など)

学校種別にみると、小学生において「利用した／よかった」「利用した／どちらかといえばよかった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

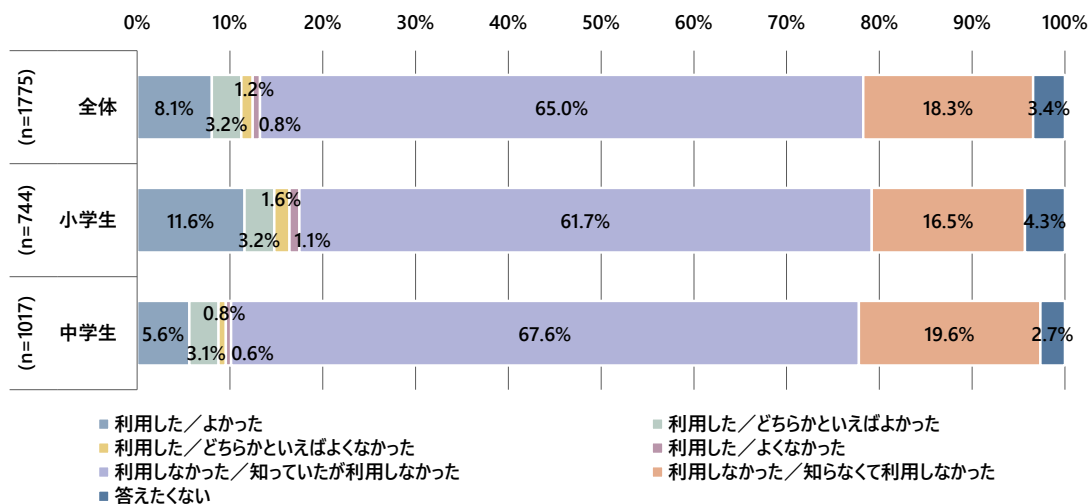
図表 210 学校を休んでいるときの対応とその評価
(公的な相談機関等へ相談(児童相談所、福祉事務所など))(学校種別)



3)民間施設(フリースクール等)へ通所

学校種別にみると、小学生において「利用した／よかった」「利用した／どちらかといえばよかった」と回答した割合が高い傾向がみられる。

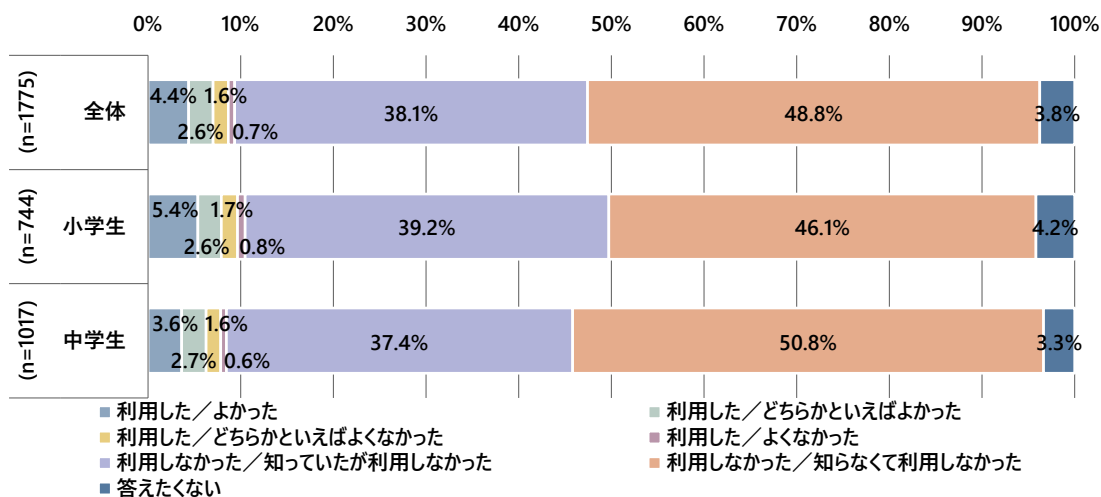
図表 211 学校を休んでいるときの対応とその評価(民間施設(フリースクール等)へ通所)(学校種別)



4)民間施設によるオンラインを活用した学習支援

学校種別にみると、特段の傾向の差はみられなかった。

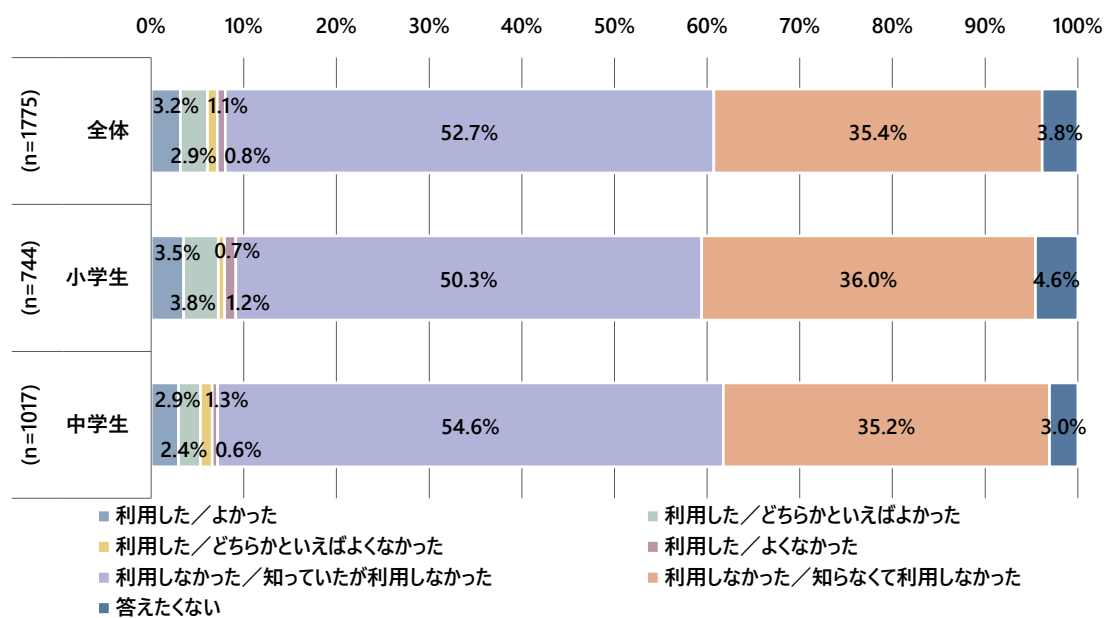
図表 212 学校を休んでいるときの対応とその評価
(学校の先生・民間施設によるオンラインを活用した学習支援)(学校種別)



5) SNSの悩み相談

学校種別にみると、特段の傾向の差は見られなかった。

図表 213 学校を休んでいるときの対応とその評価(SNSの悩み相談)(学校種別)

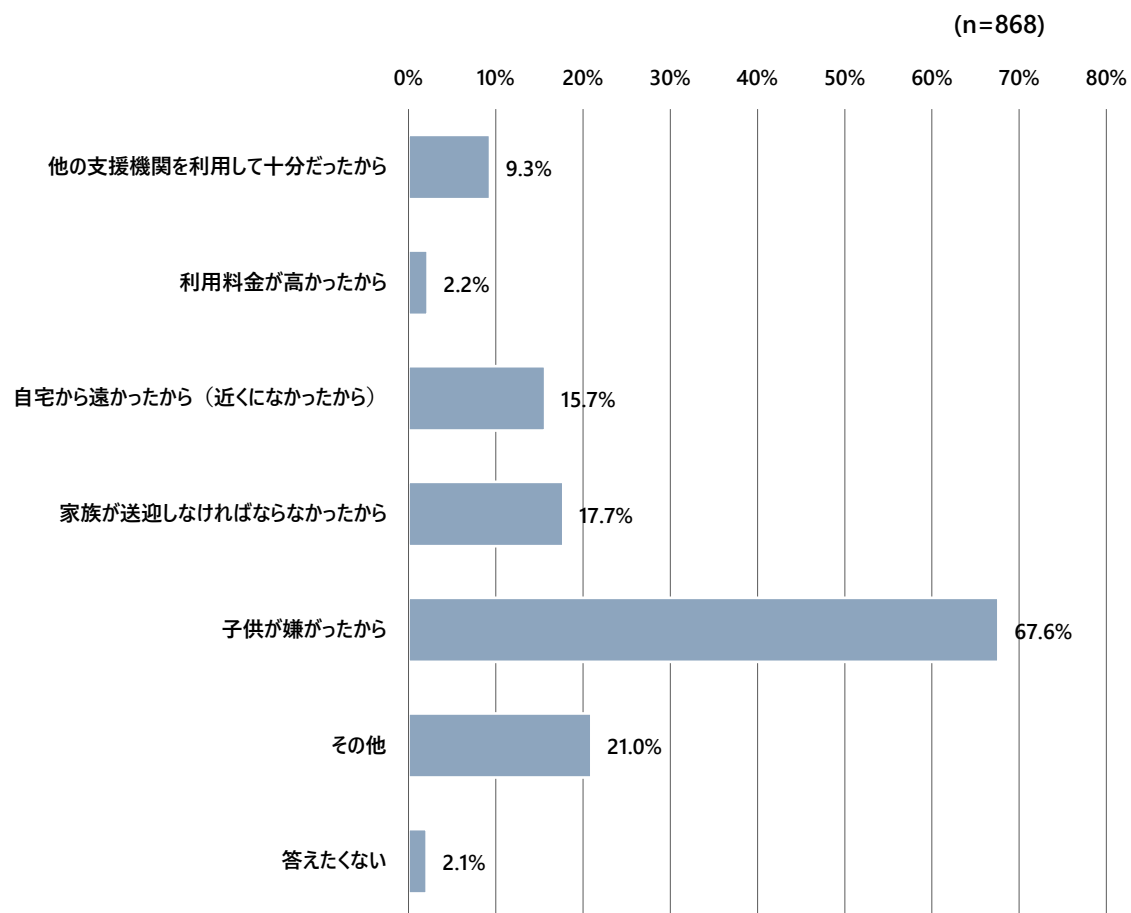


(14)支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由:適応指導教室・教育支援センターへ通所

①全体

支援機関を知っていたが利用しなかった理由について尋ねたところ、「子供が嫌がったから」の割合が最も高く 67.6%である。次いで、「その他 (21.0%)」、「家族が送迎しなければならなかったから (17.7%)」である。

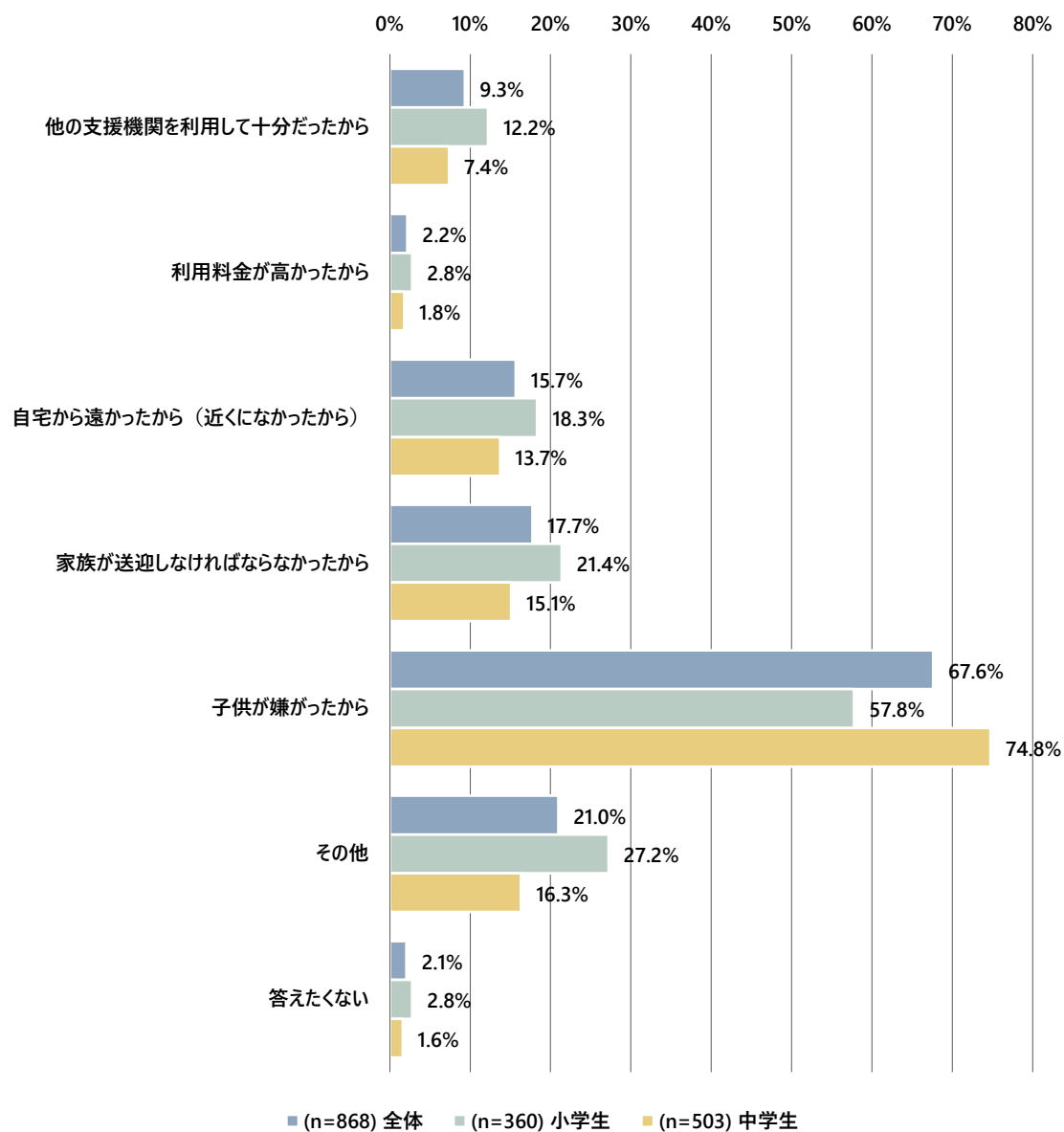
図表 214 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由:適応指導教室・教育支援センターへ通所



②学校種別

学校種別にみると、小学生において「家族が送迎しなければならなかったから」、中学生において「子供が嫌がったから」と回答した割合が高い傾向がみられる。

図表 215 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由:適応指導教室・教育支援センターへ通所
(学校種別)

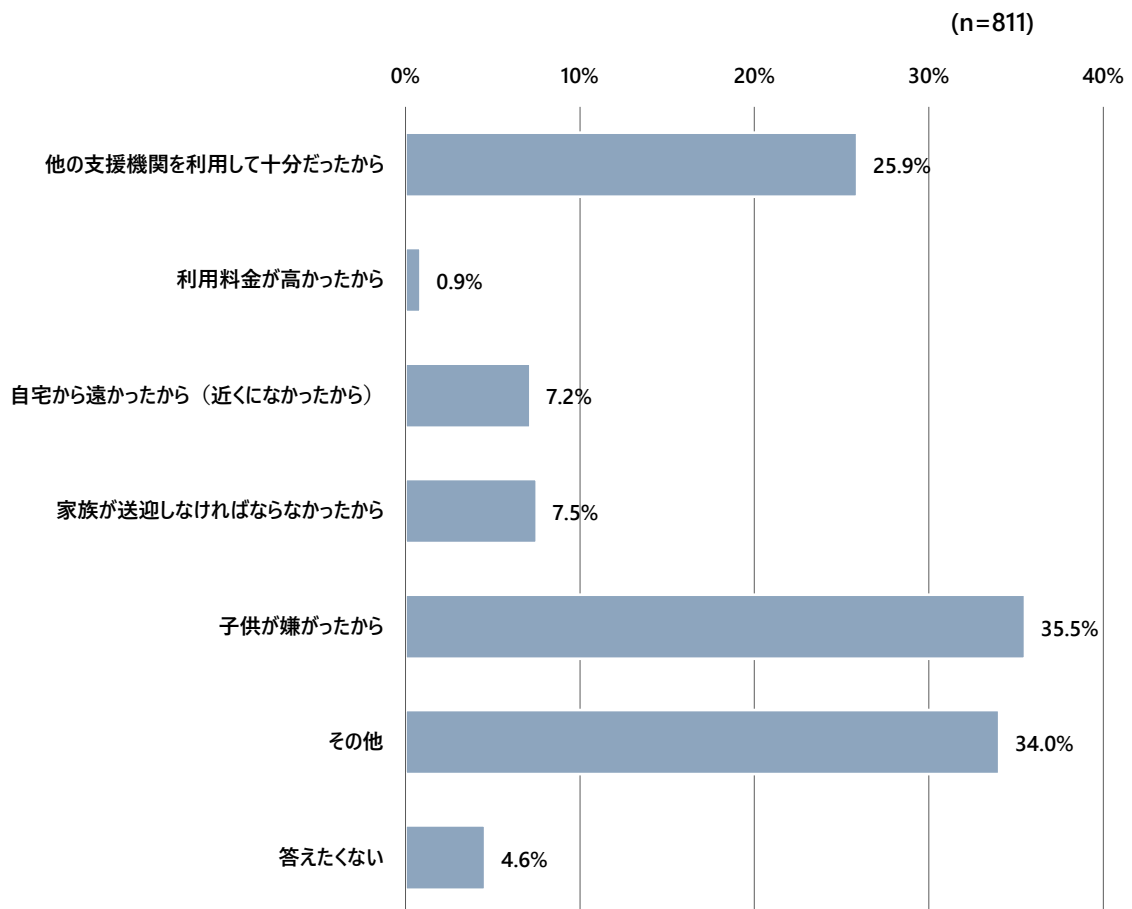


(15)支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由:公的な相談機関等へ相談(児童相談所、福祉事務所など)

①全体

支援機関を知っていたが利用しなかった理由について尋ねたところ、「子供が嫌がったから」の割合が最も高く 35.5%である。次いで、「その他 (34.0%)」、「他の支援機関を利用して十分だったから (25.9%)」である。

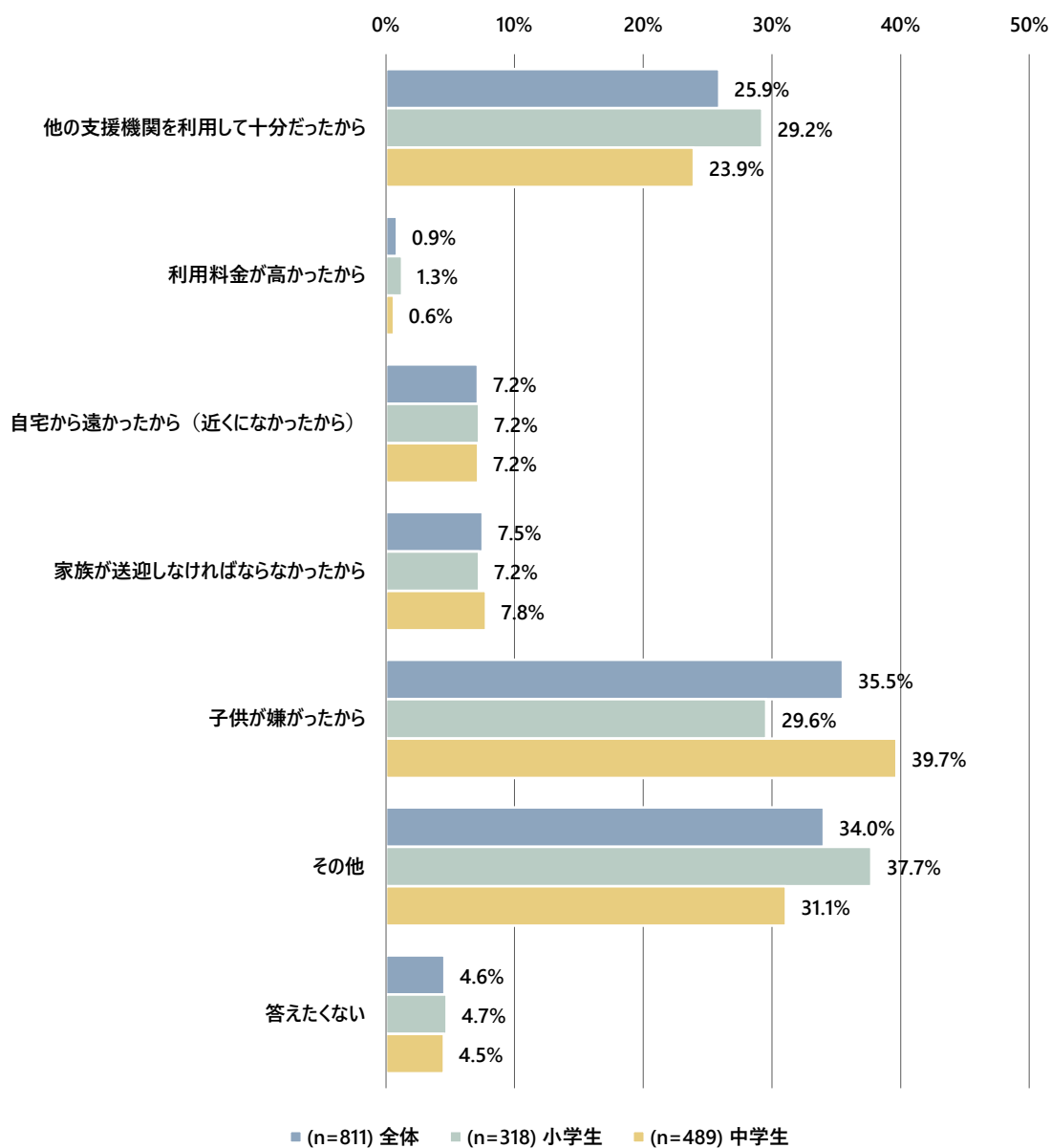
図表 216 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由
:公的な相談機関等へ相談(児童相談所、福祉事務所など)



②学校種別

学校種別にみると、小学生において「他の支援機関を利用して十分だったから」、中学生において「子供が嫌がったから」と回答した割合が高い傾向がみられる。

図表 217 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由
 :公的な相談機関等へ相談(児童相談所、福祉事務所など)(学校種別)

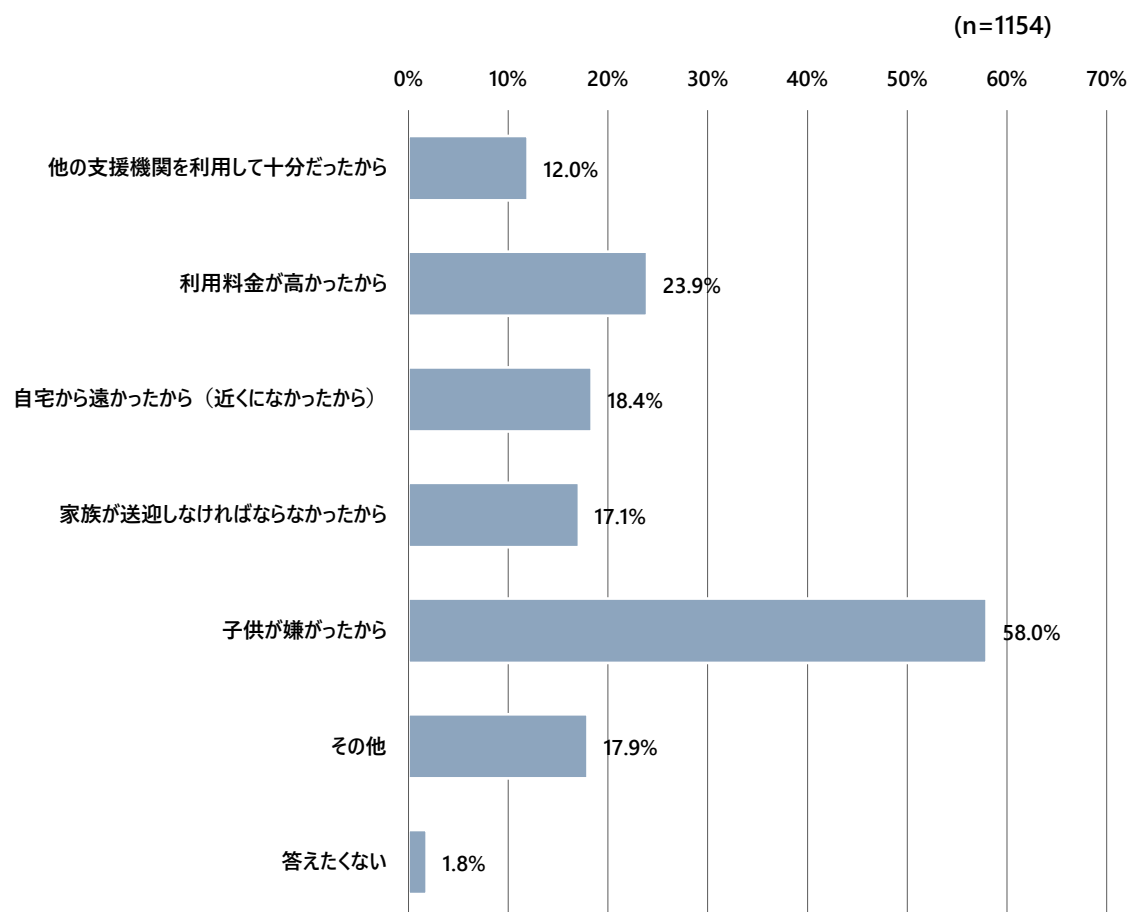


(16) 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由：民間施設(フリースクール等)へ通所

①全体

支援機関を知っていたが利用しなかった理由について尋ねたところ、「子供が嫌がったから」の割合が最も高く 58.0%である。次いで、「利用料金が高かったから (23.9%)」、「自宅から遠かったから (近くになかったから) (18.4%)」である。

図表 218 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由：民間施設(フリースクール等)へ通所

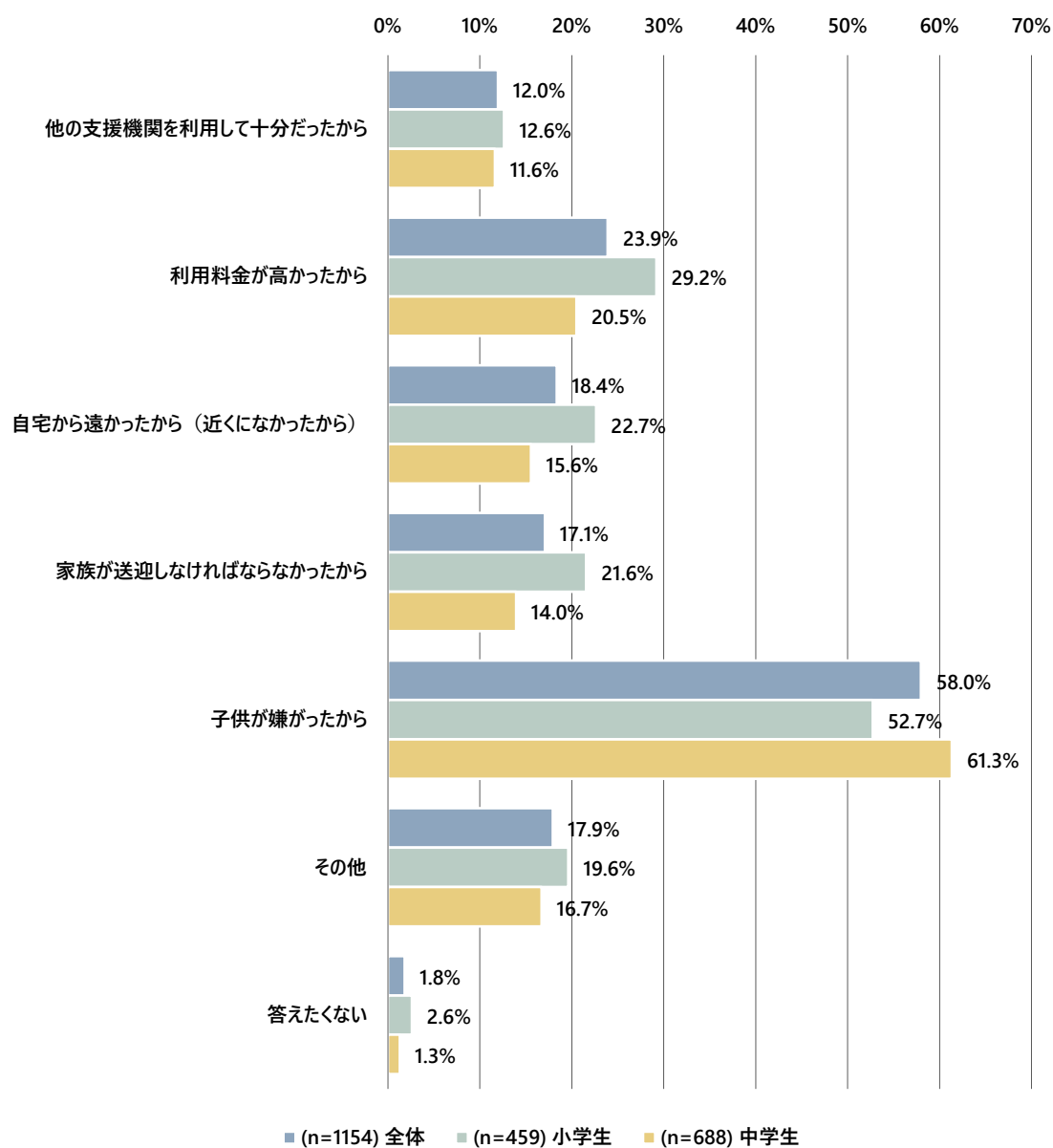


②学校種別

学校種別にみると、小学生において「利用料金が高かったから」「自宅から遠かったから（近くなかったから）」「家族が送迎しなければならなかったから」、中学生において「子供が嫌がったから」と回答した割合が高い傾向がみられる。

図表 219 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由

:民間施設(フリースクール等)へ通所(学校種別)

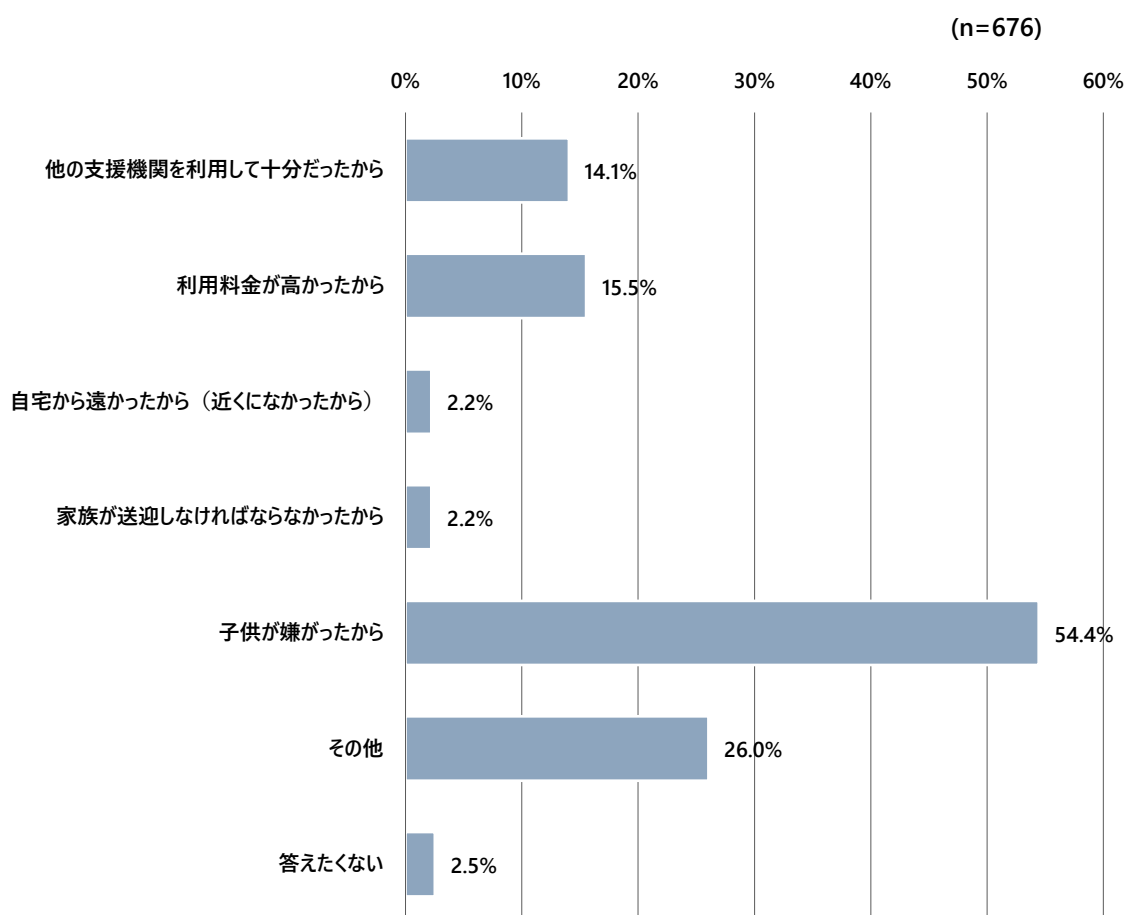


(17)支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由:民間施設によるオンラインを活用した学習支援

①全体

支援機関を知っていたが利用しなかった理由について尋ねたところ、「子供が嫌がったから」の割合が最も高く 54.4%である。次いで、「その他 (26.0%)」、「利用料金が高かったから (15.5%)」である。

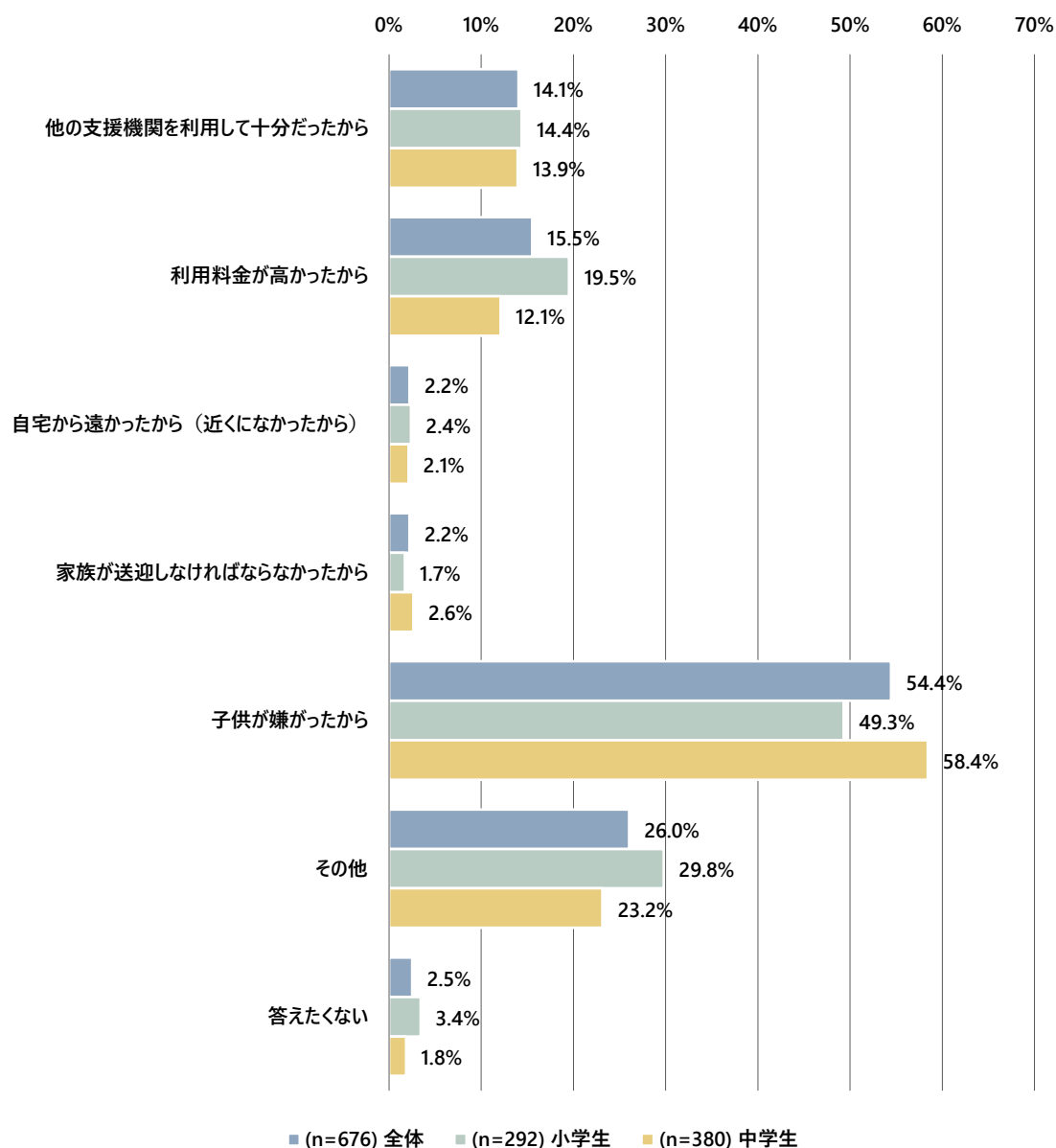
図表 220 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由
:民間施設によるオンラインを活用した学習支援



②学校種別

学校種別にみると、小学生において「利用料金が高かったから」、中学生において「子供が嫌がったから」と回答した割合が高い傾向がみられる。

図表 221 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由
：民間施設によるオンラインを活用した学習支援(学校種別)

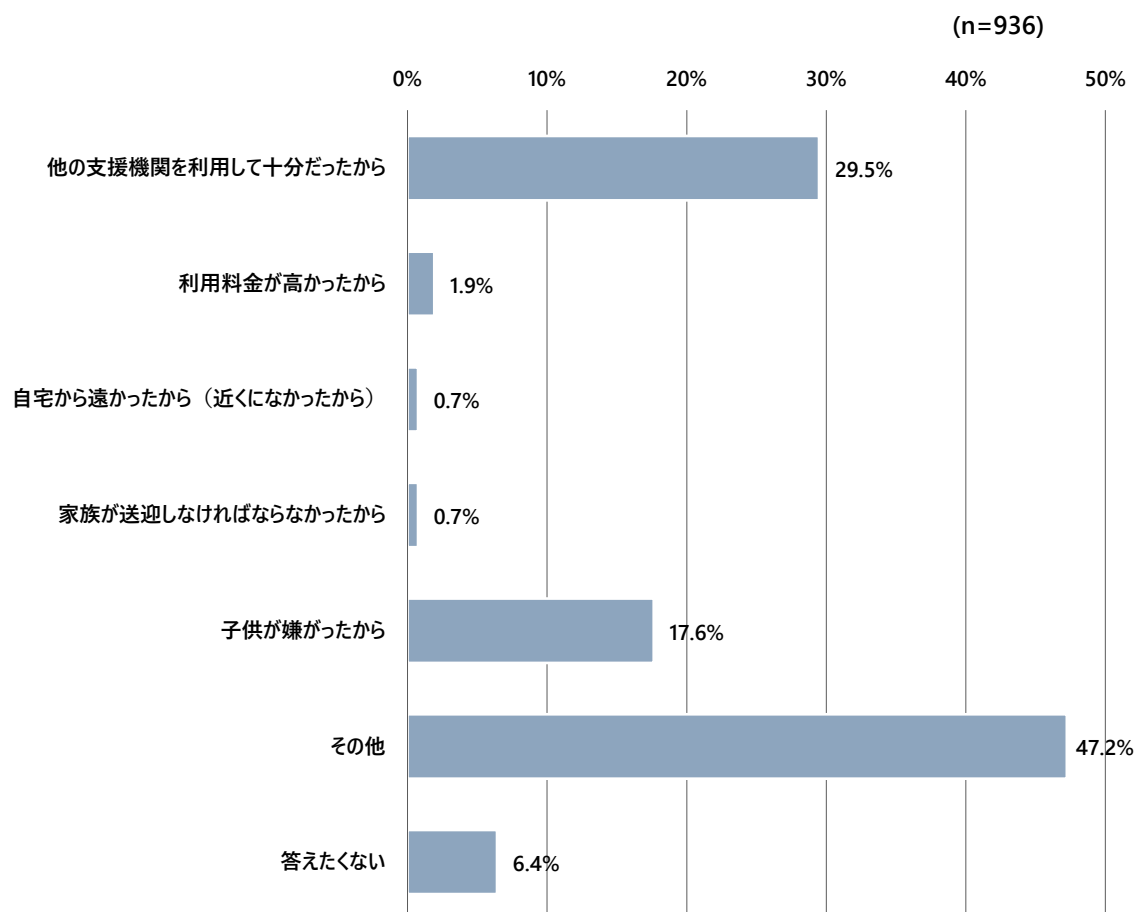


(18)支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由：SNSの悩み相談

①全体

支援機関を知っていたが利用しなかった理由について尋ねたところ、「その他」の割合が最も高く 47.2%である。次いで、「他の支援機関を利用して十分だったから (29.5%)」、「子供が嫌がったから (17.6%)」である。

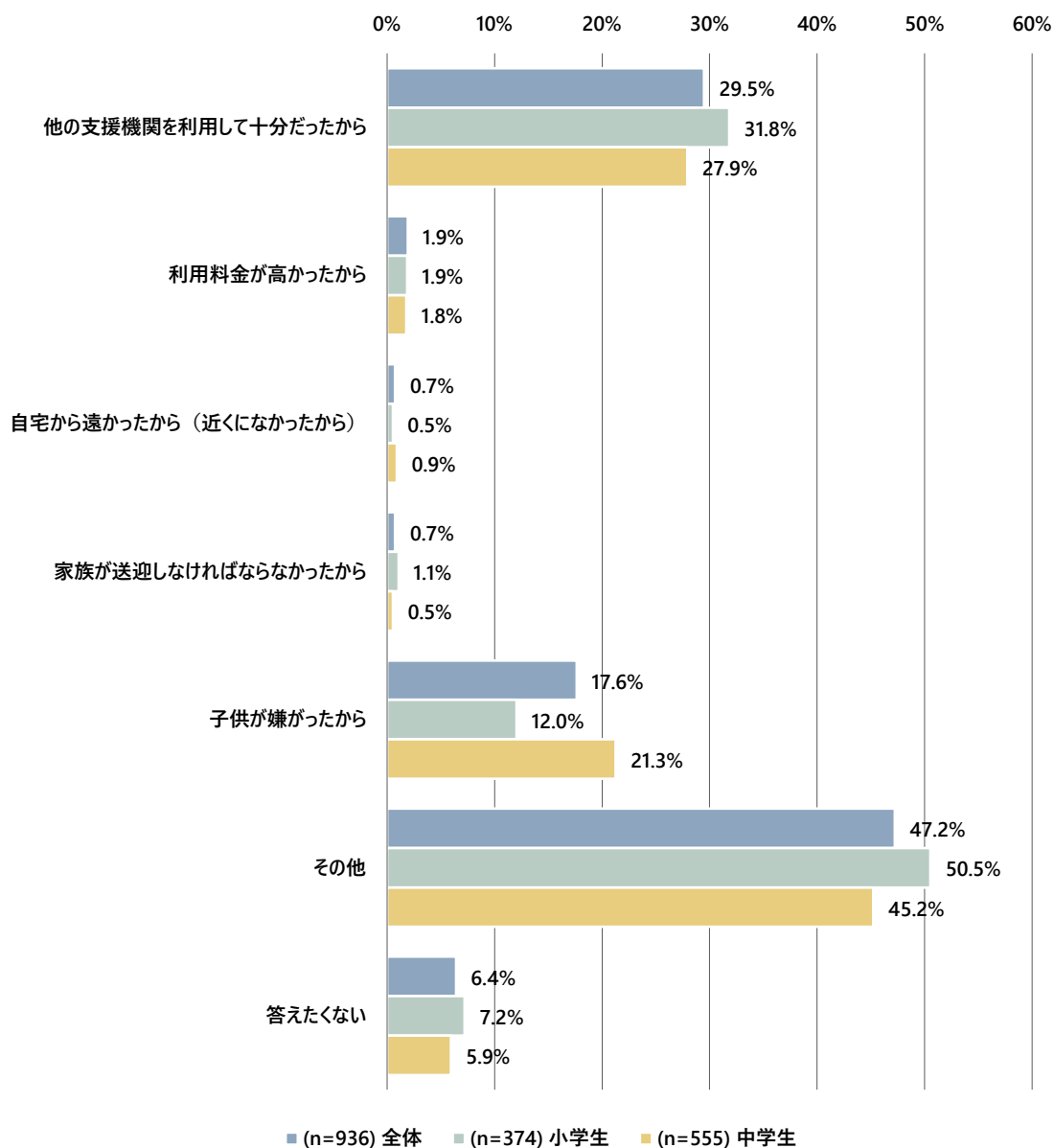
図表 222 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由：SNSの悩み相談



②学校種別

学校種別にみると、中学生において「子供が嫌がったから」と回答した割合が高い傾向がみられる。

図表 223 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由：SNSの悩み相談(学校種別)

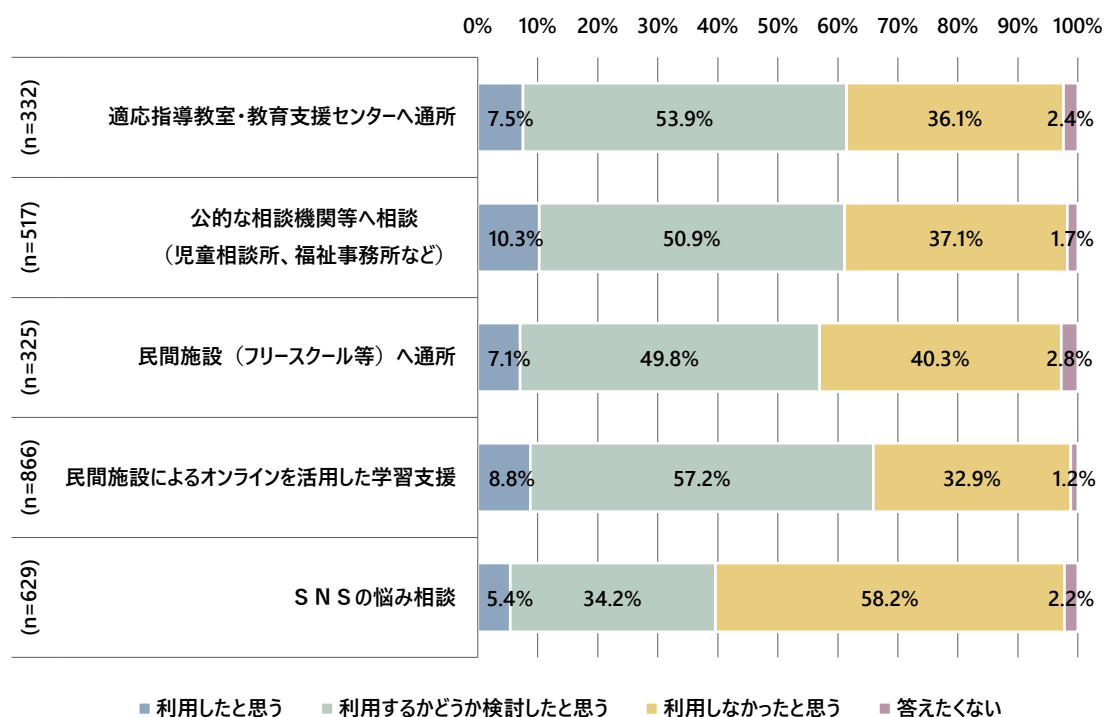


(19)支援機関を知っていた場合どうしていたか

①全体

支援機関を知っていた場合どうしていたかを尋ねた。「利用したと思う」と「利用するかどうか検討したと思う」の割合の合計に着目すると、「民間施設によるオンラインを活用した学習支援」における割合が最も高く 66.0%である。次いで、「適応指導教室・教育支援センターへ通所（61.4%）」、「公的な相談機関等へ相談（児童相談所、福祉事務所など）（61.2%）」である。

図表 224 以下の支援機関を知っていた場合どうしていたか

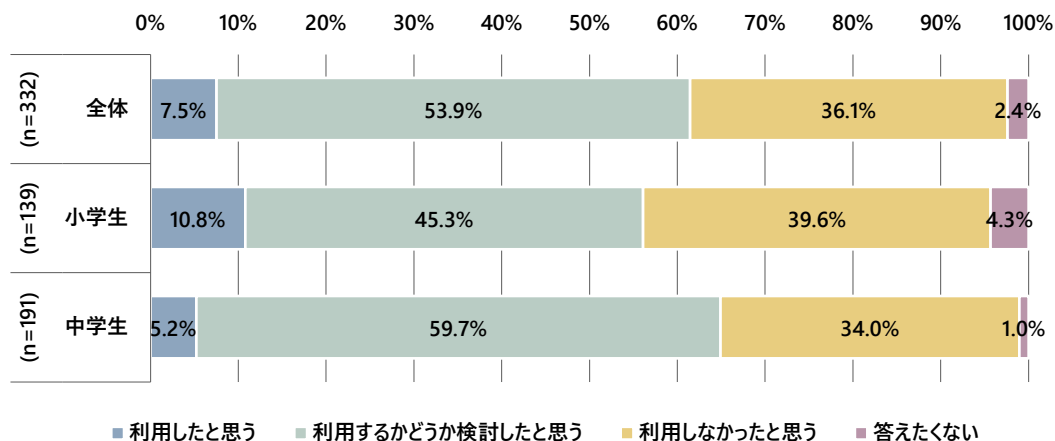


②学校種別

1)適応指導教室・教育支援センターへ通所

学校種別にみると、小学生において「利用したと思う」の回答割合が高い傾向がある。

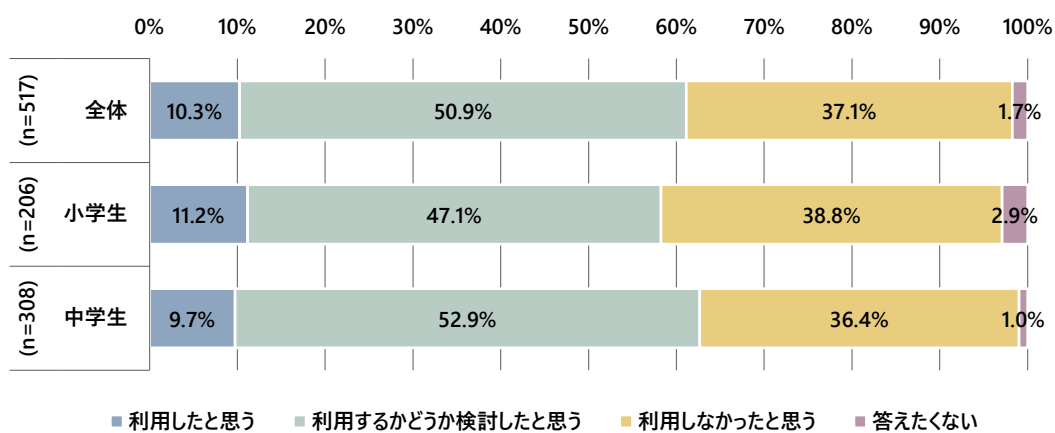
図表 225 適応指導洋室・教育支援センターへ通所(学校種別)



2)公的な相談機関等へ相談(児童相談所、福祉事務所など)

学校種別にみると、特段の傾向の差は見られなかった。

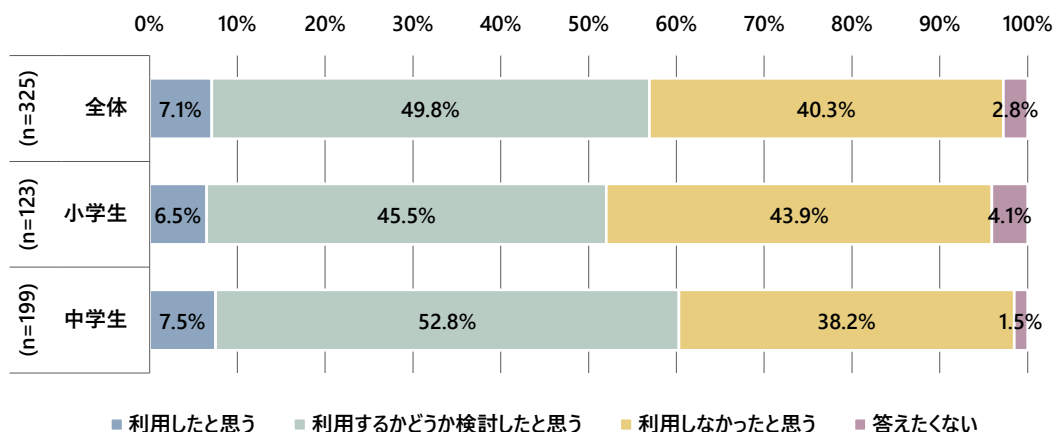
図表 226 公的な相談機関等へ相談(児童相談所、福祉事務所など)(学校種別)



3)民間施設(フリースクール等)へ通所

学校種別にみると、中学生において「利用するかどうか検討したと思う」の回答割合が高い傾向がある。

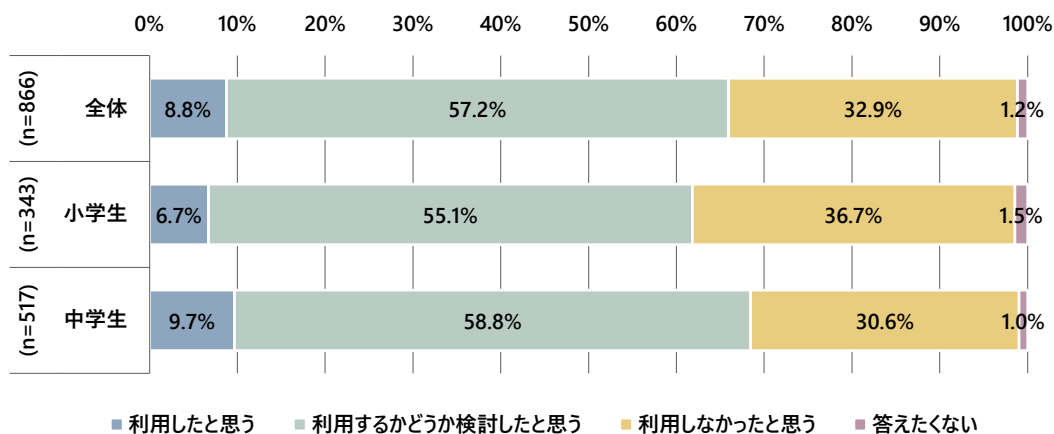
図表 227 民間施設(フリースクール等)へ通所(学校種別)



4)民間施設によるオンラインを活用した学習支援

学校種別にみると、中学生において「利用したと思う」「利用するかどうか検討したと思う」の回答割合が高い傾向がある。

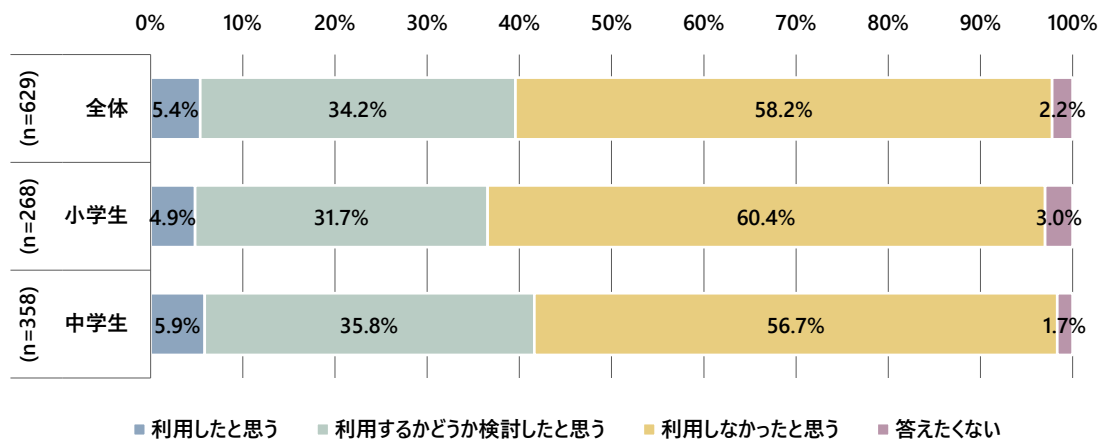
図表 228 民間施設によるオンラインを活用した学習支援(学校種別)



5) SNS の悩み相談

学校種別にみると、中学生において「利用したと思う」「利用するかどうか検討したと思う」の合計割合が高い傾向がある。

図表 229 SNS の悩み相談(学校種別)

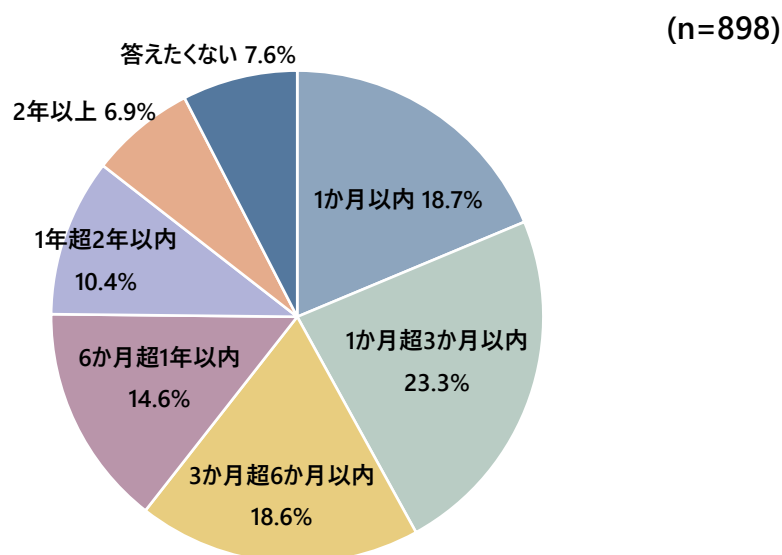


(20)学校を休むようになってから支援機関を利用するまでの期間

①全体

学校を休むようになってから支援機関を利用したと回答した人に、利用するまでの期間について尋ねたところ、「1か月超3か月以内」の割合が最も高く23.3%である。次いで、「1か月以内(18.7%)」、「3か月超6か月以内(18.6%)」である。

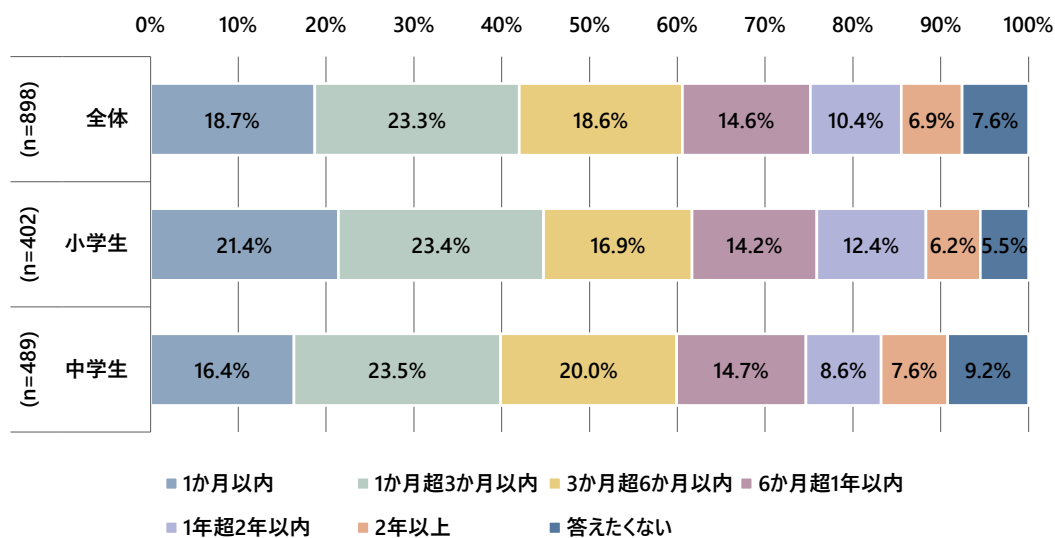
図表 230 学校を休むようになってから支援機関を利用するまでの期間



②学校種別

学校種別にみると、小学生において「1か月以内」の割合が高い傾向がある。

図表 231 学校を休むようになってから支援機関を利用するまでの期間(学校種別)

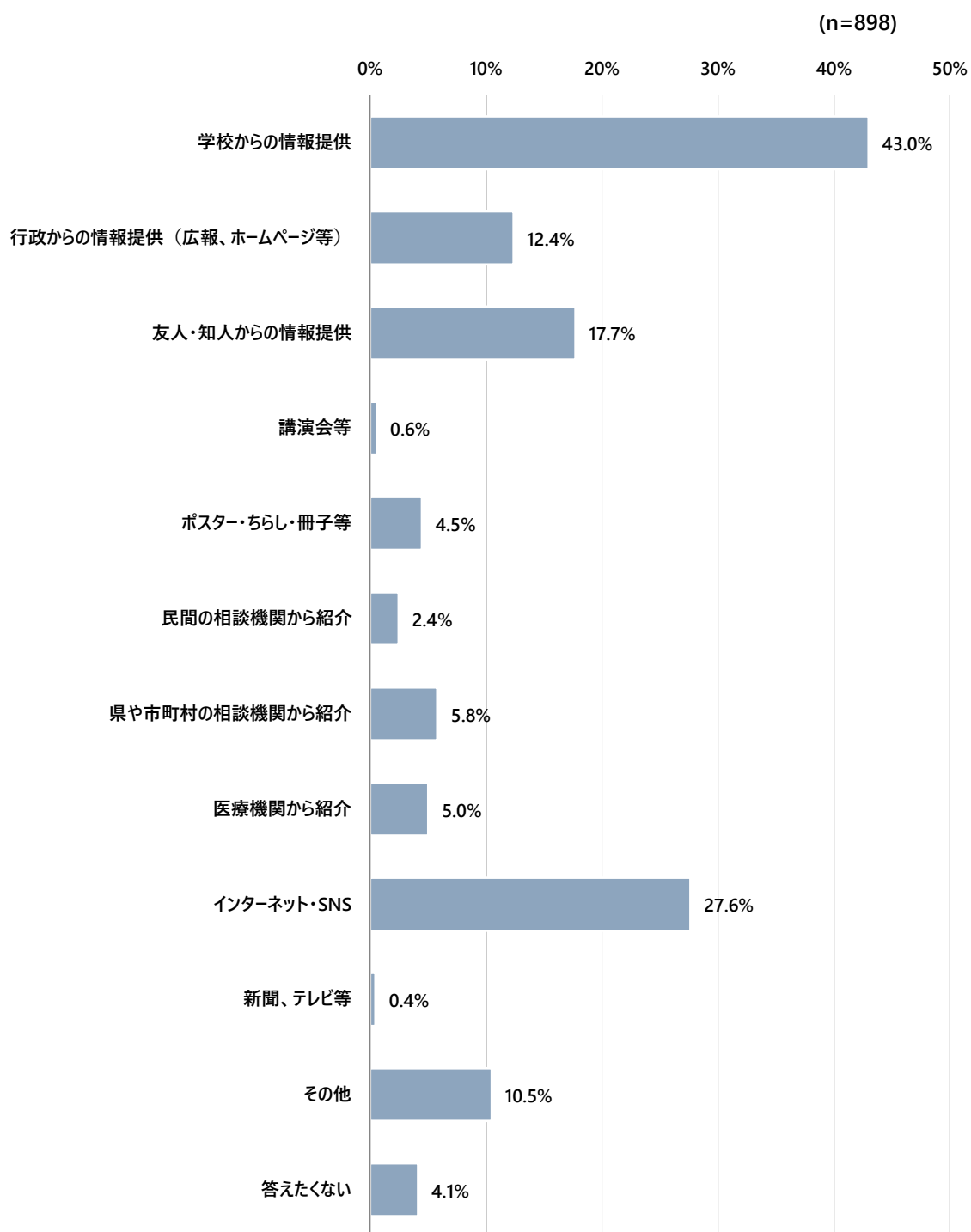


(21)支援機関を利用したきっかけ

①全体

学校を休むようになってから支援機関を利用したと回答した人に、支援機関を利用したきっかけについて尋ねたところ、「学校からの情報提供」の割合が最も高く 43.0%である。次いで、「インターネット・SNS (27.6%)」、「友人・知人からの情報提供 (17.7%)」である。

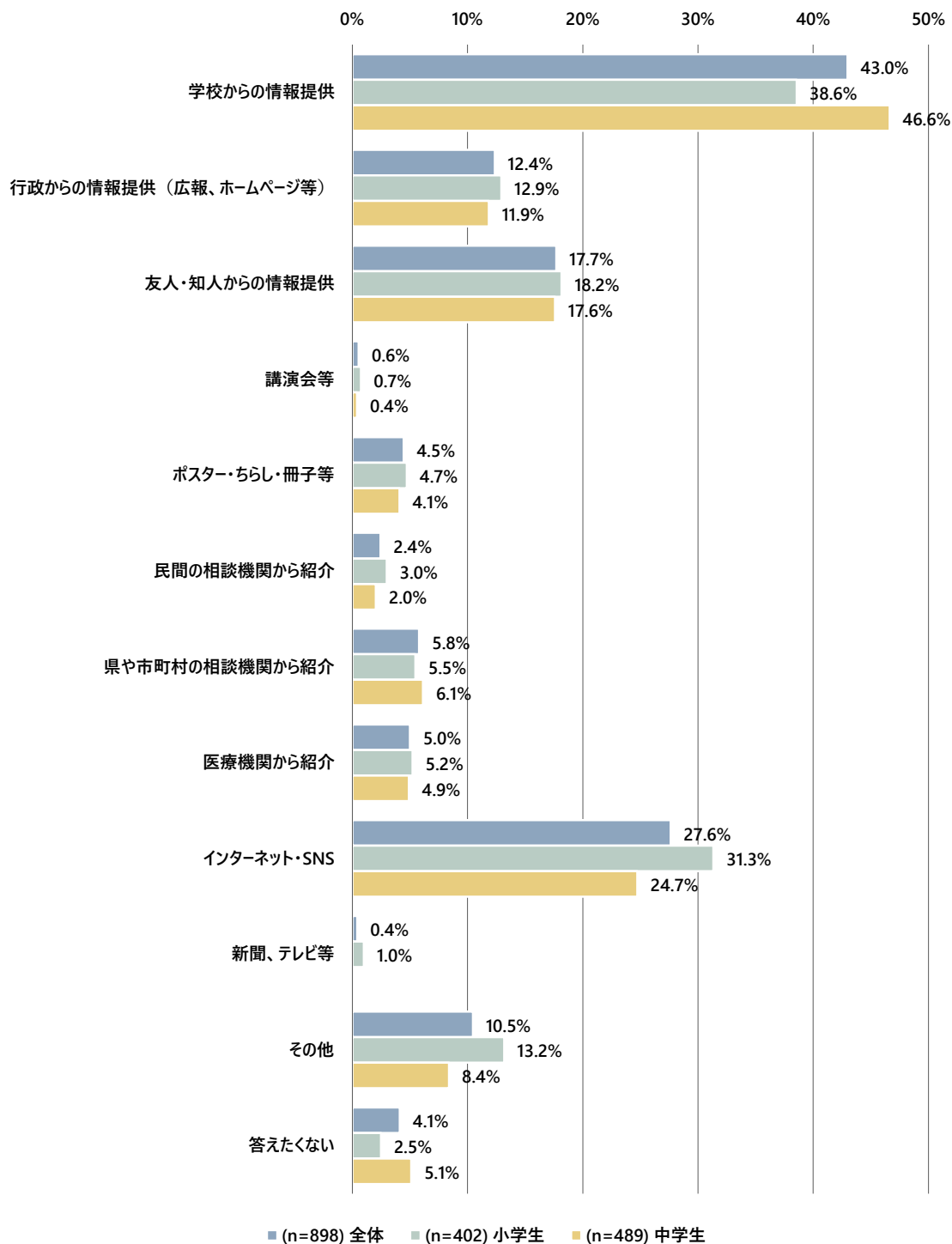
図表 232 支援機関を利用したきっかけ



②学校種別

学校種別にみると、小学生において「インターネット・SNS」、中学生において「学校からの情報提供」の回答割合が高い傾向がある。

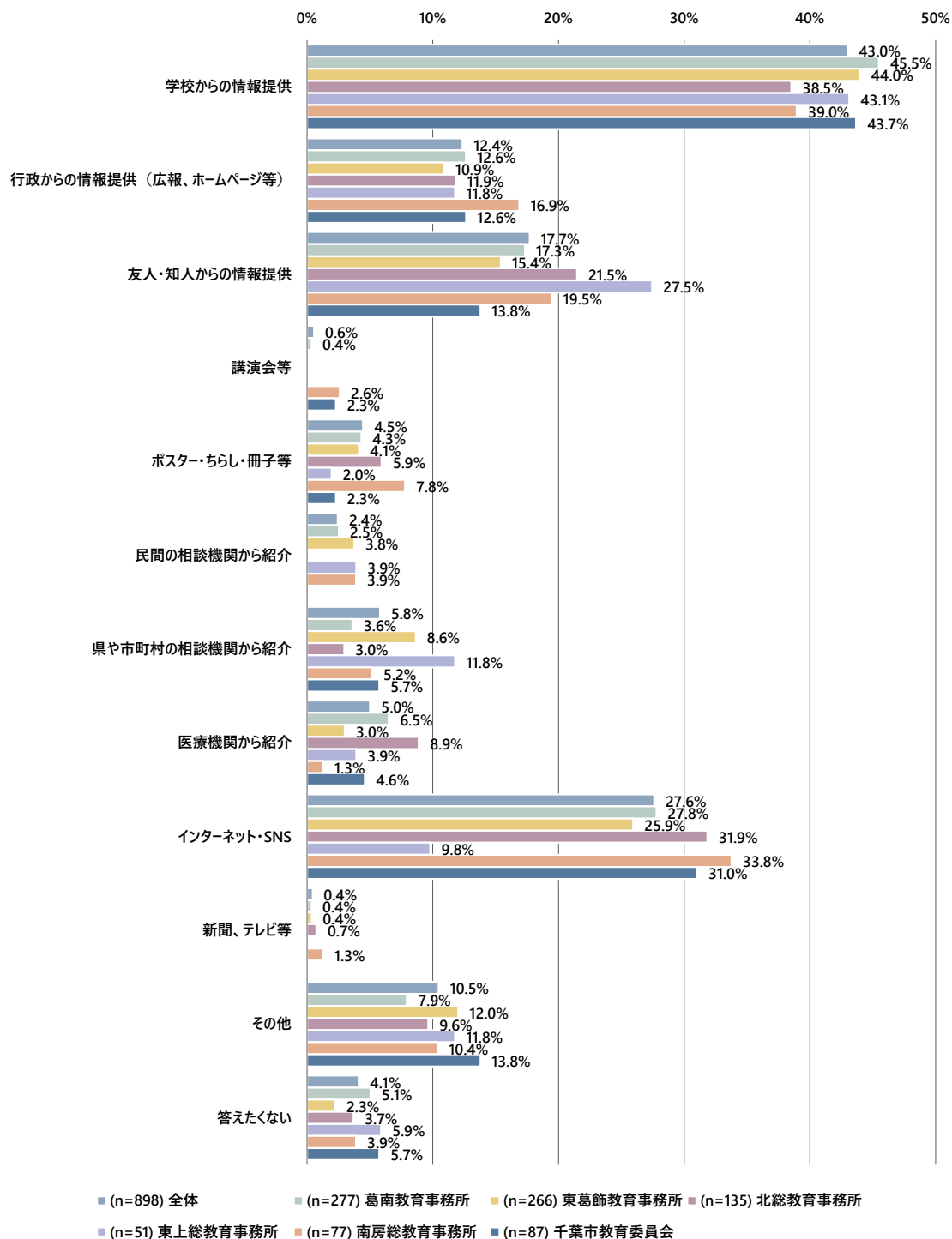
図表 233 支援機関を利用したきっかけ(学校種別)



③地域(管轄する教育事務所)別

地域別にみると、「東上総教育事務所」で「友人・知人からの情報提供」「県や市町村の相談機関から紹介」の割合が相対的に高くなっている。

図表 234 支援機関を利用したきっかけ(地域別)

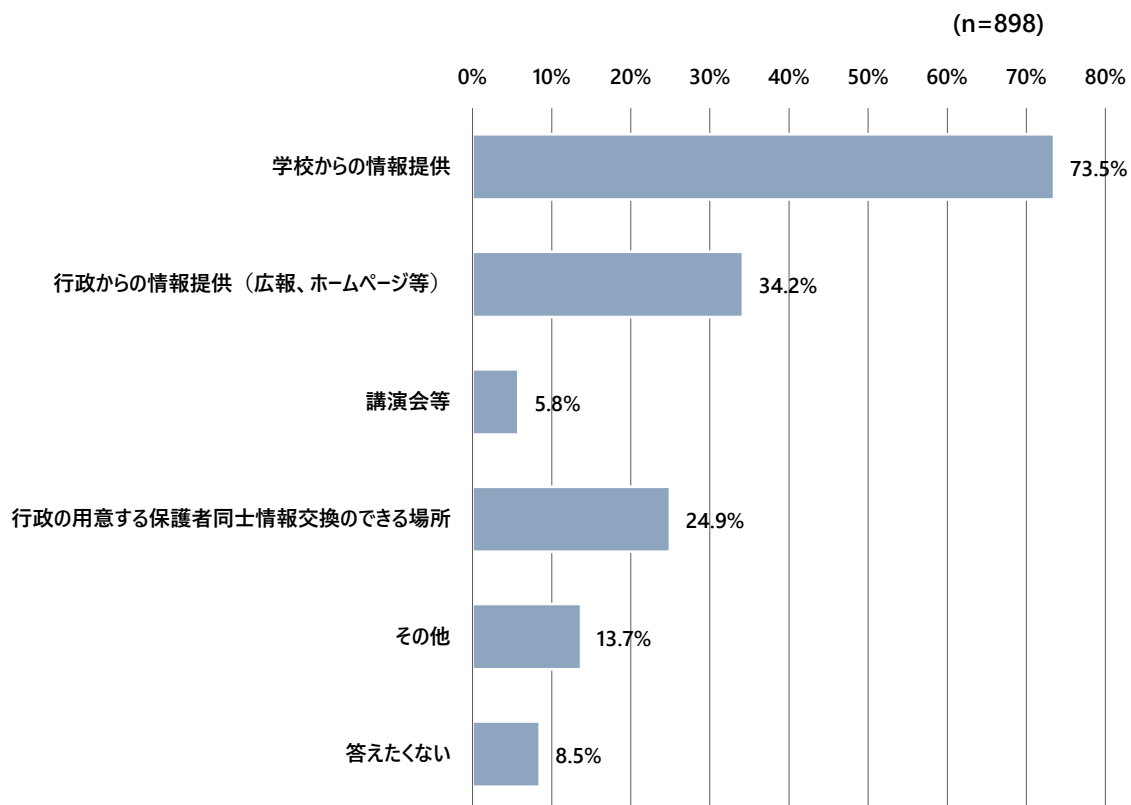


(22)もっと早く支援機関を利用するための働きかけや施策

①全体

学校を休むようになってから支援機関を利用したと回答した人に、もっと早く支援機関を利用するための働きかけや施策について尋ねたところ、「学校からの情報提供」の割合が最も高く 73.5%である。次いで、「行政からの情報提供（広報、ホームページ等）（34.2%）」、「行政の用意する保護者同士情報交換のできる場所（24.9%）」である。

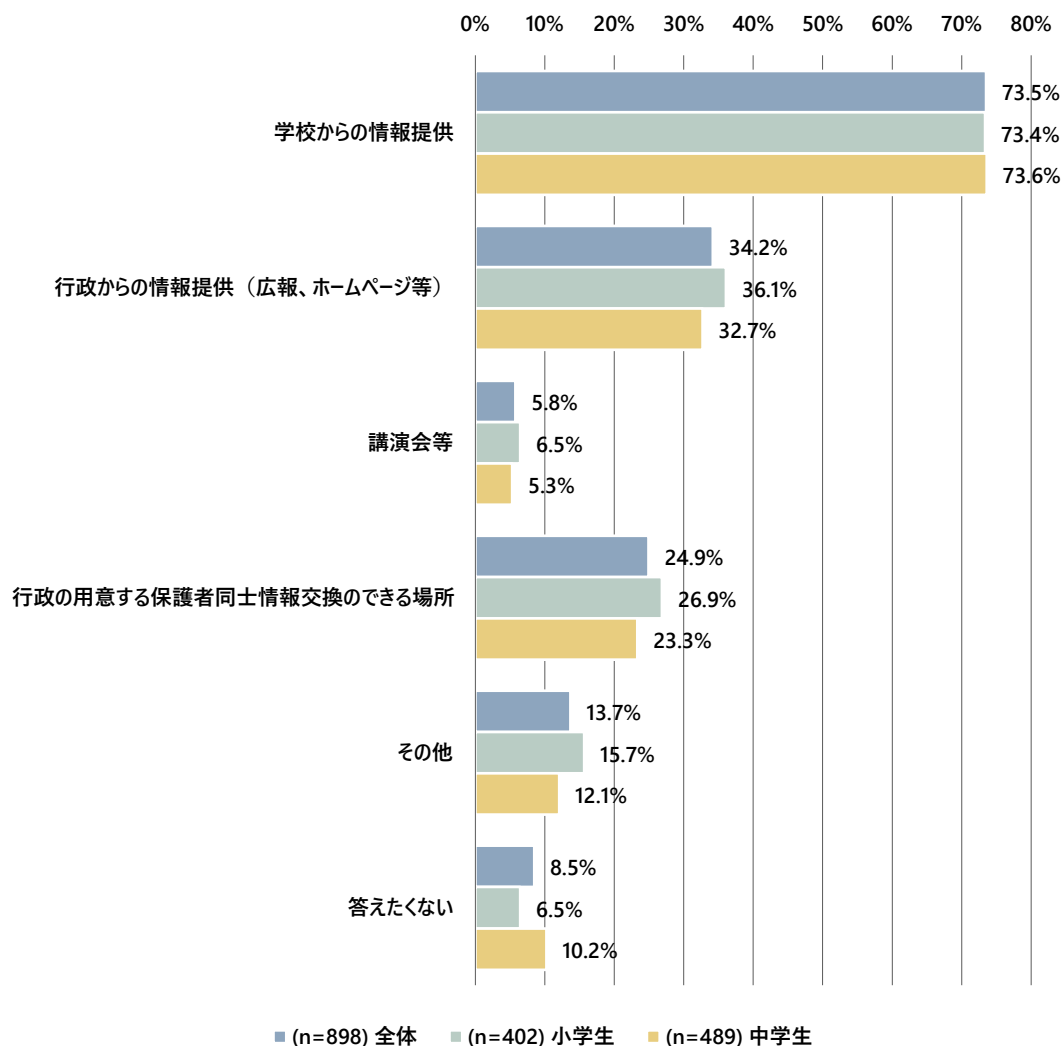
図表 235 もっと早く支援機関を利用するための働きかけや施策



②学校種別

学校種別にみると、特段の傾向の差は見られなかった。

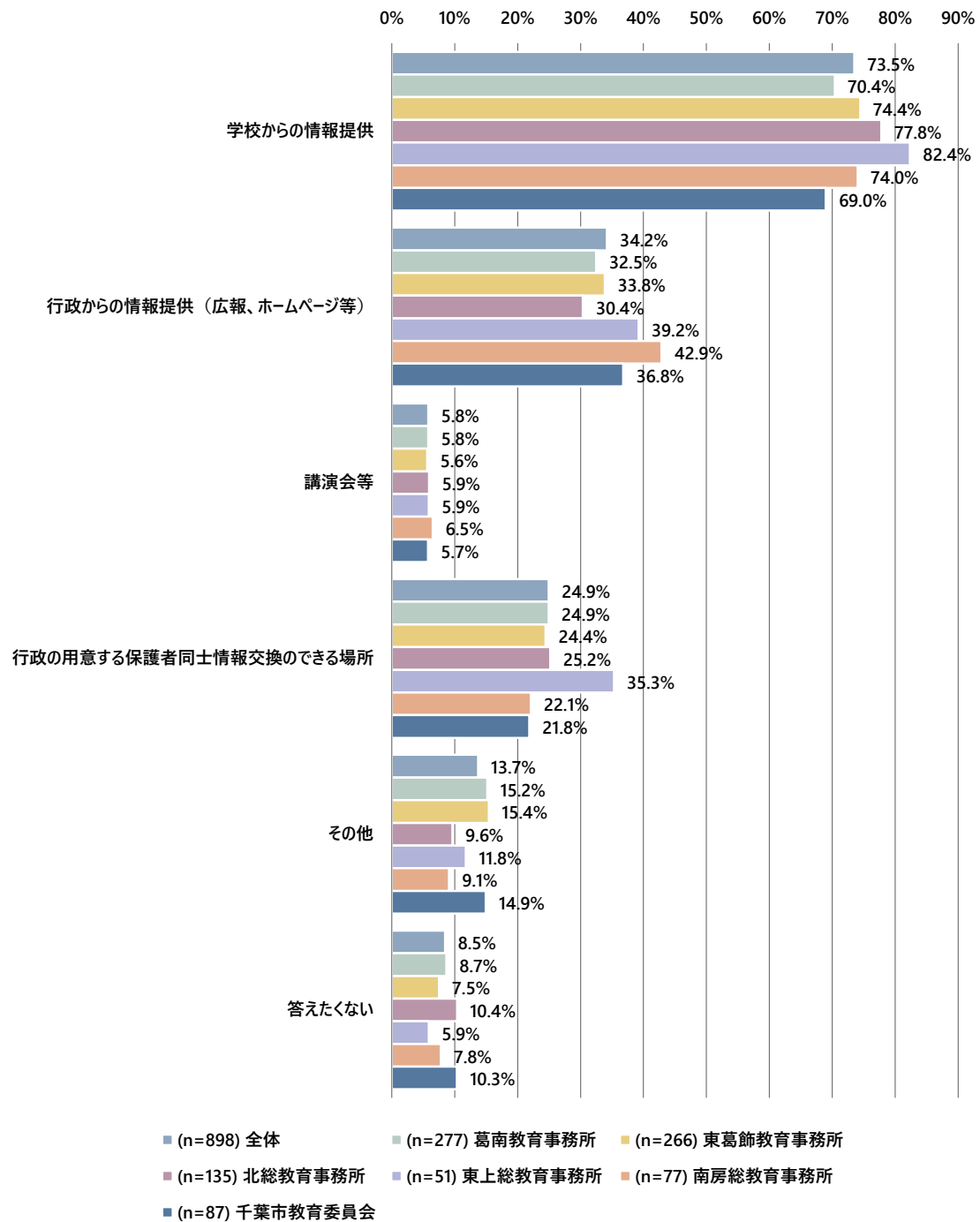
図表 236 もっと早く支援機関を利用するための働きかけや施策(学校種別)



③地域(管轄する教育事務所)別

地域別にみると、特段の傾向の差は見られなかった。

図表 237 もっと早く支援機関を利用するための働きかけや施策(地域別)

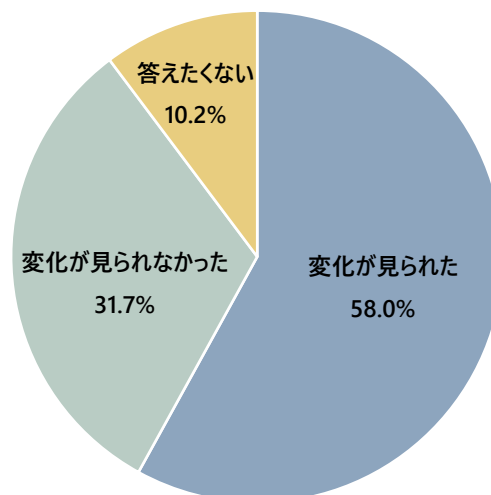


(23) 支援機関を利用し始めてから子供に変化が見られたか

学校を休むようになってから支援機関を利用したと回答した人に、支援機関を利用し始めてから子供に変化が見られたかについて尋ねたところ、「変化が見られた」の割合が58.0%である。次いで、「変化が見られなかった (31.7%)」、「答えたくない (10.2%)」である。

図表 238 支援機関を利用し始めてから子供に変化が見られたか

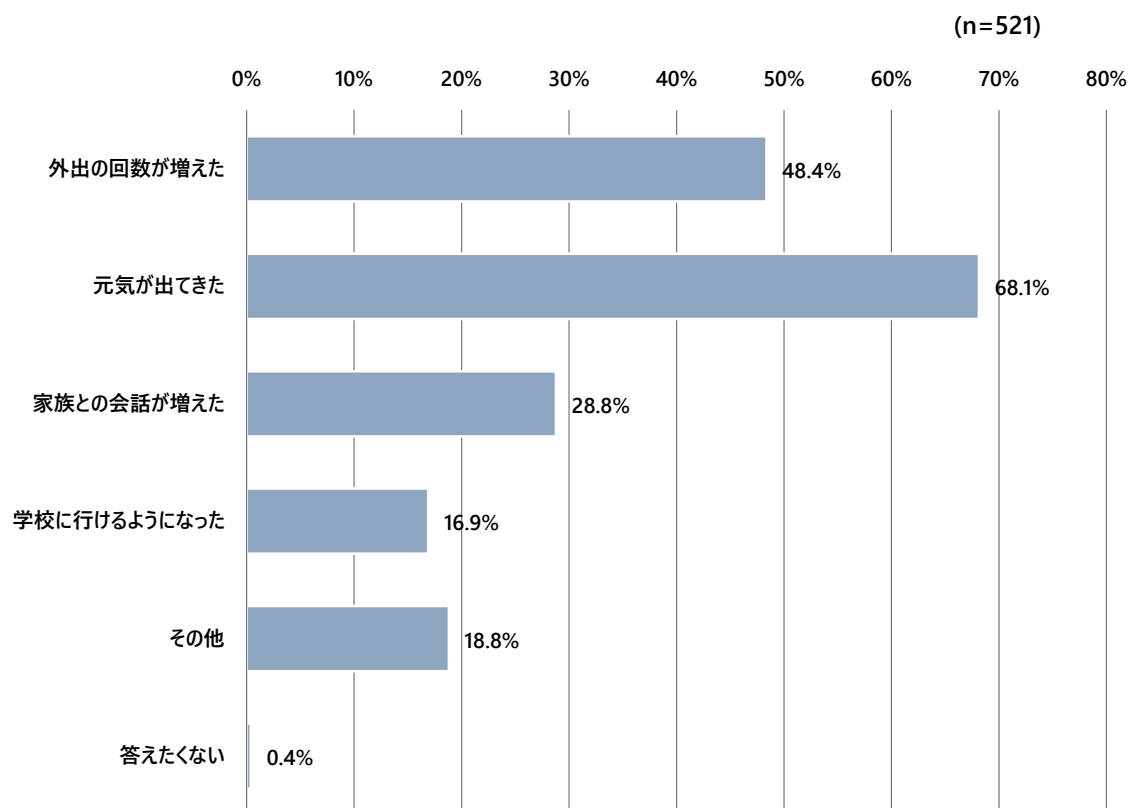
(n=898)



(24) 子供の変化の具体的な内容

学校を休むようになってから支援機関を利用して子供の変化が見られたと回答した人に、子供の変化の具体的な内容について尋ねたところ、「元気が出てきた」の割合が最も高く68.1%である。次いで、「外出の回数が増えた(48.4%)」、「家族との会話が増えた(28.8%)」である。

図表 239 子供の変化の具体的な内容

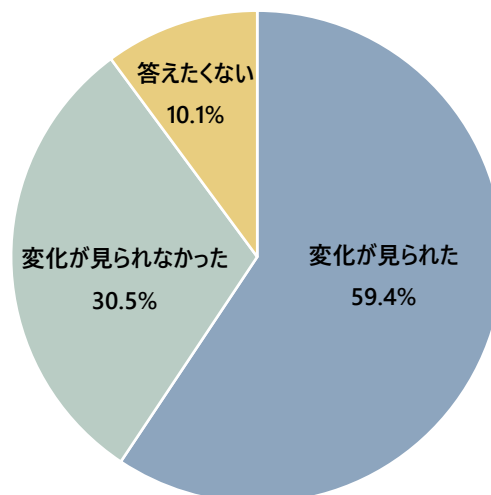


(25)支援機関を利用し始めてから家族に変化は見られたか

学校を休むようになってから支援機関を利用したと回答した人に、支援機関を利用し始めてから家族に変化は見られたかについて尋ねたところ、「変化が見られた」の割合が59.4%である。次いで、「変化が見られなかった（30.5）」、「答えたくない（10.1%）」である。

図表 240 支援機関を利用し始めてから家族に変化は見られたか

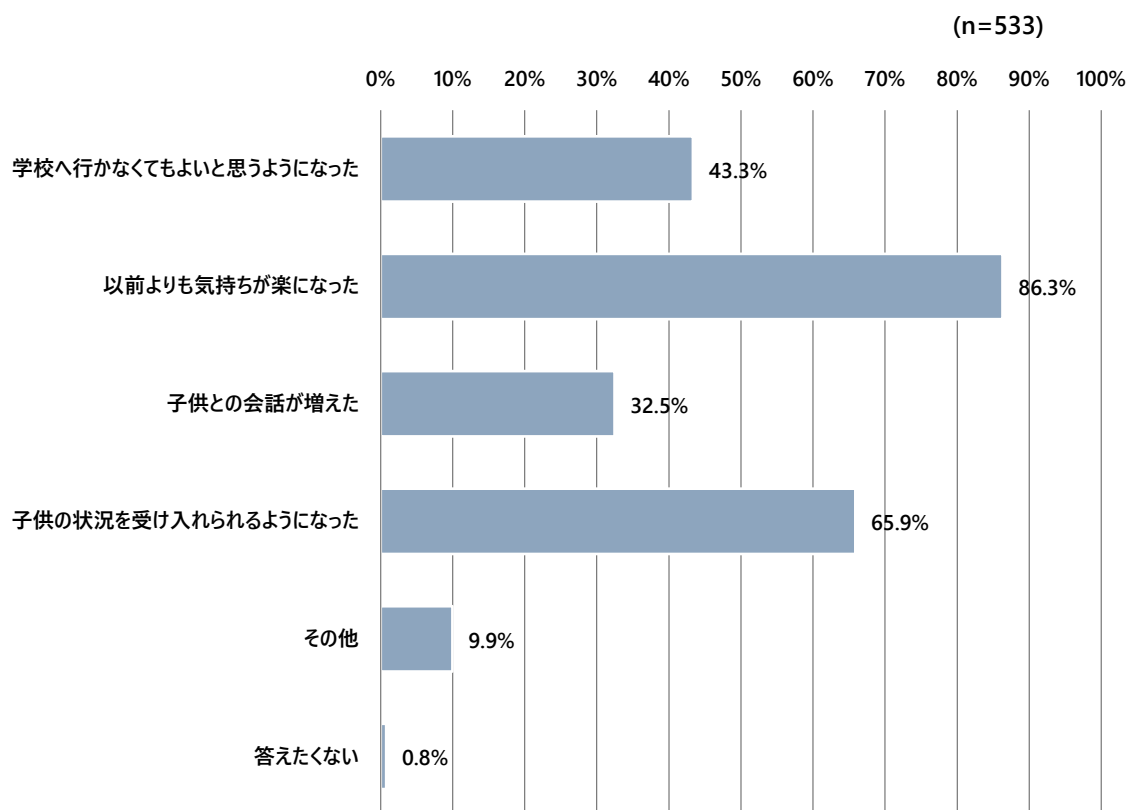
(n=898)



(26)家族の変化の具体的な内容

学校を休むようになってから支援機関を利用して家族の変化が見られたと回答した人に、家族の変化の具体的な内容について尋ねたところ、「以前よりも気持ちが楽になった」の割合が最も高く 86.3%である。次いで、「子供の状況を受け入れられるようになった (65.9%)」、「学校へ行かなくてもよいと思うようになった (43.3%)」である。

図表 241 家族の変化の具体的な内容

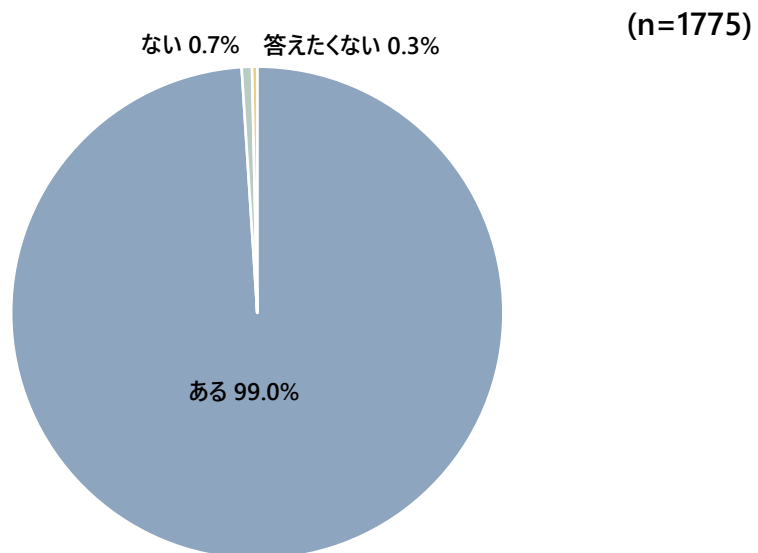


■ICT 環境・活用状況

(27)自宅のインターネット環境(Wi-Fi 環境)

自宅のインターネット環境 (Wi-Fi 環境) について尋ねたところ、ほぼすべての家庭 (99.0%) が「ある」と回答しており、「ない (0.7%)」、「答えたくない (0.3%)」はわずかである。

図表 242 自宅のインターネット環境(Wi-Fi 環境)

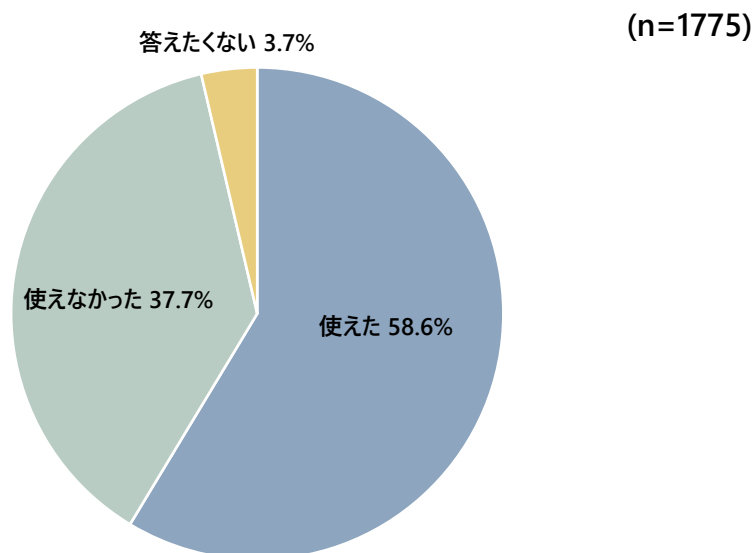


(28)学校を休んでいる間、学校で配付する一人一台端末を自宅で使うことができたか

①全体

学校を休んでいる間、学校で配付する一人一台端末を自宅で使うことができたかについて尋ねたところ、「使えた」の割合は58.6%であり、「使えなかった」の割合が37.7%である。

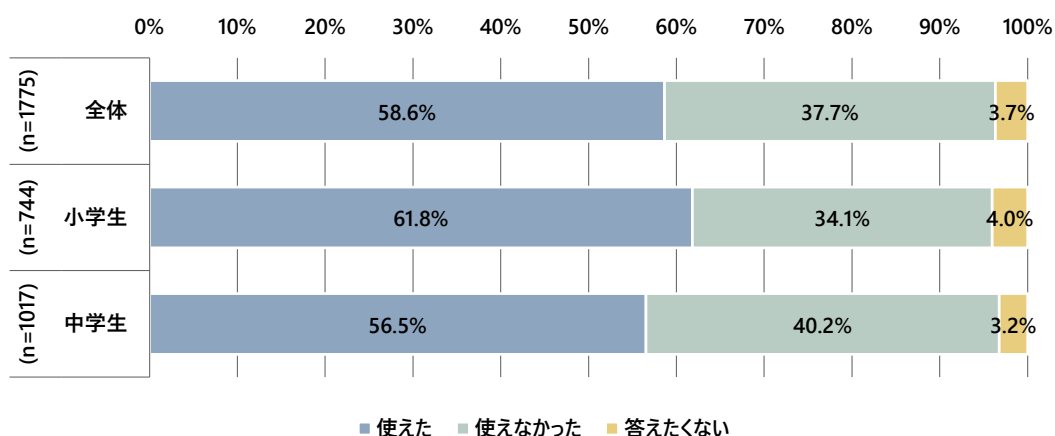
図表 243 学校を休んでいる間、学校で配付する一人一台端末を自宅で使うことができたか



②学校種別

学校種別にみると、小学生において「使えた」の回答割合が高い傾向がある。

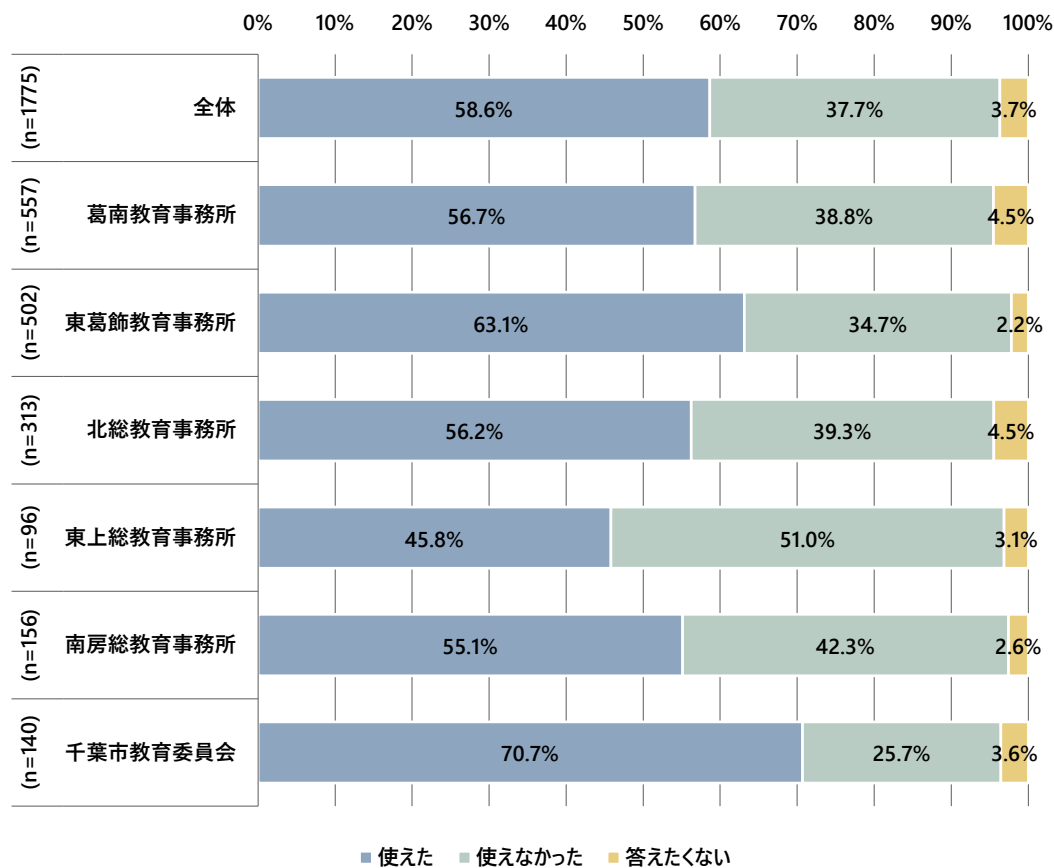
図表 244 学校を休んでいる間、学校で配付する一人一台端末を自宅で使うことができたか(学校種別)



③地域(管轄する教育事務所)別

地域別にみると、東上総教育事務所管轄地域において、相対的に「使えた」の回答割合が低くなっている。

図表 245 学校を休んでいる間、学校で配付する一人一台端末を自宅で使うことができたか(地域別)



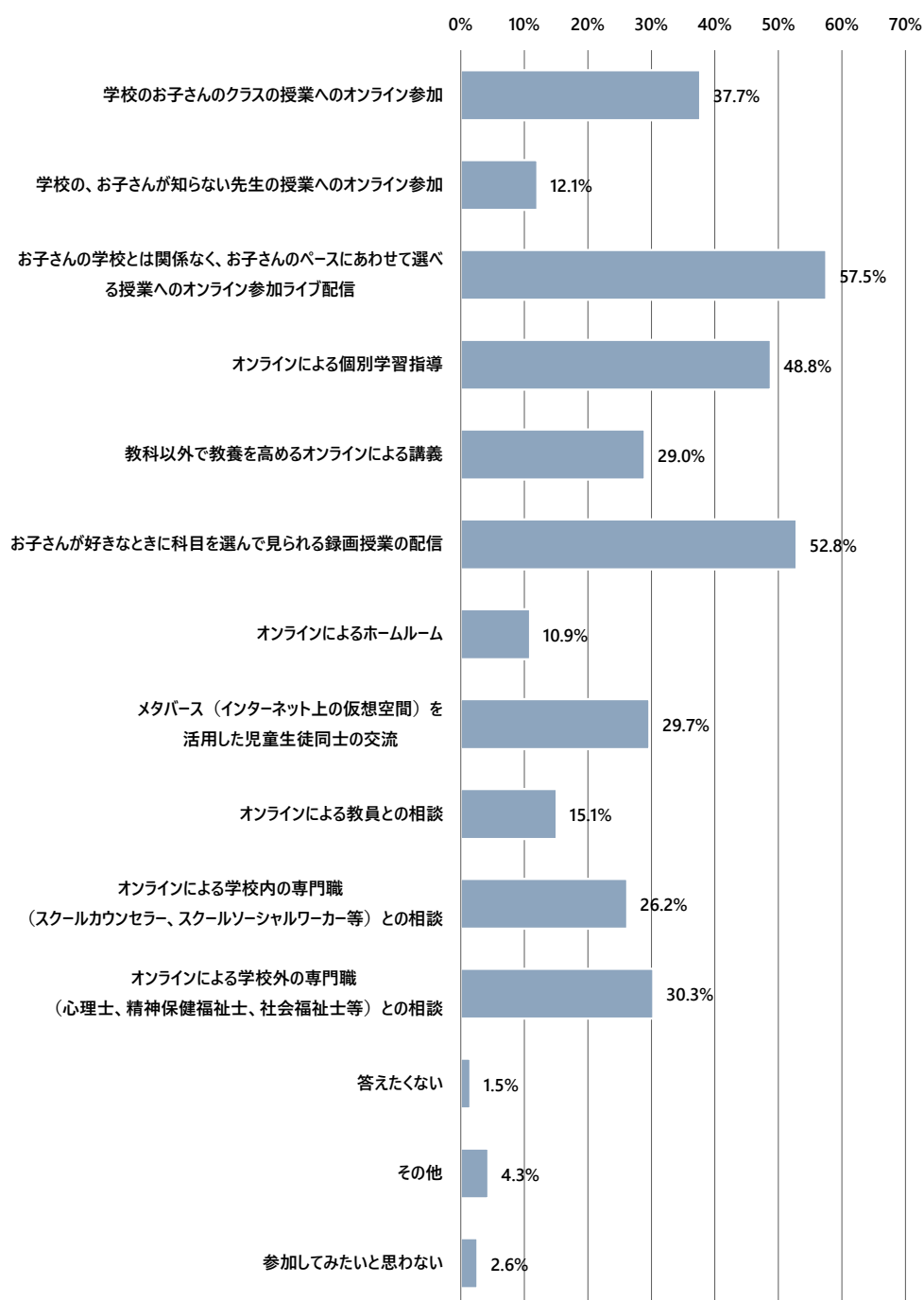
(29)学校を休んでいる間、インターネットでどのようなことに参加させたいか

①全体

学校を休んでいる間、インターネットでどのようなことに参加させたいかについて尋ねたところ、「お子さんの学校とは関係なく、お子さんのペースにあわせて選べる授業へのオンライン参加ライブ配信」の割合が最も高く 57.5%である。次いで、「お子さんが好きなときに科目を選んで見られる録画授業の配信 (52.8%)」、「オンラインによる個別学習指導 (48.8%)」である。

図表 246 学校を休んでいる間、インターネットでどのようなことに参加させたいか

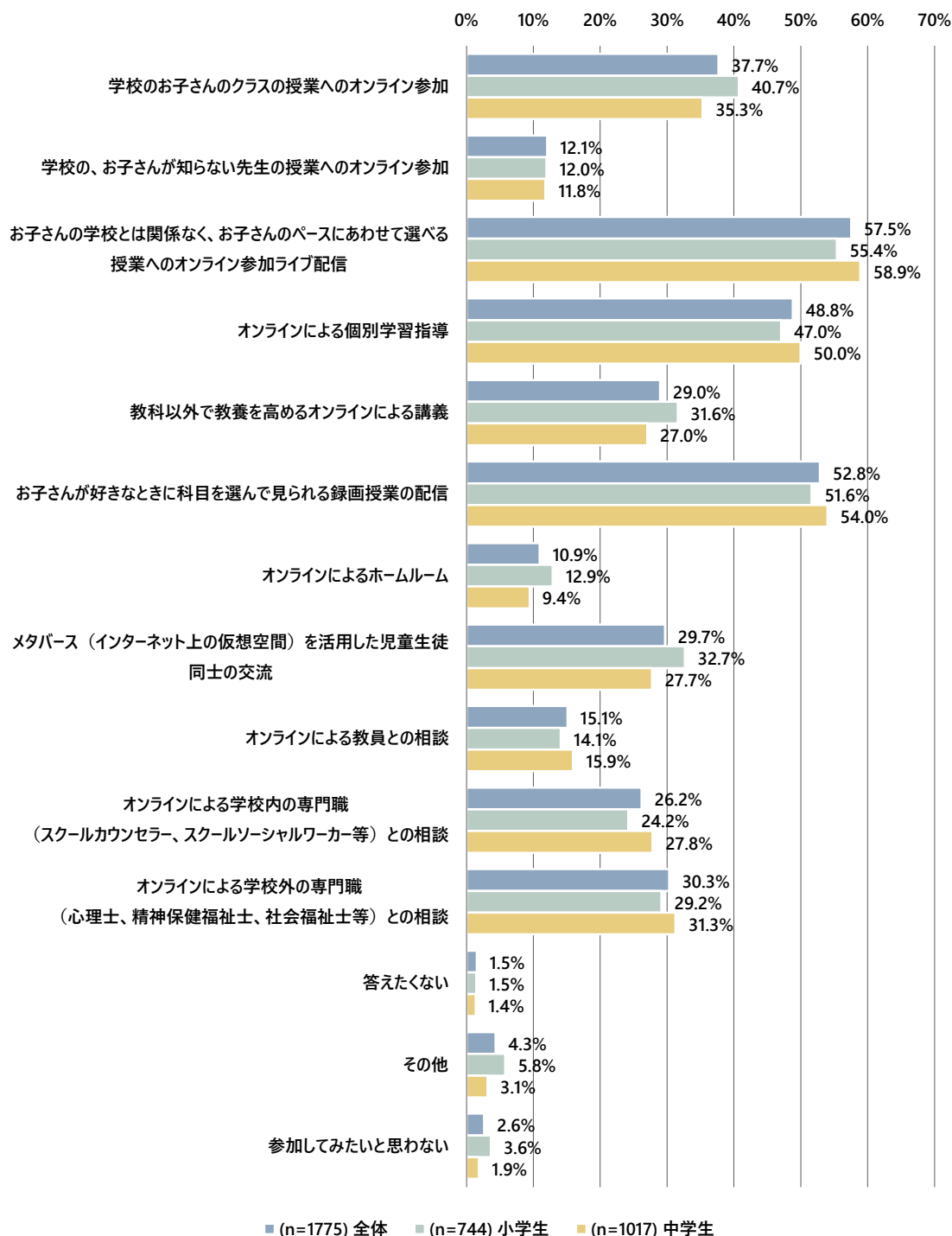
(n=1775)



②学校種別

学校種別にみると、特段の傾向の差は見られなかった。

図表 247 学校を休んでいる間、インターネットでどのようなことに参加させたいか(学校種別)



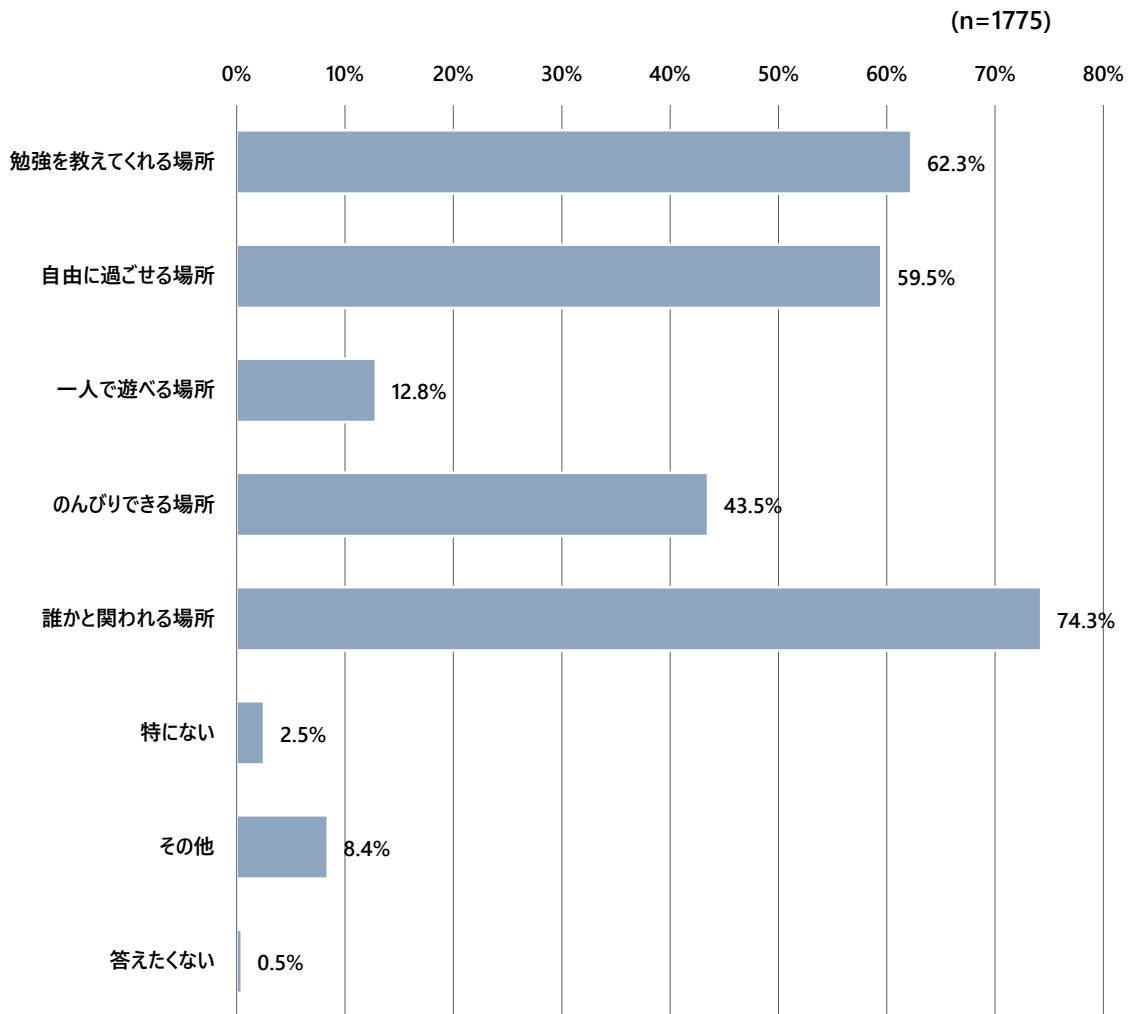
■必要な相談、支援等

(30)学校を休んでいる時、どのような場所で過ごさせたいか(自宅以外)

①全体

自宅以外で学校を休んでいる時、子供をどのような場所で過ごさせたいかについて尋ねたところ、「誰かと関われる場所」の割合が最も高く 74.3%である。次いで、「勉強を教えてくれる場所 (62.3%)」、「自由に過ごせる場所 (59.5%)」である。

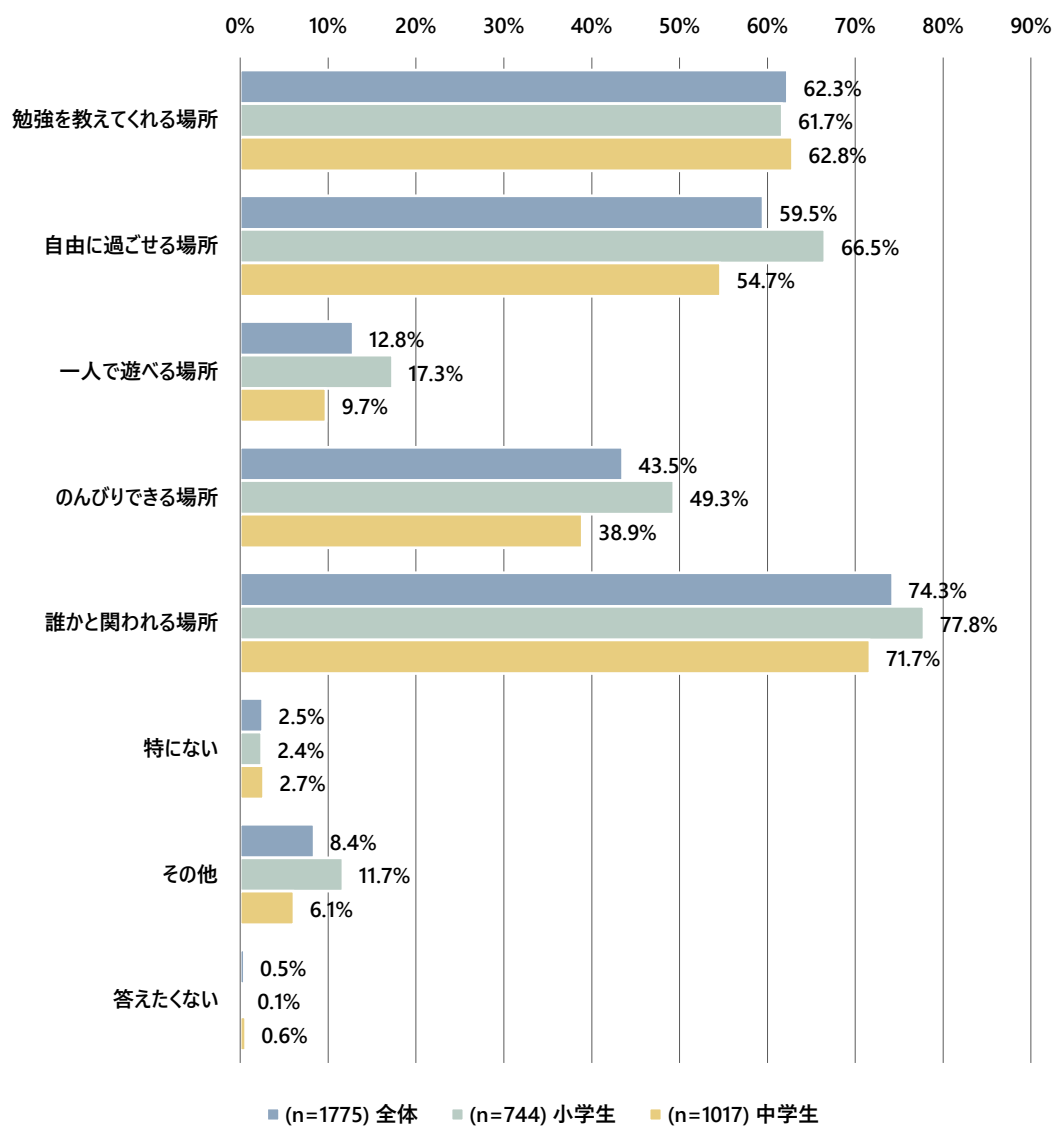
図表 248 学校を休んでいる時、どのような場所で過ごさせたいか(自宅以外)



②学校種別

学校種別にみると、小学生において「自由に過ごせる場所」「のんびりできる場所」の回答割合が高い傾向がある。

図表 249 学校を休んでいる時、どのような場所で過ごさせたいか(自宅以外)(学校種別)

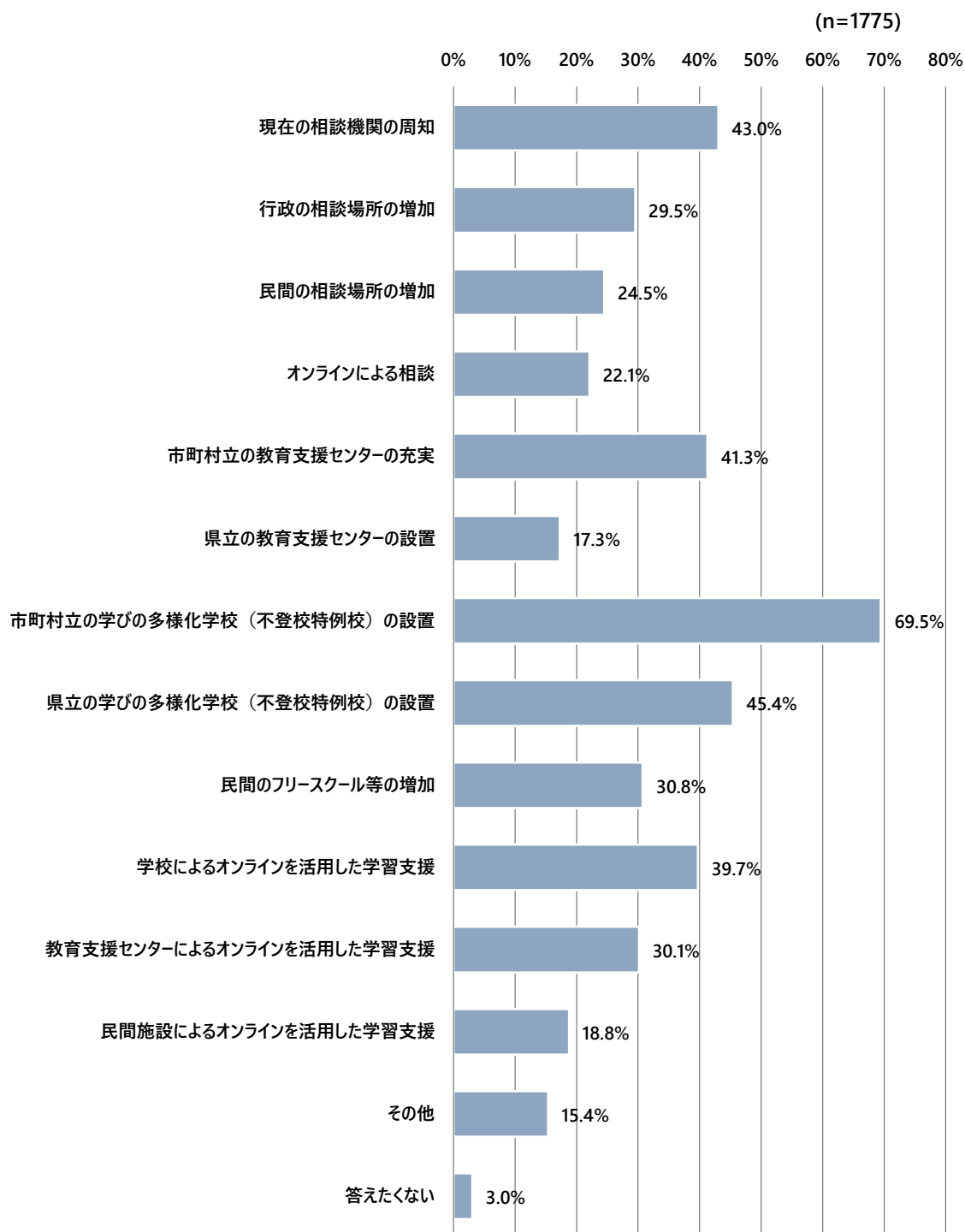


(31)不登校児童生徒への支援において、今後どのような取組が必要だと思うか

①全体

不登校児童生徒への支援において、今後どのような取組が必要だと思うかについて尋ねたところ、「市町村立の学びの多様化学校（不登校特例校）の設置」の割合が最も高く69.5%である。次いで、「県立の学びの多様化学校（不登校特例校）の設置（45.4%）」、「現在の相談機関の周知（43.0%）」である。

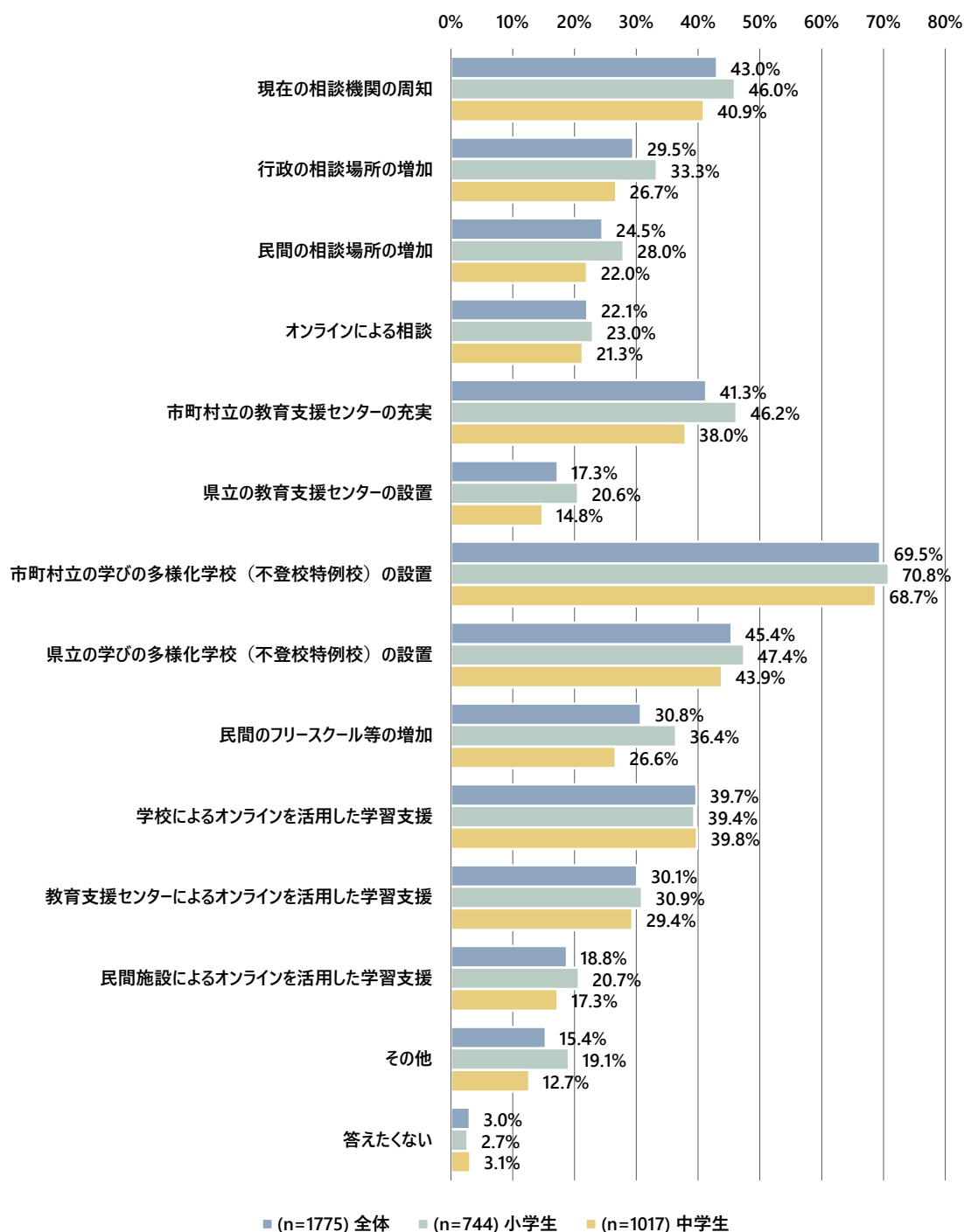
図表 250 不登校児童生徒への支援において、今後どのような取組が必要だと思うか



②学校種別

学校種別にみると、小学生において「現在の相談機関の周知」「行政の相談場所の増加」「民間の相談場所の増加」「市町村立の教育支援センターの充実」「民間のフリースクールの増加」等の回答割合が高い傾向がある。

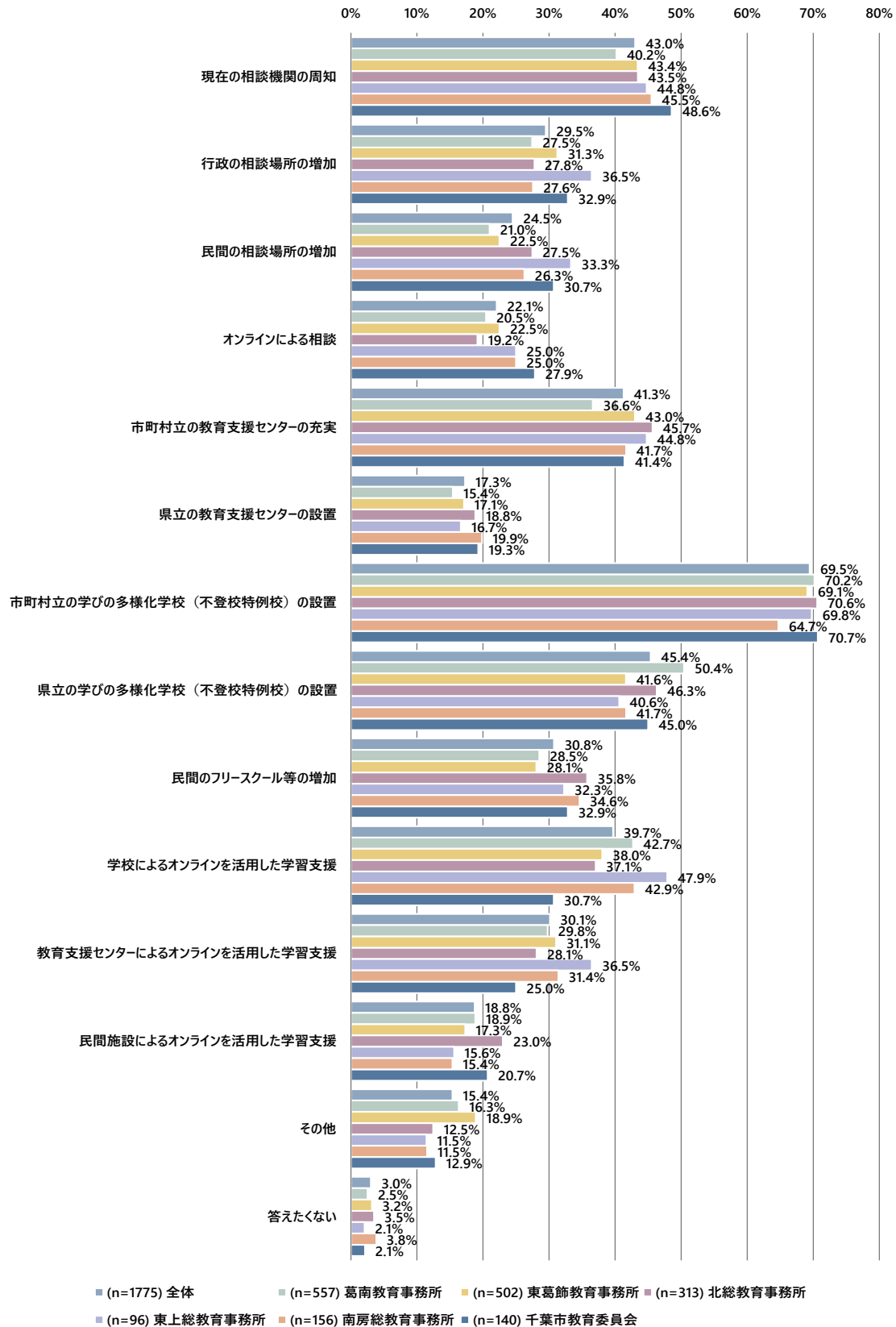
図表 251 登校児童生徒への支援において、今後どのような取組が必要だと思うか(学校種別)



③地域(管轄する教育事務所)別

地域別にみると、特段の傾向の差は見られなかった。

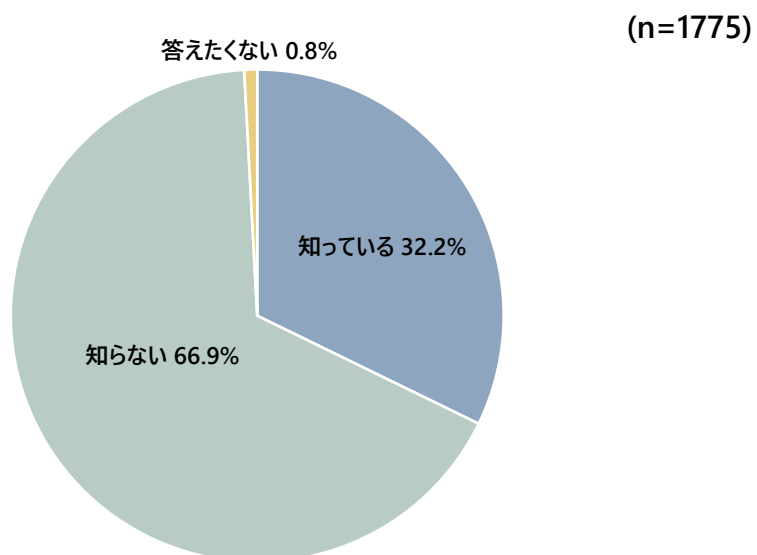
図表 252 登校児童生徒への支援において、今後どのような取組が必要だと思うか(地域別)



(32)千葉県教育委員会作成「不登校児童生徒・保護者のためのサポートガイド」の認知度

千葉県教育委員会作成「不登校児童生徒・保護者のためのサポートガイド」を知っているかについて尋ねたところ、「知らない」の割合が66.9%、「知っている」の割合が32.3%であった。

図表 253 千葉県教育委員会作成「不登校児童生徒・保護者のためのサポートガイド」の認知度



(33)不登校児童生徒への支援に関する自由意見

不登校児童生徒への支援に関するご意見について尋ねた。以下、自由記述のうち、一部を抜粋して掲載している。

①保護者や家庭への支援が欲しい

- ・ 不登校児の親の集う、相談や話が聞ける場所があったり、子供が学校や自宅以外で気兼ねなく行ける場所があると本当に助かります。
- ・ 子供が何を考えているのか分からなくなり、親は不安になるばかり。家庭は子供にとって安心できる場所でありたいと思いつつも、真逆な行動をしてしまい悪循環になってしまいました。子供を追い詰めないためにも子供への支援だけでなく、親への支援も大切かと思えます。
- ・ 発達特性による人間関係を築く事の難しさや独特なこだわり、五感の過敏など子供本人ですらどうしたらいいかわからない問題をどうしてあげたらいいのか保護者の立場からみても正解がわからないので専門の方などに気軽に相談できる環境を作って頂きたいです。
- ・ 不登校になる前から、子供に対する対応や支援場所、相談機関を知る機会があれば知っておきたかった。不登校当初は親子共々かなり精神的にきつく絶望感でいっぱいでした。保護者へのサポートもとても重要だと思います。保護者の不安や苦しさを軽減することが、不登校児童生徒への不安軽減につながると思います。そして、それが自立へと向かう力につながると思うので、家庭へのサポートにも力を入れていただけるとありがたいです。
- ・ 保護者同士の交流がないので、そういう機会を行政が作ってくれたらありがたいと思います。保護者が悩みをシェアする事で元気になれば、子供も元気になります。現在はそのような機会が無いので、自分でやっています。

②学校や教師の不登校に対する理解の向上

- ・ 入学翌日から登校を拒否している息子ですが、スクールカウンセラーさんや学校の先生が、無理強いすることなく、本人のペースで関わってくださっていることで、母子共にプレッシャーを感じず、学校という場への拒否感をもつこともなく過ごせています。一方で、フリースクール等で関わる他の保護者からは、学校の先生の関わりがプレッシャーになっていたり、理解を得られないというお話も聞きます。いろんな状況や個々の特性、事情なども含め、子供たちへの理解を深め、一人一人の子供たちに合わせて関わってくださる先生が増えることを願っています。
- ・ 学校の先生方が不登校に対する知識、対応力がない。軽度発達障害、HSP等の知識が一切なく、対応に疑問を抱くことが多い。
- ・ 起立性調節障害への理解が学校も病院もない。「気の持ちよう」と言われて、親も子も疲弊している。
- ・ 不登校の子供には、個々に悩みがあると思っています。学校の担任の先生には、大変

よくしていただいているとは思いますが、不登校児の対応には慣れていないと感じる時が多いです。可能であれば、子供の特性に応じた対応ができる先生に対応していただき、子供と対話してもらいたいです。

③スクールカウンセラーの配置充実/専門知識の向上に努めてほしい

- ・ スクールカウンセラーが配置されますが、時間を決めて、その時間に行くのは不登校児には、難しい。行った時に話を聞いてもらえるだけでもありがたいと思います。
- ・ スクールカウンセラーの先生も月に2回巡回してくるのみで、なかなか利用できなかったのも、各学校に常勤のカウンセラーを配置してほしいです。
- ・ スクールカウンセラーの来校回数の増加と質の向上。小学校は月1回、中学校は週1回。教室以外にいつでも通える場所がほしい。カウンセラーの質の差が大きい。最初のカウンセラーに攻められる様な発言をされた経験があるため足が遠のいていたが、その後に来られたカウンセラーは経験豊富で子供の心理について良く勉強されている先生だった。

④学校以外の居場所(フリースクール等)を増やしてほしい

- ・ 学校へ行きたくない理由はそれぞれあると思うので、学校側の対応や他に頼れる場所や勉強ができる場所などがたくさん増えるといい。
- ・ 学校以外の、学びの場所(机に座って行う勉強以外の)があると良い。個性を認めてくれる場所。
- ・ 市内の適応指導教室は1つだけで、遠いに行くのが大変。児童ホームなどを不登校の子が利用できるようにしたら家以外の居場所ができるのではないかと思う。
- ・ 各市町村に公のフリースクールを設置してほしい。先生たちも学校へ復帰させるのが目標みたいな考え方をやめてもらいたい。
- ・ 低学年を受け入れてくれるフリースクールがないので、家以外で安心できる大人と関われる場所が欲しいです。
- ・ 1年半市の適応指導教室に通ってます。自宅から近いので通えますが通いたくても遠くて通えない子も居るので増やしてほしいです。

⑤オンラインでの学習やコミュニケーションの機会を増やしてほしい

- ・ タブレットが支給されているのに、連絡やプリントが一方向的にくるのを確認するのみのため、双方向のコミュニケーションや学習に利用できるような運用体制を整えて欲しいと思いました。また、オンライン登校でも、実際に登校している子と同等の評価基準で学習評価して貰える仕組み、カリキュラムなどができると、骨折等で登校が難しかったり、天候等で登校が難しい時に登校、不登校の選択肢が広がるとよいと思います。
- ・ フリースクールがあれば通いたいが、遠くて利用できない。送り迎えは片親なのでできない。もし近くにあったら、現在の引きこもり状態にはならなかったと思う。せめ

て、オンラインでの授業があればと思います。

- ・ 学校でのオンライン授業対応には限界がありますし担任の先生も大変です。やはり県や市でのオンライン対応による支援、費用の補助等が今後必要と思います。メタバースによるオンライン学校などはうちの子供も非常に興味を持っています。
- ・ 学習面での不安が大きいです。自宅で学習できるシステムを早急に検討して頂きたいです。民間の施設や塾等あってもひとり親家庭である為、経済的にかなり厳しく利用できないというのが現実です。学校の授業の一環としてオンラインで授業やテストを受けることができれば助かります。
- ・ 起立性調節障害と診断されたことあり。午前中は調子が悪く、15時過ぎから動けるようになる。そのため学校を欠席。PCI 人一台配布されているので先生の負担になるが、可能なら授業を録画していつでも見れるようにしたらいいかもしれない。

⑥公的資金のサポートが欲しい

- ・ フリースクールへの金銭的援助があると助かります。
- ・ 低学年の子供の不登校は、親が働けなくなり収入が減る上、食費や光熱費など自宅にいる分支出が増え、さらに相談にも時間とお金がかかります。また、フリースクールはとにかくお金も送迎の手間もかかります。利用料に対する補助が、スクールではなく保護者に入ると、前向きな検討ができると思います。
- ・ フリースクールの助成金がほしいです。兄妹で不登校で、兄はフリースクールに通っているが、お金が高くて払えなくて、妹はフリースクールに通わせられない。
- ・ シングルマザーで、子供は不登校。学校へ行けば給食代は無償で助かるが、家にいる為お昼代が掛かってしまう為食費の負担が辛い。

⑦出席扱いの柔軟な取り扱い

- ・ 出席日数が確保できる支援がほしい。
- ・ プリントなどの課題は提出しておりますが、自宅でのオンラインでの授業参加が出席扱いにならないことについて、疑問を感じます。
- ・ 学習面の遅れが一番心配なので、オンラインまたは録画で学校の授業を見られる事を望みます。高校進学に向けて、出席日数も心配な為、出席扱いになる方法が選択肢として増えるといいです。
- ・ 今年高校受験ですが、民間のオンライン学習などが出席日数に加算される制度があるなど、知らない情報があることがわかり、もう少し早くに知ることができていれば対処のしようがあったのではないかと残念に思います。
- ・ 実技(音楽、体育、家庭科など)を個別で受けさせてもらえるようにしてほしいです。結果、評価につながり進路に悩むことも少なくなるかと思いました。通信制中学校や、不登校特例校が千葉県にもあってほしいです。